部報

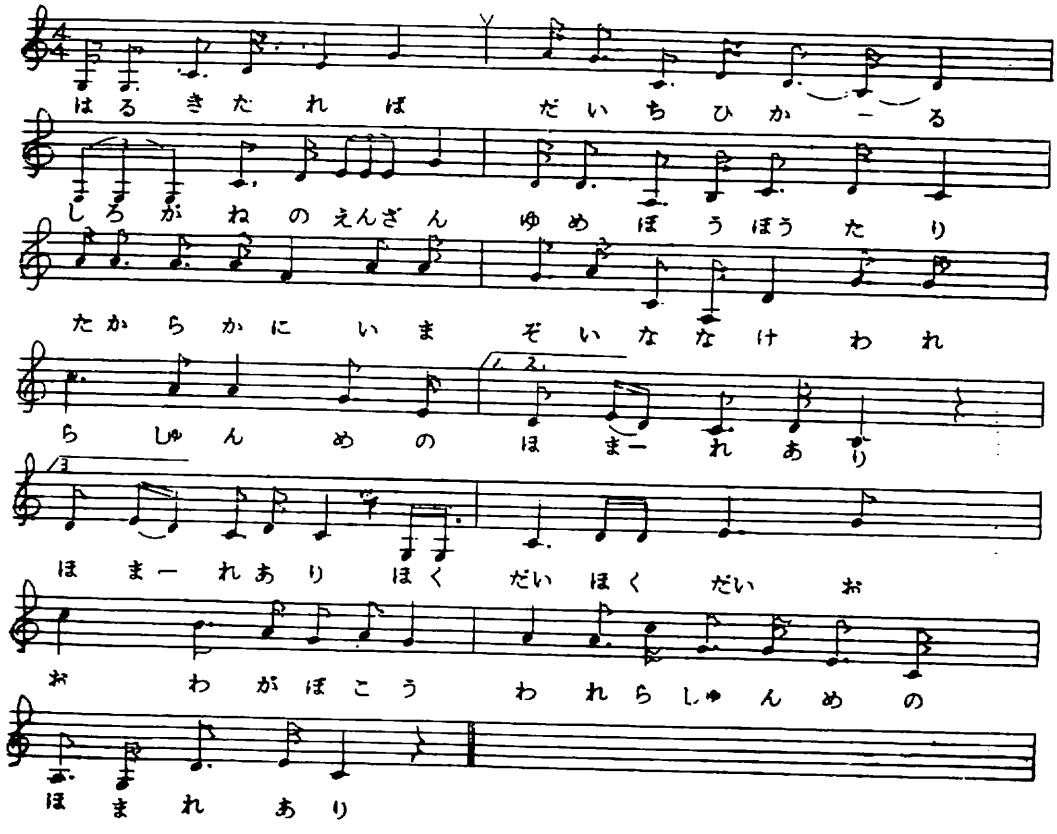
昭和五十二年度

No.23

北大馬術部

北大馬術部讃歌

作詩　三浦清一郎
作曲　滝沢南海雄



北大馬術部讃歌

一、

春来たれば、大地光る
銀の遠山、夢茫々たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

二、

時来たれば　旗をかざせ
青雲の旅路に　意気軒昂たり
高らかに　今ぞ嘶け！
われら駿馬のほまれあり

三、

雲流れて　旅路遙か
青春の孤杖　泥濘はばめど
凛然と　進みて行かむ
駿馬のほまれあるかぎり

北大！　北大！　おゝ我が母校
われら駿馬のほまれあり

痛いほどに
冷たい雪でさえ
じっと
握れば融けるように

全てを
包み込む温もりが
弛まぬ
生命の息吹きには
ある。

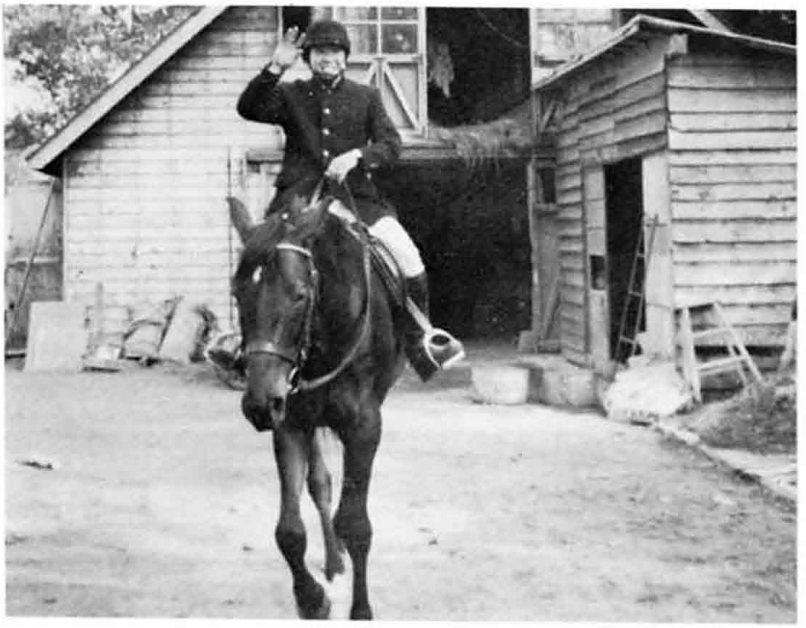
日本馬術連盟及び全日本学生馬術連盟より優秀馬に選ばれたスターライト号と長屋兄、なお、長屋兄は、札幌市民スポーツ賞を授賞しました。

日本馬術連盟より優秀馬に選ばれた
ドンホッパー号と山本兄（全日本）

疾風号と本城兄

スターライト号と笠間姉

北燕号と矢田兄



ドンホッパー号と半浦兄

北姫号と山川姉

時計台除幕式

北稜号離廠式

1年目日高合宿

巻頭言

部長　小池壽男

馬術部の部長を前部長の河田先生から引継いでやがて一年を経ようとしている。従前から学生の課外活動には全く無関心だったこともあり、馬術部の活動についても全く知らず、この一年間、関心の方々には御迷惑のかけどうしであり、部員の諸君に対してもなすところなく過ごしたといえる。それにもかかわらず、部の活動は活気があり、全日本学生馬術大会の障碍の部の個人優勝、個体二位をはじめとして好成積を残してくれたことは、長年にわたる努力の蓄積と部員の精進の結果といえる。

私の専攻が家畜外科学であり、家畜外科患畜治療もその一分野であることから、馬術部の馬の故障を診る機会も多く、毎年どの時期にどのような外傷があるかは永年のつきあいでほぼ承知している。その点から昨年一年間の部馬の病気をみると、例年以上に外科病が多く、とくに繋靱帯炎と骨瘤が見立ったが、これは例年の前肢筋疾患が多かったのと若干異った様相を示した。一般に前肢筋肉特に肩から頸の筋肉痛は乗禦法の不備によることが多く、繋靱帯炎や趾骨瘤は馬場の状態や使役過度による。このことから昨年の部馬の場合、一般論としては乗禦法は向上したが使役法に一考を要することを示している。

本年は午年にあたり、馬の年に擬せられ、天馬空をゆくとか、飛躍の年とかいわれているが、このような考え方を部活動にとり入れると、昨年の成績にあおられて、無理がかかるおそれもある。前述の部馬の障害発生状況からも、今年はむしろ馬を大切により合理的な練習法を組立て、人馬ともに故障のないよい状況を作り出すことが必要である。

一方部運営においては、後継馬の育成、経常出支の合理化、クラブ活動の限界、さらに技術面では先般の祝勝会において指摘された馬場馬術技術の向上など緊急に解決しなくてはならない問題点をかかえている。これらの点を考えると一面では今年は昨年以上に多難な年ともいえる。部長として二年目を迎えるに当ってこれらの難問にどの程度部員の力になれるか不安である。

年頭に当って、不安材料の提供をしたような文になってしまったが、今年は前述の諸問題を少しでも解決の緒につくような方向に向うよう部員諸君の活躍と協力を願うとともに、後援会や先輩の方々の一層の御鞭達と御助力をお願する次第である。

（昭和五十三年一月）

馬歴五十年

半沢道郎

私が北大予科に入学した翌年の昭和三年一月に、馬術部の前身である北大乗馬会に入会して、当時月寒に駐屯していた陸軍歩兵第二十五連隊の軍馬に初めて乗ってから、今年の一月で満五十年を迎えた。私の今までの人生の約七分の五に相当する。実に感慨無量である。

昭和四十八年度の部報に私と馬との付合について駄文が載せられているが、五十年前に小学生の頃からの念願が叶って、初めてこれから馬に乗るというので月寒の連隊の厩舎に入った瞬間の満足と緊張と不安の複雑な気持は今でも忘れられない思いである。

予科時代の二年三ヶ月間は北大乗馬会の会員として、学部に入った昭和五年からは自分達で創設した文武会馬術部員として、昭和八年卒業してからは大学に残ったので学内ＯＢとして部の顧問役を続け、昭和三十七年の秋から昭和四十八年四月北大を定年で退職するまでの十年間は馬術部の顧問教官（部長）として部と共に過ごして来た。馬術部以外にも短期間、札幌愛馬会の会員になったり、北大の職員のリクリエーション団体の一つとして北大乗馬同好会を結成して、退職するまで会長を勤めたり、昭和二十九年に第九回国民体育大会が本道で開催されることとなり、その馬術競技を実施するための必要に迫られて、二十八年に結成された北海道乗馬連盟の理事や副会長に選ばれ、現在は副会長兼理事長の大役を仰せ付かり、そのお蔭で日本馬術連盟の理事となり、年に数回開かれる理事会に出席するほか、国体担当ということで国体委員会や国体に出かけたり、その他日馬連の小委員会の委員を委嘱され度々上京することで、結構多忙である。道乗馬連盟主催の競技会にも出来るだけ顔を出すようにしているが、会長代理の開会、閉会の挨拶や表彰には閉口している。

昭和四十八年今は故人となられた当時の札幌競馬場長であった西村勤氏の提称で設立された札幌楽馬会の会長もお引受けしているが、この会のお蔭で今でも楽しく馬術の修行をさせて頂いている。全くお役に立たないで終ったことで、私の五十年の思い出の中で悪夢のような出来事は札幌乗馬倶楽部に入会し会長に就任し、倶楽部の存立を危くして退会したことである。いろいろなことがあったけれども五十年馬と共に楽しい人生を送ることができたのは実に多くの方々の厚意と協力と援助があり、恵まれた環境に安住することができたからである。それら多くの方々に衷心感謝の誠を捧げる。一人一人お名前を挙げてお礼を申し上げたい気持であるが、今でも親しくお付合下さる北大乗馬会当時の先輩をはじめ、旧陸軍の将校、下士官、調教師の方々、道知事や市長をはじめ道や市の関係部局の方々、道体協、日本馬術連盟、道乗馬連盟、日本中央競馬会、中でも札幌競馬場と馬事公苑の方々、道内の各乗馬団体、北大の本部の学生部、経理部施設部、農場、実験牧場の方々、馬場や厩舎の建設では文部省文化庁の関係の方々、馬術部の歴代部長、ＯＢの諸君、後援会や

同好会の諸兄、競技会の開催に際して援助をして頂いた新聞社や商社の方々、多大の犠牲を払って馬糧の供給を続けて下さった馬糧屋さん、装蹄師さん… 数え上げれば限りがない。帯広畜産大学のOBの方々から本当に厚意溢れる援助を賜わるなど、全く感謝感激です。然し一方にお世話になった初代、第二代、第三代、第五代の部長は既に故人となられ、西村場長、池内、大久保両君のような部のために尽して呉れた友人を失なった寂しさも五十年に暗い重味を加えている。

扨て私の乗馬歴は乗馬会時代と戦前の馬術部時代は土、日を歩兵二十五聯隊の軍馬（主に将校用馬）と騎兵七聯隊の合宿、札幌愛馬会の馬と畜産学科の学生の乗馬練習用に北大の第一農場に飼われていた乗馬に乗った。教えて頂いたのは二十五聯隊では安部、高江両調教師、騎兵隊では将校と下士官の方々、当時騎七に配属されて居られた城戸俊三少佐にも講義と実施を教えて頂いた。軍隊では部班運動と障害飛越、練兵場での編隊行動、不整地騎乗、遠乗偶には遊戯をやった。愛馬会と農場の馬では各個乗りが主でよく外乗をやった。当時の札幌の街路は舗装も少なく車も少なかったので何処でも乗馬で濶歩することができ、警察も無関心であった。畜産の学生が札幌駅の改札口を馬で入ったとか、五番館デパートに入ったとか、銭函から北大厩舎までひつ駈けられて馬房に入るや倒れてしまったとかいう話が残っている。私も農場の「宮武」で二、三度ひどい目に会っている。昭和二十八年に競馬場に翌年の国体用馬が繋養され、その調教の手伝をさせられた。国体が終ってそのうちの六頭が北大の馬術部用馬となったのであるが、その中の「エリザベス」後の「北翠」には一番多く乗せられた。また札幌乗馬倶楽部の馬になった功労馬「洋巻」には競馬場に入厩した最初に乗せられた。部の馬には同好会の会員として始終乗せて貰った。その他道内の競技会に出場したり、日高の実習牧場に部員と合宿して種牡馬や使役馬に乗った。札幌楽馬会ができてからは札幌競馬場の馬に乗せて頂くようになった。帯広の畜大の馬にも集中講義に行った時に乗った。札幌乗馬倶楽部の馬には余り乗らなかった。酪農では二、三度、フロンテアでは度々、馬事公苑では池内君や千葉君と一緒に乗り、アバロンでは一度佐良直美さんの愛馬に乗せて貰った。私は可成り熱心に乗って練習したのであるが、内容は甚だ貧弱で一向に技倆が上達しない。また誠に残念なことに自馬を持ったことが無く、従って全くの新馬の調教の経験がない、競技会に出場した回数も少なく、大きな競技会に出たことも無い、優秀な成績を収めたとは云われない。乗馬家登録はしているもの、本当の乗馬家に入るか何うか、五十年乗ったと云っても正味何年に相当するか、半年アメリカでモルガンホースに乗ったこと位が変って居る。競馬場でオオカリヒメに乗せて貰うようになってから幾分調教的に乗ろうと考えて乗りだしてから、馬術の醍醐味と難かしさが少し解って来たような気がする。パッサージやピヤッフェもできないで羽化登仙の境地を味うことはできないであらうし前途遼遠である。遊佐先生は馬術は修業であり、練磨自得するほかに手段が無いと教えられ、練磨して馬術感覚即ち「コツ」を体得しなければならないと云われるが、その「コツ」は神秘で無辺無窮で一生の精進努力でもなほ足りないと説いて居られる。乗馬を本職とする人が一生努力しても達せられないものが、週に一度か二度乗ったことで到底達することができないのに決まっている。あと何年乗れるか解らないが私はあの愛すべき馬に接し、地上の天国に遊ぶ幸福を味わい乍ら、羽化登仙の境地を目指して死ぬまで馬に乗り、馬術の修行を続けたいと念願している。全く狂気の沙汰と笑われるであろうが、もうそう長いことは無いと思われるので、OB諸兄や部員諸君はもう暫く我慢をして、この老馬狂人と付合って頂き度く、切にお願申上げて筆を擱く。

去り際に

代表　矢田

入部、練習、先輩、冬、日の出、遠征、酒宴
その有機体は毎年十数名の若い命を食らひ、
性に合う、忍耐強い気違いだけを、四年後に吐き出す。
幾多の障害を越えた今日……

カムイ、リヒト、千里馬、ノーザンクロス、北虎、
北秀、北勇、北武、北隼、北稜と、
馬達も去って行った。
殺してしまった馬も、肉になった馬も、
生きて活躍している馬も、その中を通り抜け
雑々惑々たる臭いを残して行った。

苦しみ、悩み、疲れ、笑い、喜びは、
あなたの陣痛なのか。
あなたが生むものは、やはり美しいのか。

今になって漸、解かる。あなたは、何も生みはしない。
あなたは、敢えて自己を知る事を試みさせた。
それだけだ。何も生みはしない。
己を試すだけでせいいっぱいなのは、あなたとて
同じなのだ。

安らぎ、ゆとり??
そんなもの、柩の中に置いておけ！子供たちよ。

目　　次

o巻頭言 …… 部長　小池寿男

o馬歴五十年 …… 第六代部長　半沢道郎

o去り際に …… 代表　矢田明

o役員報告

主将 …… 三年目　三好功悦 …… 1

副将 …… 三年目　岩田正勝 …… 2

主務 …… 三年目　中畠孝幸 …… 2

会計 …… 三年目　木村憲子 …… 3

馬匹 …… 二年目　島村努 …… 6

飼料 …… 二年目　成田慎二 …… 7

馬具備品 …… 二年目　国枚保幸 …… 8

作業 …… 二年目　中島哲彦 …… 8

薬品 …… 二年目　吉田円 …… 8

文化 …… 一年目　石黒直秀 …… 9

一年目　松岡功 …… 9

記録 …… 三年目　木村憲子 …… 10

国体観戦記 …… 二年目　中島哲彦 …… 22

第29回全日本馬術大会 …… 四年目　山本裕介 …… 24

o調教報告

スターライト号 …… 四年目　長屋清隆 …… 31

三年目　浪内陽子 …… 36

洋蹄号 …… 三年目　中畠孝幸 …… 36

疾風号 …… 四年目　本城敬文 …… 38

天龍山号 …… 三年目　岩田正勝 …… 47

ドンホッパー号 …… 四年目　半浦剛 …… 49

四年目　笠間淳子 …… 50

ハイエイム号 …… 四年目　山本裕介 …… 51

北燕号 …… 四年目　矢田明 …… 54

北楽院号 …… 四年目 本城敬文 …… 57
三年目 三好功悦 …… 58
北雛号 …… 三年目 岩田正勝 …… 61
ダイパレード号 …… 四年目 藤原一郎 …… 62
新馬紹介
北姫号 …… 四年目 山川恵 …… 64
北将号 …… 四年目 矢田明 …… 66
離厩報告
北稜号 …… 四年目 山川恵 …… 67

o全日学大健闘
あの感激をビデオで！ …… 四年目 矢田明 …… 69
第20回全日本学生障害飛越競技会 …… 四年目 長屋清隆 …… 73
長屋君優勝 …… 監督 岡田光夫 …… 76
東京園での祝勝会 …… 昭和8年度卒 武田朝男 …… 78
先輩からの手紙 …… 昭和37年度卒 大場善明 …… 79

o先輩寄稿
学生時代の思い出と私と馬 …… 昭和6年度卒 間克市 …… 83
北大馬術部と私の母 …… 昭和34年度卒 樋口正明 …… 85
詩二篇 …… 昭和39年度卒 三浦清一郎 …… 86
帯広より …… 昭和42年度卒 加藤正昭 …… 87
馬とのふれあい …… 特別後援会員 佐合義広 …… 89

o馬術部を後にして
春秋四節 …… 矢田明 …… 91
卒部にあたって …… 長屋清隆 …… 91
四年間の思い出 …… 半浦剛 …… 92
四年間の思い出 …… 本城敬文 …… 93
四年間の思い出 …… 山本裕介 …… 93
四年間の思い出 …… 笠間淳子 …… 94

女子部員として …… 山川　恵 …… 95
なつかしき日々 …… 浪内陽子 …… 95

oふと思い起こせば
雑感 …… 一年目　石黒直秀 …… 99
「ある日ふと思ったこと」その1 …… 一年目　北畑　裕 …… 99
ざっかん …… 一年目　篠田聖児 …… 99
雑感 …… 一年目　丹羽岳人 …… 100
南から北へ …… 一年目　高橋　均 …… 100
幻のサラブレット …… 一年目　松岡　功 …… 101
雑感 …… 一年目　水野哲夫 …… 102

o自己紹介、他己紹介 …… 105

o名　簿 …… 125

役員報告

主　将

新たなる飛躍のために

三好功悦

昨年、ついに、ここ数年来の課題であった、全日学、障害団体2位入賞を果たし、個人でもスターライトの優勝、またドン・ホッパーの全日本馬術大会、バルクールB3位という、華々しい結実を見ることができた。我々はこれを、数多くの先輩達によって蒔かれ、代々、夢と希望と情熱をもって育まれてきた、大きな蕾の開花であることを自覚し、さらに、益に育て、大きな美しい花を咲かせ続けなければならない。

我々の責務は「維持」することではない。消極的な「維持」は、必然的な衰退に通ずる。言うまでもなく、馬も人も生き物であり、盛者必衰だからである。なすべきこと、それは「創造」することである。常に育て続けること。より新しい、美しい、高いものへのあくなき希求、果てしなき渇望こそ、我々を発展せしむる原動力だと信ずる。歓喜は与えられるものではない。

各学年による組織的調教と言われて久しいが、今もう一度、咀嚼し直してみるべきであろう。

現在、現役馬のどれをとっても、全日学に出場しても不思議はない力量を身につけていると感じる。それらの馬達に対して、人間はどうか。気遅れはないか、又逆に、過信による独善はないか。

各自が、己れの役割を全うしつつ、主体的に調教に参加していくこと。各自のレベルを適確に把握し、そこで限界に挑むこと。下級生は下級生なりに、上級生は上級生なりに、その持てる所の頂点で馬を育ててゆかなければならぬ。そして、これが人を育てることである。

謙虚に、しかし自信を持って。この命題をこなさなければ、我々に進歩はない。

馬術部は、種々雑多な意識の集積の中で、それ自体、意志を持ち、毎日呼吸している。この中では、様々な活動が可能であろうが、それは常に、生産的、創造的でなければならない。この生命は、振り返ることだけでは満足しないからである。そして、その充足こそ、誰のためでもない、我々のためにある。

昨年の夏、北稜号を離厩し、新たに二頭入厩した。いつまでも、スターライトにばかりたよっている訳にはいかない。幸い疾風も、ドン・ホッパーもこれからが働き盛りである。この間に現役馬の充実はもちろんのこと、次代を背負う馬を、着実に育てていかなければならない。

一昨年、昨年の激しい馬の出入りの後、今年は腰を落ち着けて、新馬の可能性を引き出したい。

副　将

岩田正勝

一昔前の話を聞くと、北大生なのか馬術部員なのかわからない様な先輩の話をよく耳にする。最近の傾向としては、学校と部をはっきりと分けて両立させている。少なくともさせようとしている様に思われる。世相が違うと言えばそれまでであるが、どこまでも崩せない点も確かに有り、その中には学生生活と相反するものも含まれている。唯一つ言えるのは、昔も今も、馬は相変わらず、人の手によって養われ、調教され、楽しみを見い出して生きている感情の動物である事だ。それは、言い換えれば「愛馬心」であろう。

ところで我部では、通例、副将が北日本の幹事を兼ねているが、北日本の学馬連に関して少し述べたいと思う。まず、北日本学生大会の開催校が現在二校に限られていること。帯畜大も北里大も一年おきでは負担であろうし、二カ所でしか試合ができない事は全日学に於ても不利である。今年はどうしても無理があってできなかったが、百世さんのところで、我部でも人を出して、馬場、障害等の製作が進めば、来年、さ来年の開催校になることは可能である。

もう一つ、去年の全日学の障害では、北日本もかなりの成績を収めたが、馬場に関しては、関東、関西の足元にも及ばず、選手権においても予選の馬場で敗れてしまうという弱さがある。我部にいつか、この事を考えなくてはならない時期が来ないとも限らない。

対外的な要素の強い、主将主務に対して、幅将は、内部に対してより知らなければならないし、最初に述べた譲れないものを守っていかなければならない。

主　務

中畠孝幸

主務たるもの、細かな仕事に翻弄されるのは最初の一か月で、以後は、三度の食事をとるが如く、それらの雑事を済ませ、一か月先一生先を見通す大極的な目で部活動を見つめていることが大事なのです。さて現実を顧みるとどうでしょう。そのような現想を全う出来るのは、勤続十年のベテラン主務だけであろうというのが、私にとっての実感です。何分にも私のどこかが抜けているというのは、自他共に認めるところですから、今だに多くの方々に御迷惑をかけていることをまずおわびせねばなりません。

さて、今クラブがかかえる問題を大ざっぱに述べます。資金問題には、どの年代とも同様に頭を痛めております。特に収入の大きな部分を占めるアルバイトの実態を見直す必要があります。私が昨年引き継いた時点までの一年間のアルバイト収入が約百五十万円に達しております。その内容は、中央競馬、道営競馬をはじめとし、畑作業、雪祭り時の観客計測などに及んでおり、その負担は限界に達していると言わねばなりません。さらに昨年十月には、それまでの飼料代の累積借金五十万円余りを支払わなければならなかったこともあり、平日に授業と練習を休み、ほぼ全員で、二十四時間通しの交通量調査のアルバイトを行なったのですが、ここまで来ると、正に本末転倒と言わねばならず、アルバイトのありかたを再考してみ

る必要があります。とは言っても、資金難は依然としてあり、今年度も、昨年と同程度のアルバイトは覚悟しなければなりません。

飼料に関して言えば、学生部からの申し入れにより、昨年十月以降、燕麦の購入先を、それまでの渡部商店から、ホクレンに替えて廉値な燕麦を手に入れるとともに、その支払いは、学生部が、注文とともに、そのつど行ない、一部を部が現金の有る時に負担し、借金として蓄積するという不正常な状態をなくすることになりました。乾草は、約二百梱包を夏の一年目の牧場作業によって、また小栗さんの紹介で若干いただいた他は、すべて現金で購入しております。

クラブをとりまく状況も近年益々住みずらくなっているのが現状です。草刈りの場、あるいは曳き馬する場所も限られてきています。頼みの恵廸寮裏の空地も、北方文化研究所からの申し入れにより、輪乗りなどで下を荒らすことは出来なくなり、野外障碍の撤去も考えなければならない状態にあります。学術研究の妨げは、学生として許される問題ではありませんし、また、かと言って、野外馴致も欠くことの出来ないものですから、その双方を考え合わせて、とるべき道を決めていかなければなりません。また近年トレセンとして親しまれてきた体育指導センターも、合宿所としては、安易に利用することが難かしくなるという見通しです。

後援会関係については、幹事の江口さんに大変お世話になっております。アルバイト収入や学生部からの援助に限度がある現状ではどうしてもOBの皆様の心物両面からの御支援が心強い限りです。昨年も東京で開いていただいた全日学の祝勝会の際には、大勢のOBの方々にお集まりいただき、嬉しさこのうえない気持ちでした。

最後に、いろいろ多くの問題をかかえた現状ですが、体力を惜しまずに、地道にやっていこうと思います。部員諸兄、後援会の皆様御指導、御支援のほど宜しくお願い致します。

会　計

木村憲子

各役職の予算と収入予想から、次のような収支予想を立てましたが、赤字がほとんどない状態となっています。九月に会計の任を引き継いだ時点では年間四十万近い赤字が予想されましたが、十月の交通量調査バイト、優秀乗馬奨励金、部報発行における後援会補助によりかなり解消されました。また濃厚飼料代は、年間二十万～三十万、部が負担し、あとは学生部補助となり、表の飼料代は乾草代のみとしました。

しかし、物価の上昇に伴う支出の増大が、部員のアルバイトの増加に直接響いているのが現状です。部活動の維持、発展のために、部員一同無駄な支出をしないよう工夫しておりますので、宜しく御援助御願い申し上げます。

s５３．１～s５３．８の収支予想

収　入		支　出	
部費、入部金、滞納金	３８万	飼　料	３２万
アルバイト （中央競馬、雪祭、玉ネギ）	９０万	蹄　鉄	８１万
		馬具・備品	９万
補助金	９万	薬　品	２１万
その他	１７万	遠　征	４０万
		文　化	４万
計	１５４万	作　業	１０万
１２月現在手元	９０万	その他	４２万
計	２４４万	計	２３９万

乾杯！ワシントン広場のパーティープラン

ウイスキー・ジュース 飲み放題

パーティープラン 予約受付中

お一人様 3,500円コース 洋食卓料理10品（税・席料込み）

●その他2,000円（税・席料込み）より各コースがございます。

札幌駅前 パブシアター ワシントン広場 011－251－3211 ホテルワシントン札幌

決　算　報　告

S52. 1 ～ 52. 12

収　入	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
部費・入部金	30,130	41,867	44,790	94,206	93,444	99,370	55,335	850	57,368	51,078	44,119	1,050	613,607
アルバイト	0	214,140	0	0	231,100	36,000	302,720	263,460	52,745	572,600	136,900	108,000	1,917,665
補助金	122,000	0	0	0	0	25,000	105,600	20,800	49,000	179,800	1,581,500	0	2,083,700
その他	25,000	0	13,974	27,590	30,000	37,206	219,619	15,650	52,380	55,455	17,240	24,190	518,304
計	177,130	256,007	58,764	121,796	354,544	197,576	683,274	300,760	211,493	858,933	1,779,759	133,240	5,133,276
支　出													
飼糧	0	311,000	59,780	5,000	0	0	128,750	0	55,000	70,750	558,300	76,210	1,264,790
蹄鉄	0	0	166,000	0	0	130,000	110,000	0	0	100,000	280,000	109,400	895,400
馬具・備品	325	16,390	1,500	13,514	13,736	47,230	64,985	8,650	3,250	5,180	15,262	900	190,922
薬品	0	6,120	12,560	0	0	0	74,794	10,450	4,800	26,700	0	0	135,424
遠征	0	2,200	0	0	0	12,850	142,200	300,600	0	162,000	247,800	20,000	887,650
文化	43,344	880	18,666	3,706	2,628	21,888	24,005	18,207	31,876	180,147	15,839	15,628	373,814
記録・事務	3,430	4,084	17,000	2,490	4,456	90	122,610	3,817	1,170	668	1,150	870	161,835
その他	2,000	28,815	64,000	291,680	117,896	169,058	156,565	148,600	132,637	65,069	190,768	27,780	1,394,868
計	46,099	369,489	339,506	316,390	138,716	381,116	823,909	490,324	228,733	610,514	1,309,119	250,788	5,304,703

馬　匹

島　村　　努

今度、馬匹になりました島村です。馬匹といっても、まだ、経験も浅いのですが、精一杯やっていくつもりです。

馬の出入のことですが、五十一年十月に獣医学部より入厩しました北稜号は、五十二年七月、前肢の指骨（基節骨種子骨）骨折のため、離厩しました。原因は不明ですが診断の結果は入厩以前の骨折かもしれないということです。五十二年七月には、競馬場より北姫号を入厩し、同月に、横山先輩のお世話で、やはり競馬場より、芦毛の北将号を入厩しました。新馬はこれから先のことも考えて、できるだけ早く調教していかなければなりません。

馬匹の仕事としては、治療というよりも、まず、いかに、ケガをさせないかということであると考えます。特に、蹴り合いなどの人間の不注意から起こるケガは、絶対に避けなければなりません。このことは、毎年言われてきていることですが、まだまだ、私も含めて部員一人一人の頭にたたき込まなければなりません。騎乗中、あるいは曳馬中に、蹴り合う可能性のある距離には、絶対に近よらないことはいうまでもなく、放馬、そして、馬場などに何頭かいっしょに放す時なども、馬どうしの相性にも充分に注意しなければなりません。後者に関しましては、私も、馬匹でありながら、以前に馬場に放したことがあるからと、疾風を馬場に放して、蹴られてしまいました。全く申し訳ないことをしてしまったのですが、自分の肝に命じ、他部員にも、充分注意していこうと思います。それが責任と考えます。

次に一月現在の各馬体状況を報告いたします。

スターライト……左前肢管骨骨瘤に熱感あり

羊蹄……右前肢膝に骨折片あり、徐々に吸収される見込み

疾風……右腰角を馬にて蹴られ、腫れていて熱あり。回復する見込み。左前肢管骨骨瘤に熱感あり。

天龍山……両前肢繋靱帯炎良好。殿部の腫瘍除去手術後完治

ドンホッパー……両後肢に滑液嚢炎。熱があれば冷やしてサッサージ

ハイエイム……蓄膿症手術後毎日洗浄。両後肢管に血腫。

北燕……右前肢管骨骨瘤焼烙後も、やや熱感あり。

北楽院……特に異状なし。

北将……鞍傷手術後、騎乗しているが、やや熱感あり。

北姫……左後肢腱鞘炎。

北美……特に異状なし。

北雛……春に去勢する予定。

五十二年の秋には、試合などがあり、使い過ぎのため、腱炎の馬が続出しましたが、現在は、ほぼ良好な状態になりました。馬体管理馬学の講義などの面で、色々とお世話になっています小池先生を始めとする獣医外科学教室の先生方、また、改蹄の時には注意を払っていただいている太田さんには、何とお礼を申してよいやらわかりません。

次に一年間の仕事を記します。

骨軟症……毎年春先になると、冬期間、草を食べさせることができず、Ca不足から骨軟症になる馬がでます。疾風、ドンホッパー、ハイエイム、北美、北将、それに、発育期にある北雛などは、注意すべきです。これらの馬に対しては、現在日光浴をさせ飼付けにCa

を多めに混ぜるとともに、できるだけ、笹を食べさせてやるようにしています。また、春先には、強力黒沢液を注射するつもりです。

インフルエンザ、破傷風のトキソイド……年一回春に注射します。

糞便検査……春に行ない駆虫剤を投与します。

血液検査……季節毎に行ないます。

伝貧検査、日本脳炎予防接種……春に、石狩家畜保険所に頼んで行ないます。伝貧検査は、近年中に、その方法が変更され、伝貧の可能性がある馬が出ることも予想され、何らかの手をうつ必要があります。

この他、馬体管理の面で、毎日、注意しなければならないことがたくさんありますが、とにかく、故障馬が出ないように、部員一同注意していくつもりであります。皆様の御協力の程、よろしくお願いします。

飼料

成田　慎二

飼料の役割は、諸物価値上がりで苦しい財政状態の中で、如何にして適度に馬を肥やすか、つまりより安く飼料を入手する事が主です。他には、馬体重や運動量によって毎日の飼付けの量を決定したり、季節によって草刈りの量や馬房の状態に注意する事などがあります。

濃厚飼料（カルシウムを含む）は、昨年の飼料であった山本兄の調査によりホクレンが一番安い事がわかり、秋からすべてホクレンより購入しています。この事によって、年間約二十万円の節約となります。反面、乾草は、機械化のために例年行っていた河森牧場でのアルバイトがなく、日高の方までアルバイトに行ったり、酪農学園大学や鷲田さんから購入しました。購入すると、アルバイトと引き換えに乾草をいただくという形よりも、かなり割高となってしまうので、新しいアルバイト先を捜さなければなりません。また、今年も八木先輩のお世話で全部員で草刈り大会を行い、九十個ほど乾草を作ることができました。

寝わらは、その供与量の半分以上は農学部との契約によるもので、残りは、佐合さんの紹介である余市の野崎さんの所と、少量ではありますが、新しく、京嘉堂という瀬戸物屋からいただいています。けれども、馬房の中は、使い古しの寝わらが、それも少ししか入っておらず、馬に充分な安らぎを与えるのには、まだまだ不足しているのが現状です。最近は、コンバインの使用の増加のために寝わらが減少して入手しにくいうえに、秋に飼料を引き継いでから行動するのが遅かったので、今年は、春のうちから近郊の農家と寝わらの交渉をしていこうと思います。

昨年までの皆様の御好意に御礼申上げると共に、今年もまた、御協力をお願い致します。

馬具備品

国枝保幸

この役職に着いた当初、馬具備品の仕事にかなり甘い考えをいだいていたと反省しています。

一年目の冬から馬具備品補佐として岩田兄の御手伝いをしてきたので、施設の管理・備品の供給・遠征の準備・馬具の管理の仕事に関しては充分理解しているつもりでしたが、秋の遠征で馬具が全く揃っていない事を知り、あわてて購入するような事もあり、初めて馬具の不足を身を持って知らされた次第でした。

毎年の事ですが、この役職に関して最も問題なのが、馬具の不足です。

最終的には、常用する馬具の他に予備を常に置いておくという状態まで持って行ければという事になりますが、鞍に関して言えば、斉藤先輩のお世話で新しい鞍を購入したにもかかわらず、ひどい鞍を使っている馬もおり、到底満足のいく状態ではありません。特に鞍の場合、金銭面での問題が大きいようです。ですから、不足している物や特に消耗品等は遂次購入しなければなりません。しかし肝要なのは、購入後の管理だと思われます。

馬具備品としても整理整頓に努め、きびしく管理していくつもりですが、これればかりは部員一人一人に声を大にしてお願いする以外にありません。「節約は一人一人の心がけ。」「整理整頓火の用心」

何かと細かい仕事に追われる事が多いのですが、割と時間が自由になる冬のうちに、馬具の充実という事を長い目で見ながら考え、試合シーズンになってもあわてる事のないよう備えておかなければならないと思っています。

最後になりましたが、五十一年度の先輩方より昨年十一月、りっぱな時計台をいただきました事を深く御礼申し上げ、報告しておきます。

作業

中島哲彦

人は一日二十四時間の持ち時間しかない。部員は二十四時間の内の何時間かを作業に供出しなければならない日が多にある。馬術部に於て、作業を避けて通る事は不可能であり、且つ馬術部の作業は馬術部員が行うしかない、と言う事実の基には、時間の供出は当然となる。しかしその時、無暗に作業をするのではなく、出来るだけ部員の負担が少なくなる様に作業を行ってゆきたい、と思う。

皆なで、馬術部を少しづつも改善して行きましょう。

薬品

吉田円

馬体の健康保持とクラブの財政とのバランスをとるのはなかなか困難なものです。今までも、薬品類は高価だから大切に扱うようにと言われ続け、自分でもその努力をしてきたつもりでしたが、いざ

この役職についてみると、現実の厳しさは想像以上だったことがわかりました。脱脂綿五〇〇gが八五〇円、キモブシン一アンプルが七二〇円……と考えてもみなかった高さで、しかも節約するにも限度があります。金銭的理由からだけでなく衛生面からも、もっともっと丁寧な取扱いが必要だと思います。

自分の身体のことでしたら、薬の使用は最少限にする方針で、その限度もおおよそは見当をつけられますが、こと馬に関してとなると、そんなに使わなくていいんだ、と断言する自信などまるでありません。それで、効果に多少の疑問を持ちながらも、色々と使ってしまっています。人間の気休めにすぎないのではないかと思うことも時々あるのですが……

薬品に関する知識も馬体に関する知識も共に不足しており、ほとんど、部長の小池先生初め獣医の諸先生方に頼らせて頂いている状態です。この場を借りて心からお礼申し上げます。また、今後共よろしく御助力をお願い致します。

文化

石黒直秀

いにしえより〝花〟と呼ばれしこの文化の仕事、今年は何と呼ばれるでしょうか。

〝鬼の文化〟……「おまえ、きのうのソフトボール大会、サボったろう！罰として素振り三百回!!」

〝仏の文化〟……「本日、文化主催で○×さんのお誕生パーティーやりまあす。会費いりませんからみんな来てねえ」

〝獄道文化〟……「今晩は、東風荘で定例会。明晩は恵廸寮にて花札とチンチロリン大会。その次の晩は……」

〝スポーツ文化〟……「本年より、バスケットボール大会、サッカー大会をはじめ学内で行なわれるマラソン以外の大会にすべてエントリーをするようにしようかと……」

〝文化英語塾〟……「〝Common Sense of Horsemanship〟の和訳？……いやなあ、俺、英語いっちゃん嫌いやねん」

〝花の文化〟……「今日は例によってお花見をやりまあす。花に酔い、花に歌い、花に踊りましょう」

写真、八ミリの整理に心をうばかれがちな文化ですが〝ねんじゆう行事〟とも言える馬術部の年中行事の合い間に文化主催の行事を織り込もうと虎視眈眈とねらってます。「花の文化」の〝花〟を枯らさぬよう努めます。

松岡功

入部して約五ケ月、まだ十分クラブ運営のことを知らない自分がこの役職に任命されたとき、驚きと伴に、こんな自分がうまくやっていけるのだろうかと不安に思いました。最初のうちは、あれやこれやといろんな計画をたてたりしましたが、現実は、8ミリの編集や、写真の整理などに追われて、何一つ実現しませんでした。今年も、写真関係中心の活動になりそうですが、相棒の石黒兄にたよって、互いに乏しい知恵をしぼり、部員のみんなが楽しめるような

催しを企画したいと思います。

「文化」という仕事は、馬に乗る練習をはなれて、クラブ内におけるつながりを深めていくものだと思っています。だから、部員の意見をどんどん取り入れて反映させていきたいと思います。部員のみなさんには、何かとご迷惑をかけるかもしれませんが、気付いたことは何でも言って下さい。よろしくお願いします。

記録

昭和52年度行事報告

木村恵子

4月3～9　雪割合宿（2・4年目）
22～24　馬術講習会

5月
3　第5回太奏杯・半沢杯記念馬術大会ー於北大
22　対酪農大定期戦ー於酪農大
23　新歓コンパ
29　遠乗会ー茨戸

6月4～5　学祭
18～19　第12回北海道自馬馬術大会ー於北大

7月19～25　青草合宿（3・4年目）
24　貨車積み（十和田へ）
31　日韓親善馬術大会札幌大会ー於北大

8月3～8　北日本学生馬術大会兼全日本学生馬術大会予選ー於北里大
20～21　北海道馬術大会兼国体予選ー於旭川競馬場
24～31　日高合宿（一年目）

9月3～4　第2回北海道地区大会兼全日本大会予選ー於畜大
6　帰札
10～16　2・3年目
25　役員交代コンパ
27　馬運車積み（国体へ）

10月2～3　青森国体ー於北里大
10　駅伝　馬運車積み（全日本へ）
15～16　岩見沢親善馬術大会ー於岩見沢競馬場
全日本馬術大会ー於杉谷馬事公苑
17～23　一・三年強化練習
29　全日学壮行会

11月5　貨車積み（全日学へ）
12～21　全日本学生三大馬術大会ー於馬事公苑
12月12　祝勝会
14　祝勝パレード
15　郵政局年賀状P・Rのため中央郵便局までパレード

1月2　初乗り
5～9　強化練習

日本中央競馬会

札幌競馬場

札幌市北14条西19丁目
TEL（721）0461～5

場長　室屋　浩一郎

昭和５２年度戦績報告

o 対東北大定期戦　（３月３１日　於東北大）

- １年目戦　　勝　成田、太田、国枝、中島
- ２年目戦　　負　岩田、龍華、三好
- ３年目戦　　勝　矢田、山本、長屋
- 女　子戦　　勝　笠間、山川、浪内

o 第５回太奏杯、半沢杯記念馬術大会　（５月３日　於北大）

- 複合（太奏杯）

				馬場減点	障害減点
１位	本城	北大(4)	疾風	－７７ $\frac{1}{3}$	満点
２位	谷	北星乗ク	テレサ	－７３	－７
３位	佐藤	札幌市役所	隆孝	－７９	－４
４位	半浦	北大(4)	トンホッパー	－８８	０
オープン	長屋	北大(4)	天龍山	－	－３（第4クレーター跳上リバー1反抗）
棄権	山本	北大(4)	ハイエイム		

- 中障害（半沢杯）

				障害減点
１位	佐藤	札幌市役所	隆孝	満点（バラージュ　－３　第６斜め三段１反）
２位	長屋	北大(4)	スターライト	〃（〃　－４　第２竹棚バー落下）
３位	荒木	北星乗ク	テレサ	〃（〃　－４　第６斜め三段落下）
６位	半浦	北大(4)	トンホッパー	－８（第６斜め三段、第１１垂直落下）

- 小障害（河田杯）

				障害減点
１位	斉藤	フロンティア乗ク	ノーザンクロス	満点
２位	成田	北大(2)	トンホッパー	〃
３位	島田	フロンティア乗ク	ノーザンクロス	〃
７位	島村	北大(2)	疾風	〃
８位	岩田	北大(3)	天龍山	－３（第１０石垣１反抗）
９位	中畠	北大(3)	羊蹄	－３（第６Ｍ字１反抗）

o 第１４回対酪農大学定期戦　（５月２２日　於酪農大）

- 複合

				馬場減点	野外減点
１位	勝	酪農大(2)	緑臣	－４０.１	０
２位	矢田	北大(4)	北燕	－５.１	－３２.８
３位	山本	北大(4)	ハイエイム	－５５.５	－５７.６
棄権	長屋	北大(4)	天龍山		

・中障害

				障害減点	
1位	勝	酪農大(2)	騄　臣	－１０	（第５Ｃ六角バー拒止、第７Ａ自然横木落下、第７Ｂレンガ拒止）
2位	長屋	北　大(4)	天龍山	－２４	
失権	長屋	北　大(4)	スターライト		（経路違反）
棄権	山本	北　大(4)	ハイエイム		

・小障害

				障害減点	
1位	中島	北　大(2)	スターライト	－0.75	
2位	杉山	酪農大	騄　臣	－3.5	
3位	秋丸	〃	エレンフエルス	－13.75	
失権	中畠	北　大(3)	羊　蹄		（スタート前１分）
〃	岩田	〃　(3)	天龍山		（第５Ｂ、Ｃ２反抗、第７三段横木、１拒止）
棄権	吉田	〃　(2)	北　燕		

総合得点　酪農大　１４点　北大　１２点

o 第１２回北海道自馬馬術大会　（６月１８・１９日　於北大）

・複合

				馬場減点	障害減点
1位	布施	北星乗ク	ゼファー	－８２	満点
2位	谷	〃	テレサ	－８６$\frac{1}{2}$	〃
3位	佐藤	札幌市役所	隆　孝	－８８	〃
8位	矢田	北　大(4)	北　燕	－１０９	－１０（第１０Ｂサイコロ落下）
9位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	－１１１$\frac{1}{2}$	－１０（第７Ｂ　カマボコ落下）
10位	本城	北　大(4)	疾　風	－１０２$\frac{1}{2}$	－２０（第１竹棚、1拒止、第１０Ｂサイコロ落下）
15位	長屋	北　大(4)	天龍山	－１１０	－42.25（第10Ａ垂直落下、B1拒止、第１０Ａ、Ｂ落下）

・中障A

				障害減点	
1位	本城	北　大(4)	疾　風	満点	（バラージュ）
2位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	〃	（　〃　）
3位	斉藤	旭川乗ク	ヒダトモス	〃	（　〃　）
5位	長屋	北　大(4)	スターライト	－　4	（第５ドラムオクサー落下）
8位	長屋	北　大(4)	天龍山	－１１	（第5ドラムオクサー落下、第7箱オクサー 1反抗 1落下）
失権	矢田	北　大(4)	北　燕		（ベル前スタート）

・中障B　　障害減点

1位	岡本	北星乗ク	ゼファー	満点	
2位	斉藤	旭川乗ク	アサヒクイン	－4	
3位	尾上	柏友楽馬会	ジープ・ジープ	－4	
8位	岩田	北　大(3)	天龍山	－11.5	（第5垂直落下、第11サイコロバー1反抗、1落下）
失権	中畠	北　大(3)	羊　蹄		（第2オクサー1拒止、第4カマボコバー1拒止、第5垂直1拒止）
〃	三好	北　大(3)	ハイエイム		（第3三角バ、2拒止、第4カマボコバー1拒止）

・壮年障害　　障害減点

1位	小林	北星乗ク	ゼファー	満点	
2位	庄内	札馬研	エレンフェルス	〃	
失権	半沢	北大乗馬同好会	北　燕		（第5ツイタテ3反抗）
失権	岡田	北大乗馬同好会	ハイエイム		（第3レンガ3反抗）

・初心者障害　　障害減点

1位	三枝	帯畜大(2)	柏　鷹	満点	（タイム48秒）
2位	中村	帯畜大(2)	ストレート	〃	（〃　48.2秒）
3位	国枝	北　大(2)	スターライト	〃	（〃　54秒）
6位	西川	北　大(2)	疾　風	〃	（〃　56.9秒）
7位	吉田	北　大(2)	北　燕	〃	（〃　59秒）
失権	藤原	北　大(4)	ダイバレード	（第1竹棚1反、第3カマボコ2反）	

・バルクール、ド、シヤス

				減点	タイム
1位	斉藤	旭川乗ク	アサヒクイン	71.5秒	70.5秒
2位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	78　秒	68　秒
3位	斉藤	旭川乗ク	ヒダトモス	79.2秒	69.2秒

・選抜障害　　障害減点

1位	谷	北星乗ク	テレサ	満点	（バラージュ　満点）
2位	長屋	北　大(4)	スターライト	〃	（〃　垂直落下）
3位	本城	北　大(4)	疾　風	－4	（第3サイコロ落下）
6位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	－4	（第6垂直落下）
9位	矢田	北　大(4)	北　燕	－12	（第3サイコン、第5レンガ、第6垂直落下）

o第15回日韓親善馬術大会　北海道大会　（7月31日　於北大）

・全韓国学生チーム対全北海道学生チーム〔金子（北星高）、竹内（帯畜大）、矢田（北大）荒木（北星乗ク）、小西（酪農大）、酒井（浦河高）〕

減点246　対　222

・全韓国チーム対全北海道チーム　　減点119.5　対　144.25

o第１３回北日本学生馬術大会　（８月３～８日　於北里大）

・中障害（３・４日）

				第一走行	第二走行
1位	長屋	北　大(4)	スターライト	満点	－　4（1落）
2位	菅浪	帯畜大(3)	柏　栄	－　3	－　8
3位	勝	酪農大(2)	緑　臣	－　8	－　3
4位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	－　8（2落）	－　4（1落）
9位	本城	北　大(4)	疾　風	－16（4落）	満点
13位	矢田	北　大(4)	北　燕	－12（3落）	－28（7落）
14位	山本	北　大(4)	ハイエイム	－21（2反3落）	－20（5落）
失権	児玉	北　大(4)	ダイバレード	（第1門扉3反）	（同　左）

・総　合

				調　教	耐　久	余　力
1位	本城	北　大(4)	疾　風	－71.8	満　点	満　点
2位	菅浪	帯畜大(3)	柏　栄	－71.2	満　点	－10
3位	中野	東北大(4)	梵　天	－84.8	満　点	満　点
10位	矢田	北　大(4)	羊　蹄	－82.8	－77.2	満　点
13位	矢田	北　大(4)	北　燕	－80.5	－100	－40
16位	長屋	北　大(4)	天龍山	－80.0	－257.6	－40
17位	山本	北　大(4)	ハイエイム	－98.2	－257.6	－40
失権	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	－74.7	失　権	
失権	藤原	北　大(4)	ダイバレード	－86.8	失　権	

・B障害

				減点
1位	成田	北　大(2)	スターライト	満点（バラージュ）
2位	鈴木	北里大(2)	キングロード	〃（　〃　）
3位	田中	東北大(2)	金太郎	－3
6位	木村	北　大(3)	疾　風	－8（水濠、ツイタテ落下）
9位	中畠	北　大(3)	羊　蹄	－115.（石垣1拒止）
11位	三好	北　大(3)	ハイエイム	－19（X型オクサー、ドラム横木、トラケーネン、ピラピラ落下）
12位	島村	北　大(2)	ドンホッパー	－28.75（石垣1拒止、水濠1拒止、落馬）

・B障害女子班

失権	斉藤	北　大(3)	ダイバレード	（カマボコ横木、馴致失権）

・選手権

男子	1位	小田	東北大(4)
	2位	官野	北里大(4)
	3位	大坂	北里大(4)
		長屋	北　大(4)
		三好	北　大(4)
女子	1位	風間	北里大(3)
	2位	伊関	福島大(4)
	3位	山川	北　大(4)
		木村	北　大(3)

団体成績

中障害	1　位
総　合	2　位
総合順位	3　位

＜全日本出場権利は次の人馬が獲得＞

中障害	スターライト	長　屋　(4)
	ドンホッパー	半　浦　(4)
	疾　　風	本　城　(4)
	羊　　蹄	矢　田　(4)
総　合	疾　　風	本　城　(4)
	羊　　蹄	矢　田　(4)

o 第２４回北海道体育大会（兼国体予選）　（８月２０・２１日 於旭川乗馬クラブ馬場）

・総合

				調教	耐久	余力
1位	谷	北星乗ク	テレサ	−65 1/2	4.56	−10
2位	菅浪	帯畜大(3)	柏　栄	−75	満　点	−10
3位	風間	帯畜大(4)	柏　勝	−54 2/3	−20	−20
5位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	−78 2/3	−40	−10
6位	本城	北　大(4)	疾　風	−92 1/6	−60	満　点
8位	山本	北　大(4)	ハイエイム	−96 5/6	−80	−30
失権	岩田	北　大(3)	天龍山	−85 5/6	失　権	
失権	三好	北　大(3)	北　燕	−90	失　権	
失権	中島	北　大(3)	羊　蹄	−87 2/3	失　権	

・中障害　　減点

1位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	満点	
2位	長屋	北　大(4)	スターライト	—4	（第3オクサー落下）
3位	本城	北　大(4)	疾　風	—4	（第3オクサー落下）
9位	山本	北　大(4)	ハイエイム	—15	（オクサー、垂直、カマボコ横木落下、バシケット1反）
12位	矢田	北　大(4)	北　燕	—16	（第3、第6オクサー、垂直、カマボコ横木落下）
失権	岩田	北　大(4)	天龍山		（水濠3拒止）

・小障害　　減点

1位	国枝	北　大(2)	疾　風	満点	（バラージュ　満点）
2位	大谷	旭川乗ク	アサヒクイン	〃	
3位	小川	北星乗ク	テレサ	〃	
5位	中島	北　大(2)	ハイエイム	〃	（バラージュ　—8）
10位	本城	北　大(4)	北楽院	—12	（オクサー、落下、レンガ1反抗、タイム減）

・バルクール、ド、シヤス

1位	米田	旭川乗ク	サベルニツク	
2位	斉藤	〃	ヒダトモス	
失権	中畠	北　大(3)	羊　蹄	（垂直横木2反、カマボコ横木1反）

・婦人障害　　減点

1位	長崎	旭川乗ク	アサヒクイン	満点
2位	浪内	北　大(3)	スターライト	〃

＜国体への出場権利獲得人馬＞

長　屋　(4)　スターライト

半　浦　(4)　ドンホッパー

o 第2回北海道馬術大会　（9月3・4日　於帯畜大）

・総合

				調　教	耐久	余力
1位	風間	帯畜大(4)	柏　勝	—58	満点	—12
2位	藤原	帯畜大(3)	柏　美	—79	—45	—15
3位	田村	帯畜大(3)	柏　鷹	—78 $\frac{2}{3}$	満点	—47.25
失権	本城	北　大(4)	疾　風	失権		
失権	中島	北　大(3)	羊　蹄	—114	失権	
失権	岩田	北　大(3)	天龍山	—84 $\frac{2}{3}$	—30.5	失権

・中障害

				減点	
1位	竹内	帯畜大(4)	柏　美	−3	
2位	永田	帯畜大(4)	月　光	−4	
3位	山本	北　大(4)	ハイエイム	−7.75	（乾濠バー1拒止、オクサー落下）
4位	長屋	北　大(4)	スターライト	−8	（トンネルオクサー、垂直落下）
8位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	−11	（水濠1拒止、白箱落下）
9位	矢田	北　大(4)	北　燕	−16	（乾濠バー、垂直、オクサー、レンガ落下）
11位	本城	北　大(4)	疾　風	−30.75	（白箱1反、垂直、オクサーダブルab レンガ落下）
失権	岩田	北　大(3)	天龍山		（白箱3拒止）

・馬場馬術第2課目

				得　点
1位	吉崎	フロンティア乗ク	スターフロンティア	402
2位	高橋	帯畜大 (4)	晴　風	386
3位	矢田	北　大 (4)	オオカリヒメ	353

・小障害

				減点
1位	大久保	札幌市役所	サラトガ	満点
2位	吉　田	北　大 (2)	スターライト	−8
3位	小　林	柏友会	チュミーザ	−8.5
4位	中　島	北　大 (2)	ハイエイム	−8.75
6位	笠　間	北　大 (4)	ドンホッパー	−10.75
	本　城	北　大 (4)	北楽院	−21.5

・婦人・壮年障害

				減点
1位	山　川	北　大 (4)	羊　蹄	満点
2位	高　橋	札幌競馬	レインメーカ	−1.25
3位	笹　川	帯広ク	柏　勝	−1.75

・バルクール、ド、シヤス

1位	南部	碧雲ク	サラトガ	105″	
2位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	118″	
3位	斉藤	旭川乗ク	ヒダトモス	121″	
8位	山本	北　大(4)	ハイエイム	211″	（白樺1反、ビラビラ、ツイタテ落下）
失権	矢田	北　大(4)	羊　蹄		（ドラムオクサー、垂直、ビラビラ、3反抗）

・大障害 B

				減点	
1位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	―8.25	（ピラピラ、トンネルオクサー落下）
2位	竹内	帯畜大(4)	柏　美	―8.5	
3位	南部	碧雲ク	サラトガ	―11.25	
6位	長屋	北　大(4)	スターライト	―17.75	（トンネルオクサー、垂直落下）
9位	山本	北　大(4)	ハイエイム	―35.25	（ピラピラ、トンネルオクサー、ユニット、レンガ落下、垂直、ツイタテ拒止）

＜全日本への出場権利獲得人馬＞

半　浦 (4)　　ドンホッパー

o 第4回道内親善馬術大会　（10月15・16日　於岩見沢競馬場）

・総合

				調教	耐久	余力
1位	布施	北星乗ク	ゼファー	―68	満点	満点
2位	本城	北　大(4)	疾　風	―69	満点	満点
3位	橘	帯畜大(3)	柏　勝	―69.67	満点	―10
9位	三好	北　大(3)	ハイエイム	―114	―0.4	―50
失権	岩田	北　大(3)	天龍山	―101.67	満点	失権
棄権	中畠	北　大(3)	羊　蹄			

・小障害(A)

				減点	
1位	高荷	北星乗ク	アメレオ	満点	
2位	山田	〃	テレサ	〃	
3位	月岡	〃	ゼファー	〃	
6位	吉田	北　大(2)	疾　風	〃	
7位	小栗	北大同好会	北　美	満点	
11位	成田	北　大(2)	ハイエイム	―3	（クロスバー1拒止）
失権	島村	北　大(2)	天龍山		（イチマツ、笹箱バー、トンネル3反抗）
棄権	本城	北　大(4)	北楽院		

・関門(A)

1位	小野	岩乗ク		イクセツ
2位	投石	〃		サワカゼ
3位	高野	〃		イクセツ
	水野	北大	(1)	疾　風
	松岡	北大	(1)	天龍山

・中障害

				減点	
1位	布施	北星乗ク	テレサ	満点	
2位	本城	北　大(4)	疾　風	－4	（門扉オクサー落下）
3位	風間	帯畜大	柏　勝	－4	
6位	三好	北　大(3)	ハイエイム	－9	（門扉オクサー落下、水濠1拒止）
失権	岩田	天　山			（笹オクサー落下、バンケット、トラケーネン、トンネル反抗）

・選抜障害

				減点	
1位	国島	帯畜大(2)	大　雪	満点	（バラージュ）
2位	布施	フロンティア乗ク	ハッピー	〃	（　〃　）
3位	橋	帯畜大(3)	柏　勝	－4	
4位	本城	北　大(4)	疾　風	－4	（クロスバー落下）

o第32回国民体育大会　（10月5日　於北里大学）

・成年障害

				減点
1位	今井　静岡	スモールタイム		満点
2位	都築　愛知	グレイシンデレラ		〃
3位	岡田　京都	アトラス		－4
21位	半浦	北大(4)	ドンホッパー	－12
22位	長屋	北大(4)	スターライト	－12

o第13回全日本学生馬術女子選手権大会（10月7～9日　於馬事公苑）

			馬術得点	障害減点	総得点
1位	玉置　恵美子	青山学院大	126 6/15	○	126 6/15
	山川　恵	北大(4)			

o第29回全日本馬術大会　（10月15・16日　於杉谷馬事公苑）

・バルクール、ド、シヤスB

1位	西岡浩次		ダイミキンセイ	60″1
2位	田所勝己		エルグラデ	60″6
3位	山本	北大(4)	ドンホッパー	60″9

・中障害

				減点
1位	植田　元		アイスターキング	満点
2位	村上祐隆		フアイヤー	－4
3位	三好恵子			－4
	山本	北大(4)	ドンホッパー	－12

o第２０回全日本学生障害飛越競技会、全日本学生総合馬術競技大会

（１１月１５～２１日　於馬事公苑）

・障　害				第一走行	第二走行	総減点
1位	長屋	北　大(4)	スターライト	満点	満点	満点
2位	古賀	日　大	ムネヒサ	－0.75	〃	－0.75
3位	菅浪	帯畜大	柏　　栄	満点	－4	－4
20位	半浦	北　大(4)	ドンホッパー	－6.25	－8	－14.25
31位	本城	北　大(4)	疾　　風	－19.25	－4	－23.25
40位	矢田	北　大(4)	羊　　蹄	失権	失権	

・総　合				調教	耐久	余力
1位	古賀	日　大	ムネヒサ	－60$\frac{1}{2}$	満点	満点
2位	本田	専修大	タイガーホープ	－65$\frac{1}{3}$	〃	〃
3位	榎田	宮崎大	昇　　雲	－59$\frac{2}{3}$	－16$\frac{2}{5}$	〃
21位	山本	北大(4)	ハイエイム	－113$\frac{5}{6}$	満点	40
23位	本城	北大(4)	疾　　風	－89$\frac{1}{6}$	－72	－10
失権	中畠	北大(3)	羊　　蹄	－114$\frac{1}{3}$	－366$\frac{4}{5}$	失権

団体成績

障害　1　位　日本大学　－31.5

2　位　北海道大学　－37.5

3　位　東京農業大学　－43.75

o国立七大学戦　（昭和５３年２月１１・１２日　於馬事公苑）

・予選リーグ　　岩田、中畠、三好、国枝

京大　－４６９点　対　北大　－５８６点

九大　－３８１点　対　北大　－４８７点　　２敗

・敗者復活戦　　岩田、中畠、三好

名大　－２７８点　対　北大　－３９８点

1　位　東北大学　　2　位　東京大学　　3　位　九州大学

4　位　京都大学　　5　位　名古屋大学　　6　位　北海道大学

国体観戦記

10月3～5日　於北里大学

ドンホッパー　半浦　剛(4)
スターライト　長屋清隆(4)

中島哲彦

九月二十七日に、ドンとライトが国体へ向ったと当番日誌に記されてある。僕は、朝出発したのかそれとも夕方なのかさえ、忘れてしまった。ただ、馬運車の中では、二頭ともすごく落ち着いていて、眠い目をこする僕等に向って「もう馬運車にも慣れましたよ」とでも言いたげに、乾草を喰っていた事だけは憶えている。

体調は二頭とも、良くはなかった。特に、スターライトは、一週間程前に瘢行が見られ、練習もほとんどやらないという状態だった。

翌朝、六時頃だったかに、会場である青森県十和田市の北里大学に着く。二ケ月前に北日本学生が行なわれた場所でもある。しかし仮厩舎やプレハブの建物がいくつも作られ、大々的な規模になっていた。全く、自衛隊の力には驚いてしまった。

試合までは、一週間あった。ドンは右後肢に浮腫が出るものの、順調に毎日の運動をこなしていった。半浦兄も長屋兄も、学校の都合で来るのが少し遅れたが、その間ドンには三好兄が代打として騎乗していた。一方のライトは、長屋兄が来てからも、騎乗せず曳き馬のみと言う、最悪のコンディションだった。よく解らないが、肩のあたりを痛がると言うので、温水マッサージを朝夕やった。

いかにも力のありそうな馬達が、練習馬場で運動している間も、ライトは曳き馬だけだった。

競技第一日目、十月三日。

この日は、成年総合と少年障害がある。少年障害で、ドンに光星高校の宇野君が乗って出場。ライトには、帯農高校の山田君が出場する予定だったが、前日、長屋兄が馬の調子を見る為騎乗し、体調が悪いという事で棄権した。宇野君の成績は一落下だった。

競技第三日目　同五日

成年障害のある日だ。九十二頭参加中、ドンが二十八番、ライトが六十六番目に出場する。

ドンと半浦兄は、スムーズに経路をまわって帰って来。三落下だった。他の人馬が、回転でつめ向って伸ばす事を、極端にまで（確かに、僕の目には極端に見えた。良悪へ問題ではなく。）区別した為、余計にスムーズに見えた。タイムも一番時計に近いものを出したと思う。

ドンを見終えてから、ライトの出場準備をしに仮厩舎へ行った。曳き馬、装鞍、曳き馬、準備運動。準備運動は、こんなに短かくて良いのかなァと思うほどに短かかった。後で長屋兄に聞くと、この準備運動で調子が悪ければ、棄権しようと思っていた、そうだ。意を決っして出場。ぶっつけ本番とは、この事である。

待機馬場で、長屋兄に濡れタオルを渡し、ライトの蹄をほる。数分間の興奮の後、鞍を解き、頭絡をはめ、整備運動。一番大切な走行の事を全然覚えていない。くい入る様に見たはずなのに、何も思い出せない。鞍を解く時、長屋兄に、ツイタテは前肢で落したのか後肢で落したのか、と聞かれたが、全然わからなかった。結果は、三落下でドンと一緒だった。長屋兄は、観客が多く入場前に馬がビビリ、全体的に波に乗りきれなかった、と自分で言っていた。

最後になりましたが、国体中何かとめんどうを見て下さった、半沢先生はじめ、日高育成牧場の下屋敷さん、北星乗馬クラブの方々、山田先生、そして北里大学馬術部の諸兄、どうも有難うございました。とても観戦記と言える程の、具体性も客観性も内容もない、観戦記になってしまいましたが、主要な記録を付して終わります。

・成年総合

一位　ムネヒサ　中俣修　東京　減点七四・五
二位　アルファ　臼井功　青森　減点九一・八四
三位　トレント　児玉俊明　青森　減点九五・〇七

・少年障害

一位　ノーチカル　菅野雅敏　福島　減点〇
二位　エルグランデ　水元良治　滋賀　減点〇
三位　山陽ゆずりは　松村人　兵庫　減点〇
団体一位　栃木　二位　長野　三位　福井

・成年馬場馬術

一位　カブトセンプー　中俣修　東京　得点　一〇五九
二位　飛永　山根良彦　佐賀　得点　九二二
三位　タカノフジ　吉住豊　滋賀　得点　八八六

・少年貸与馬

一位　青森　二位　大阪　北海道は準決勝で大阪に敗れる。

・少年馬場馬術

資料ナシ

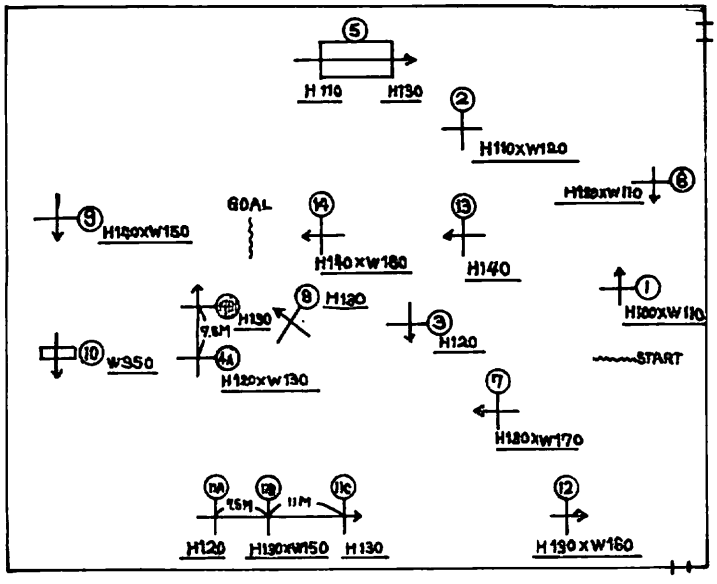
・成年障害

一位　スモールタイム　今井英和　静岡　減点〇
二位　グレイシンデレラ　都築瑞子　愛知　減点〇
三位　アトラス　岡田朋子　京都　減点四
団体一位　愛知　二位　京都　三位　東京
北海道減点二十四　団体十二位

・六段

一位　千曲　金子政夫　長野　百八〇cm完飛
二位　ノーチカル　清野海善　福島
三位　ヘリウス　園田正伸　佐賀

成年障害飛越競技（団体・個人）経路図



第29回全日本馬術大会

於　杉谷馬事公苑
日　五十二年十月十五・十六日
出場　バルクール・ド・シャスB
中障害

ドンホッパー　山本裕介(4)

秋たけなわの九月下旬、部馬並びに部員は、来る十月十五日の岩見沢親善馬術大会に向けて、練習に励んでいたころだったが、半浦君に、あっさりと代りに出場してくれないかとの頼みがあり、暇な私は、ハイエイムのこともあっていろいろ考えたが、結局引き受けることにした。前年の東京馬事公苑でのドンホッパー、スターライトの活躍を目撃しているだけに、まさか自分があんな大舞台に立つことになろうとは、ゆめゆめ思っていなかった。しかし、クラブの代表として行く以上は、責任は、重い。とにかく精一杯やろうと奮起して、ドンにまたがることになった。

出発前の調整と、競技そのものについては、殆んど一任され、私のかなり強引な乗り方と半浦君のていねいでむりのない乗り方とのギャップをどう埋めようかと困ったが、馬の方が大変素直で、調子良い様なので、そう問題はなかった。出発前の練習は、国体から帰ったばかりなのと、出発まで数日しかないことを考えて、軽い練習にとどめ、あとはぶっつけ本番までとなった。

帯畜大の柏美と共に、大阪に着いたのが、十月十二日で、これでも他馬に比べれば、早い方であった。杉谷馬事公苑は、大阪といっても南はずれの和泉市の丘の上にあり、静かな、まわりに人気のない淋しそうな所であったが、馬場や設備はよく整っていた。ある日、早朝よりさっそく畜大の竹内君と練習を始めたが、練習馬場にいるのは、杉谷さんや小畑さんのまたがるマンハッタンを始めとするオリンピック馬で、次から次へと引き出され、軽いウォーミングアップで、人の丈ほどもあるような障害をスイスイと飛んでいた。それを横目に我が北海道勢は、少々委縮して馬場のまわりをぶらぶら常歩で歩いて、障害のあくのを待っているという有様だった。北海道に比べるとかなり暑かったが、さすが遠征慣れしたドン選手の馬体の調子は良好で、山本選手の方が、少しかぜ気味で、気候の変化に少しとまどっていた様だった。ドンは最初、多少の物見もあったけれども、少しはり気味で、前へどんどん出てゆき、手綱を取って少しずつ運動を進めていくうちに、落ち着いてきた。細かい運動は、あまりやらずに歩度の伸縮、左右の回転、低障害の駈歩でのスムーズな飛越を中心として、最後に一二〇センチ前後の少し幅のあるものを数回飛んで上げるようにした。ハイエイムに乗っていたせいか、どうも踏切りがつまるような気がしたが、落下がないので不思議だなあなどと気楽に考え、別に気にすることもなかった。

試合当日は良い天気に恵まれ、コンディションは上々であった。試合の前は、いつも緊張して胸がつまるものだが、全日本の試合であることと、馬とのコンビがにわか仕立てであることを思うと、不安感も含まって、いっそうの胸の圧迫感を覚えた。出場一時間程前より、ぼつぼつと準備馬場に入った。半浦君の指示通り、まず三十分程常歩で楽にどんどん歩かし、うっすらと汗をかくまで、特に脚による前への推進性を念頭に置きながら運動を進めて、馬の緊張を高めていった。そろそろ出場という時になって、実にタイミングよく

半浦君から電報が届いた。「キシュハトクニサケニキヲツケロ」、すでに来ていたクラブからの「フツカヨイニマケルナ」の電文共に、偶然の一致か必然か知らないが、正にその時の私の状態は、当たらずと言えども、遠からずであったからつらい。苦笑しながら電文を胸ポケットに入れて、いざ出陣となった。

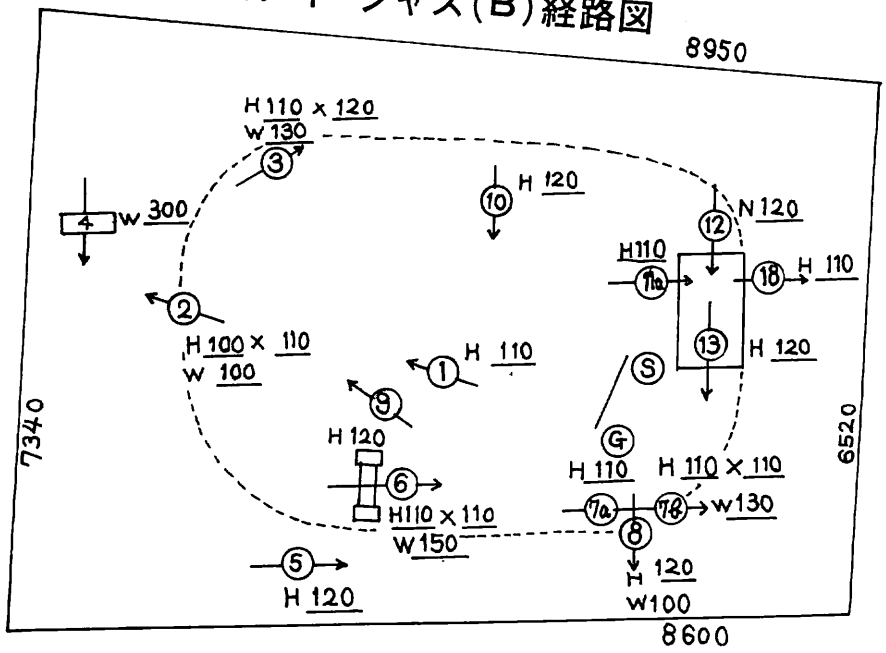
前年の全日本では、ドンはあれだけ飛んできたのだから、これは失敗は許されないと、騎手は、少々いれこみ気味。そして、さっそうと駈歩入場したつもりだが、実際は顔面蒼白だったかもしれない。敬礼後、スタートまでに、思い切り馬を前に出してからつめた。バルクール競技であるため、落下を極度に気にせずにスピードを意識していたが、第一障害は要注意で、かなり挙に追い込んでいった。少々馬が、左右にふらついたので、あれっと思い不安になったので肩に軽く鞭を入れた。直前でほんの一瞬止まった様に思ったが、馬体は、上にあがり無事通過。やはり、ハイエイムでの騎乗感覚が抜けないせいか、ドンは本当は落ち着いているのだが、突進性がない為、騎手ばかり、こわがっていた様だ。第四の水濠前でも鞭を使った。第五第六は、難関で、最初から斜めに向け通過。第六も斜めにそして少しつまって肢を当てながら通過した。第六は下に濠が掘ってあり落下する馬が多かったが、斜めの接近にもかかわらず、よく飛んでくれた。その後、騎手の体勢が少し崩れ、そのまま第七のダブルに突入したが、騎手はおくれながら、ひたすら馬まかせで運よく無落下だった。後半、第九から第十にかけてやっと騎手は少し余裕が出てきてドンも最好調の様だった。第十から第十二にかけては、まさにドンの天下で、その回転の良さに感心しているうちにあっというまにゴール。

成績のことは二の次にして、後の敬礼、退場の時は嬉しくてしようがなくて、思わず愛撫してやった。結局、無過失で、タイムは六十秒九と一躍トップに踊り出た。どうせいすぐに抜かれるだろうと思っていたが、案外一落下する馬が多く、後続十頭ぐらいまでは、第一位の思いをさせてもらい、ひょっとしたらと甘い考えでいたら案の定、ダイミキンセイ六十秒三、エルグランデ六十秒六と、たったコンマ数秒の差ではあるが、三位に落ちた。その後あきらめながらも、はらはらしながら放送に聞き入ったが、何とか三位の座は護った。（同点三位はいた）表彰式では、私はもちろんだが、ドンもわかっていたらしく落ち着きはらって、黄色のリボンをつけてもらって嬉しそうだった。とにかく、私の今までのスポーツ生活の中で、信じられない様な成績だった。そして、重荷が降りたような、張りつめた糸が切れたような、ホッとする安堵感が残った。

翌日の中障は、騎手は始めから落ち着くことが出来たにもかかわらず垂直障害で三落下してしまった。前日は、うまくいったように思えたのだが、やはり、騎手と馬との関係が、即席で、しっくりとしていなかったせいもあるが、障害へのアプローチと障害上での騎手の挙と脚の連関又は、馬口との連関が、つかめ切れなかったところにも、原因があったと思う。これ程の馬でも落下を防ぐのは難かしいものだなあと痛感した。

短期間のドンとの付き合いだったが、これだけやれれば悔いは残らない。また、こんなすばらしい馬に乗れ、全日本という大きな競技会に出場でき、それにもまして第三位入賞という栄誉を得たことは、本当に幸せである。

パルクール・ド・シャス(B)経路図



銀　座　屋

■工　　場　札幌市西区発寒８３４
　　電　話　(661)－１０９２

■本社・売店　札幌市中央区南1条西17丁目
　　電　話　(621)－０７０１

寿司，鍋もの，天ぷらなど（出前迅速）

各種御宴会・御会合等 承ります。

大将鮨

北区北18条西４丁目
TEL 742—７２０２

江戸前
政寿司
割烹 一品料理

本店 小樽市色内見附畔
電話③００二 ②００一一
支店 札幌市南二条西三丁目南小路
電話(511)０四四０ (511)二０三七

ハウス食品工業株式会社

庄内歯科

院長　庄内貞夫

札幌市白石区本通2丁目北71

TEL (861) 2504

スターライト号

病風号

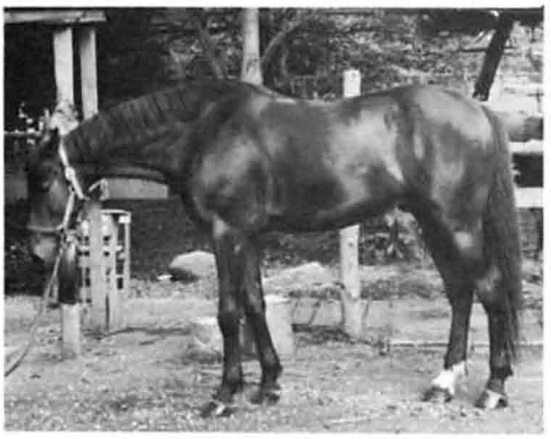
北燕号

北姫号

北騅号

北楽院号と三好兄

半蹄号



ドンホッパー号

ハイエイム号

天龍山号

北将号

スターライト号調教報告

牝　ア・ア　栗毛
昭和41年4月4日生
沙流郡門別町産
父　トモスベビー
母　銘乾
体重　504 Kg

長屋清隆

一昨年、三年目でスターライトに乗った頃はなかなか彼女そのものが摑めず、乗っていたというよりは乗せられていた状態で、無我夢中といったところであった。

四年目になってからは、今年こそは余裕をもって着実に調教を押し進めようと思ったのだが、その一方で重荷だったのは、スターライトという馬に乗る以上勝たねばならぬことであった。調教二年目ともなれば取り零しは許されないという意識に常に付き纏われ、結果的には逆に畏縮してしまうことになり大きなマイナスになった。高二年くらいで自分自身に完全性を求めるのはやはり無理なことだった。

試合が調教状態の全てを具現するものでは決してないのだけれども一年間の経過を端的に表わすつもりでごく簡単に各試合を拾ってみます。

・半沢杯　手綱にぶら下がっているだけで脚による推進が不充分であり、馬なりだった。馬が飛んでくれるだろうぐらいの潜在的な甘えがあった上に、長い冬が終わってまだ調子が摑めなかった。

・対酪農戦　経路違反。甘え以上に焦りがあった。部のみんなとスターライトに申し訳ないという思いで非常にショックだった。これ以降の試合に対する教訓になったことは確かだが、また躓きともなった。

・道自馬大　準備運動の完全な失敗から、運動の波と緊張とをうまく試合に繋げられなかった。このあたりまで天龍山との二頭乗りが大きな負担で、馬と人の気持がちくはぐだった。

・北日本　馬場が非常に広いせいもあって走行はスムーズに行なえたし、内容としてもほぼ満足のゆくものだった。第二走行の一落は誘導ミスによる騎手の足での落下で、なんとも恥ずかしい限り。

・道体　次第に随伴に無理を感じるようになる。準備運動ではいけると思ったのだが、馬場がかなり狭く感じられた。二、三日前練習中に止まられたが、騎手の完全な不用意のせいで馬の心理を無視していたんだとの反省から、試合では絶対止まられないだけの自信はあった。

・公認　騎座が甘い為にコントロールがうまくできず、走行がスムーズでない。大障Bは今までで桁はずれの、最悪の走行となり、目の前の障害を飛ばせるのに精一杯。一逃避も彼女が逃げたわけではなく騎手がおっかぶさって向け切れなかっただけ。惨敗。まさに

ドン底。絶望的な敗北感に打ちのめされて俺ももうこれで終わりかと落胆した。

予備人馬だったのだが、畜大柏栄の故障の為に急遽出場。前肢の故障で練習不足の為もあって呼吸が合わず、つまらぬ障害で落下。難しいと見えた大きな障害は全て完飛したのが悔みともなく慰めともなる。最終競技の六段飛越を観戦しながらふと思った。

・国体

棚からボタモチで国体に出場できたのも何かの因縁だ。これを契機に劇的な〃復活〃をしてやろう。

こうして全日学へと続くわけだが、国体前後からの両前肢の故障（屈腱炎）が長引き、症状が好転しない為に乗れない日が一ケ月近く続いたせいもあって重大決心してみたものの自信があるわけではなかった。ただこうなった以上偏にスターライトよりも自分自身に懸かっていると思い、体力的にも精神的にも自分を鍛えるつもりで夜トレーニングをした。前肢の故障は直前になって奇跡的に回復、全日学ではまさに幸運としかいいようがないが勝利することができた。何よりもスターライトの素晴らしさを今更のように思い知らされた試合だった。

スターライトは非常に素直で勇敢な、また前進気勢の旺盛な馬である。下級生を乗せて小障などに出す場合、彼女は割と騎手を無視するような感じで向けられた障害を素直にややひっかけ気味に飛ぶし、騎手は誘導の他はただ随伴していれば済む。しかし流石にチーフとして乗る場合は別で、当然のことながら彼女がその特定の個人を認知するに従って次第に騎手の不完全な扶助を何とか理解しようとし始める。お互いがはっきり摑めない為に衝突しやすい頃でもある。がだんだんと騎手の意識にまで敏感になり、騎手に一瞬の迷いがあると直ちに彼女も反応して所謂呼吸が合わない状態となって、落下等に繋がる。逆に確固として騎乗する場合、例えば練習中障害に速歩で向けた時、普通よりやや遠目でもこだと騎手が思うと、そこで馬が踏切るというようなことになる。手綱を引張るわけでもなく脚を強く入れるわけでもないが、とにかく馬がそれを感じる。とはいってもやはり無意識に何か扶助に類するものを行なっていて馬が微妙なそれを感じているのかもしれない。当然ここまで来ると脚による推進と柔軟なハミ受けの無い騎乗は考えられない。軽い馬であるが故にどうしても推進を忘れがちになるが、軽かろうが重かろうがとにかく馬は推進せねばならない。推進無しのハミ受けは有り得ない筈だ。

他の馬に乗った後でスターライトに乗り、ハミを受けて全身を使って運動する彼女の予想外の力強さに改めて驚かされた。情ないことだが、それまで彼女の力強さを過小評価していた。

彼女の歩様は放っておくと兎角せわしなく性急になりがちなので、特に速歩ではハミを噛んで頭を下げ全身を使って大きく動くように注意した。歩度の伸縮の場合にも回転の時にも頭を下げさせ、更には焦らせぬよう努めた。これは駈歩にもいえることで、出来るだけゆっくりしたテンポで脚による推進を興奮なく受け入れさせるのに苦労した。あくまでも推進あってのハミ受けだとの考えに立って減却も回転も常に脚を主体にし、手綱だけに頼って口向きを硬くしないようにした。放棄手綱でもある程度まで減却・回転等行なえるくらいになるのを目指したが、以前よりも進歩はあったと思うし興奮さえなければ左右の口向きは良好だと思う。まだまだ向上させられる筈だ。

毎日の運動のパターンとして、まず放乗手綱で歩かせた後に輪乗での常歩・速歩で頭頸の伸展低下を求め、次いで蹄跡上での速歩の歩度の伸縮・回転、更にはキャバレッティや低障害・不整地の通過というように序々に運動量を高め、集中的な障害通過を頂点とする波を作るようにした。下級生も乗せるのでなかなか思うようにはいかないが、下級生の練習をその波の一部に組み込もうと苦心した。下級生の練習だけを切り離して考えてその分上級生が後から乗って直す、というのでなく吉野さんが提言されているように組織的な調教という観点で捉えることが必要だと思う。一年生から四年生までが騎手の訓練と並行して各々出来る範囲で調教に携わる、という考え方。無論下級生の教育というのは非常に重要なのであるから、両者を両立させてゆく為に、合理的な練習形態の追求とその確立とが常に上級生たる者に課せられている課題であるのは言う迄もない。更に外での運動が有効で、不整地では飽き足らず馬場内での運動によるマンネリを打破する為にも出来るだけ外乗をするようにした。目新しい物件や新しい環境に対する馴致になるだけでなく、外での常歩・速歩等は体力作りにもなる。そういった意味で北大富士や第二農場の農道、それに古いのに加えて新しく二年目が主体になって作ってくれた野外障害の数々は非常に有効だった。時間が空いたら外乗を、というのでなく積極的に運動のプログラムの中に取り入れるべきだろう。プログラムという点では一日の運動に波を作っただけでなく、大まかではあるが一週間の練習の流れにも強弱をつけて一つ一つの課目をそれぞれ重点的にこなすことを試みたのだが、プログラムとしての具体的な形を伴う迄には至らず、だいたいの波を思い描いてそれに沿って運動するに留まった。一日、一週間、更に長期的に具体性のあるプログラムを組んで乗ってゆくことは難しいことではあるが確実に成果が期待できると思われるから、これから馬に乗ってゆくみんなに是非取り込んでほしい課題の一つである。

毎日の騎乗で常に心掛けたのは練習を必ず良い状態で終えること。騎手が充分満足のゆく状態になることは滅多にないが、ダラダラ運動を続けることは極力避けるようにした。添田さんが部報に書いておられるのと同様に、うまくいかない時はスターライトの気持を感じようとすることで最後は低障害一つでも或いは停止であっても良いと思ったらそこで練習をやめるよう心掛けた。三年目の当初彼女と喧嘩することが多く、その時の反省から出来るだけ飽きさせないように努め、更に則近さんのアドバイスを受けて、彼女が最終的にほぼ要求通りの動きに達したと判断した時点で装鞍を解いて上げるようにした。騎手の新しい要求を素直に落ち着いて受け入れたことに対する最大限の愛撫のつもりだった。だから時には普断より騎乗時間が短くなることもあったが、そのまま運動を続けるよりも良い印象を馬に与える方が効果的だと思って割り切った。

馬に乗る上で絶対不可欠なのが馬の心理に対する認識ではないだろうか。他の馬もそうだがスターライトは特に感受性が豊かであり、感情は毎日微妙に或いは大きく変化する。暑いから水をくれといったり外は寒いから中に入れてくれなどと甘えるかと思えば、昼寝の邪魔をすれば構わないでくれとばかりに鼻に皺を寄せて嫌な顔をしたりもする。試合に於いて勇敢だから神経が図太いのかというと大間違いで、全日学や国体の時などでも待機馬場では入場の直前まで常に厩舎の方角ばかり見て入場門の所は速歩になって出来るだけ避けようとした。彼女にとっても試合の緊張は耐え難いものなのだ。が一旦競技場に入ってしまえばそんな素振りは微塵も見せないわけで、恐怖心を彼女自身が克服しようと努めているその健気さには感

服させられ、どうしても彼女に馬以上の不思議なものを感じさせられてしまう。悍が高いのやら間が抜けているやつ、利巧・鈍重・勇敢・臆病・従順・反抗的など様々な感情のパターンを持つのが馬であるから、スターライトに限らず常にその心理を適確に把握する必要があると思う。調教過程で騎手の技術や馬のハミ受けの状態等には比較的関心を持っていても、その時点の馬の心理にまで注意を払わない場合が多いのじゃないか。

競馬に於いては、例え同年令同体重を持った馬同士でも、身体的に多少劣っていたとしても勝利への強い意志を持った方が勝つのだという。幾つかの全国大会でも、相当な力を持ちながら意志の喪失故に力を発揮しないでいる馬をかなり見かけ非常に惜しい気がした。馬の騎手に対する全幅の信頼を獲得し人馬の向上を目指す上でも、日々変化する馬の心理を如何に把握しコントロールするかは重要な課題ではないか。

スターライトは僕になかなか心を開いてくれなかった。お互いの意識が摑めないまま喧嘩することもあったが、慣れるにつれて騎手に注意を払い扶助を理解しようと努めるようになった。その一方で、生来の悍の高さに加えて騎手の技術の未熟さから運動量が多くなるにつれて興奮が呼び起こされてくる。彼女が彼女なりにその葛藤に悩んでイライラしてくる様がわかるようになった。イライラが高じて我慢出来なくなると爆発し、それ迄の調教は水泡に帰してしまうその興奮を沈静させる為に、運動に飽きさせないよう気を配るのと同時に努めて「声」をかけて彼女と対話するのを常とした。彼女はこの声には非常に敏感に反応し、例えば障害を飛んでそのまま走ろうとする時声を出して褒めてやると次第に走らないようになった。悪い時叱るより良い時思い切り褒めてやると驚くほど扶助に従順になる。とにかく声をかけて少しでも馬の気持を騎手に向けさせようとした。

こういった事柄は一見非常に消極的に思えるし僕も最初はあくまでも力でもって有無をいわさず強引に従わせるべきだと思っていたのだが、技術的も経験的にも未熟な者が騎乗し調教しなければならない事を考えた時、馬をコントロールして最終的に騎手の思う通りに動かす為にはあらゆる手段を講じて、騎手に対する反抗を少しでも未然に防ぐことが肝要だということをスターライトに教えられた。また馬に対して厳しいというのと冷酷であるというのとはまるで別のことであり、馬の気持を理解してやるのと馬を甘やかすというのとも同様に全然別のことである、というのは心すべきことだと思った。といってもうまくいく時もいかない時もあったが、上手に出るか下手に出るかその時の状況により判断した。

試合前の準備運動について。二年間大試合も含め色々な試合を経験したが、何れの試合もそれに至るコンディション作りと共に最終的には直前の準備運動が結果を大きく左右したといってもいいくらいだと思う。試合前の緊張は常に苦痛だったが、準備運動の出来不出来は人馬共に緊張と相俟ってそのまま試合内容に撃がった。

一口に準備運動といっても、天候・場所・時間帯や出番・回りの状況の違いもあれば人馬のコンディションも様々で、僅かばかりの技術で一定レベルの成果を挙げるのはなかなか難しく、準備運動と試合との関連性を明確に把握することは結局出来なかった。

スターライトの場合、三十分程度外を牽き馬した後概ね一時間を準備運動に当て、だいたい次のようなことを行なった。

装鞍後暫くは放乗手綱でのゆったりした常歩、次いで手綱をとって停止・後退・発進等織り混ぜながらどんどん歩かせ、気持がほぐれ

てきたとみたら輪乗を行ない一定のテンポでの速歩が出来るようにする。試合前スターライトは殆んどいつも興奮気味といってよく、問題は如何にして沈静させ落ち着いて扶助に従わせるかであったので、場所がある限り常に準備運動は輪乗を主体に行なってとにかく沈静させるのに苦心した。それが終わると障害通過に移る。中障であろうが大障であろうが試合の直前にやたら大きな障害を数多く飛ばせて馬を不安にさせるべきでないと思い、せいぜい高さ巾共一m内外の障害を通過するに留め、寧ろ扶助の許に良い飛越態勢をとらせることに努めた。それには回数・運動量共極端に多くならないよう注意し、無理なく良い態勢がとれたとの満足が得られた時点ですぐさまやめて常歩にしゆったり歩かせて落ち着かせるようにした。運動量が極端に多くなると逆に本番で充分な緊張が得られない場合があった。「逆調整」（アニマ一月号〃馬の心理を読む〃）の失敗といえるかもしれない。又、回りの他の馬が試合内容より程度の高い障害を数多く飛ばされ、失敗が重なるにつれて徴戒され酷使されるのを見るのは何とも傷ましい限りだった。騎手の緊張と不安を罪もない馬に強引に押しつけているにすぎない。試合の程度が高く、準備運動は愚か日頃の練習でも滅多に飛ばないような障害が出て来ても、調教過程で更には準備運動で人馬共に納得のいく結果が得られれば本番で馬が十二分にその実力を発揮してくれることは様々な馬術書にも書いてあるし、現にスターライト自らが身をもって実践し証明してくれた事実であったから、他の馬がどうであろうが全然気にはならなかった。

それにしても人と馬とが信頼し合い、気持が一つに撃がって「人馬一体」となるのは実に至難の業であり、スターライトとの二年間の競技生活に於いても僕が寸分の迷いもなく完全に信頼し切って乗れたと言えるのは、一昨年の全日本と昨年の全日学の共に優勝できた試合のたった二回でしかない。

昨年の不調の原因は、僕の技術不足に加えて今迄書いてきた事柄に対する認識不足であり、取分け天龍山との二頭乗りをしていた時期スターライトへの理解がなおざりにされていたのが技術的な未熟さとの相乗作用を及ぼした為と思っている。天龍山の方も結局満足のゆく結果が得られなかった。二頭乗りすべきでないのは百も承知していたがそうせざるを得なかったのは確かであり仕方のないことではあったが、しかし尚更もっともっと緻密に乗るべきだった。部に対して、そしてスターライト・天龍山に対しても非常に申し訳ないと思っています。スターライトという素晴らしい馬に乗せて頂いたことを深く感謝すると同時に、彼女の能力を充分引き出せなかったことを残念に思います。

これから馬に乗ってゆく現役のみんなには、一鞍一鞍を大切に、感覚的に乗っていってほしいと思います。馬の心理を読むのにも、自分自身の騎乗振りを知るのにも、また刻一刻変化する人馬の置かれている状況を適確に把握し何を為すべきかを判断するのにも騎乗感覚というのは重要な役割を果たす筈だと思うし、それを養い発展させる為の毎日の練習であり知識の吸収であると思います。そういったことに対する部員一人々々の意識が低ければ、良き指導者に恵まれていても良い馬たちが揃っていても新しい発見も無ければ何の発展もあり得ないと思います。このことはそのまま馬術部そのものにも当てはまる。我々は現役部員として何を目的としているのか、何を為すべきなのか、常に一人々々が考え、問いかけ、互いにぶつけ合っていってほしい。

更にこの調教報告とはまるで関係の無い、蛇足だけれども常に抱き続けて来た素朴な疑問を一つ。簡単に言ってしまえば、日本の馬術

家には何故こうも排他主義者が多いのだろう、ということ。様々な方式・流儀・考え方がある中でそれを頑に守り続ける人もいれば、逆にそれを頭から否定し拒み続ける人もいる。自分が今迄に築き上げて来たものに確信を持ち、強い信念で馬術に携わる、というのなら充分納得出来るのだがどうもそれだけではないような気がする。馬術というものの持つ難しさだと言ってしまえば簡単だけれども、素人に毛の生えた程度の大学の馬術部にとっては高度な馬術論議を頭から云々されるのは迷惑千万。時間は掛かっても地道に目の前の馬たちと一緒に一つ一つを確かめていくしかないのかもしれない。少なくとも現役部員にだけは偏屈な物の見方をしてほしくない。今自分達のやっている事に確固たる自信を持ち、更に新しい事柄を素直に受けとめられる余裕を持ってほしいと思います。自分達と正反対の事でも馬にとってより良い事かもしれないじゃないか。

スターライトも今年で13才。馬術部に新しい時代の到来を告げてくれた偉大なる北隼も今は亡く、スターライトは名実共に馬術部の大黒柱である。スターライトに続く馬として、ドンホッパーや疾風などを始めとする現役馬が確実に力をつけてきているし、部員の手によって新馬が育ちつつある。スターライトにはこれらの馬たちを更なる高みへ引き揚げていってもらいたいし、馬体管理に充分配慮すれば彼女自身まだ何年も今まで通り活躍してくれる筈だ。

これはスターライトに限りませんが、二年前の添田さんの言葉をそのまま後に続くみんなに贈ります。基本に忠実に、限りない愛と誠実さとをもって扱っていってやってください。

スターライト嬢

浪内陽子

ライト嬢もそろそろライトおばさんの年令と成りますが、やはり年のせいか、最近は下級生を乗せて、馬場の中を走りまわりっ択り振り落したりする事は、ほんとうに少なく成りました。やはり中年らしい、丸みを帯びてまいりまして、一層、風格を高めてまいりました。しかし彼女の小さな身体からみなぎる爆発的エネルギーと何事も恐れず前進してゆく気迫と、自尊心は、我々人間も学ぶべきところが多いのではないでしょうか。

最後に乗馬する諸兄諸姉はまず、ウエイトコントロールしなくてはなりません。彼女は重い人は嫌いの様です。そして　そっとそっと静かに飛びのり、背にまたがらなければなりません。最初から彼女に気嫌われてしまってはなりません。彼女をおこらせると、エサも歯をくいしばって食べてはくれなくなります。彼女はナイーブかつ非常にデリケートなのです。

しかし偏見はいけません　彼女もただの馬なのです。かわいい馬なのです。

羊蹄号調教報告

牝　ア・ア　鹿毛
昭和42年3月4日生
音更町十勝種畜牧場産
父　サラ　ハマテッソ
母　ア・ア　久亭
体重　485 Kg

中畠孝幸

今、羊蹄に乗ってきた一年を振り返ってみると、いったい何を教えたのかと自分に問い返さざるを得ない気持ちでいっぱいです。正直言って、昨年の秋頃になって、やっと、羊蹄の動きや感情が、特にそれまでの試合を通して握みかけてきたというのが現実です。あのように何度も失権を繰り返したのは、上級生から下級生までの部員に対して申し訳のない事でしたし、特に羊蹄に対しては、その大きな可能性を埋もらせてしまった責任を感ぜずにはいられません。

最初、羊蹄に乗り始めたのは、一昨年の十二月でした。その頃は停止時などに巻き込まれることが多く、口の動きに挙を敏感にするよう努めていましたが、引っぱり合いになってしまうことが多かったようです。二月になり、昨年の部報に山川さんが書いておられるように、蓄膿の手術を行ない、四月に入ってからも、一週間に一度は洗浄を行ないました。経過は良好で、以前のような膿が発するいやな臭いは無くなりました。

さて、春のシーズンに入り、五月には半沢杯、酪農戦の小障、六月に道自馬の中障Bに出場した訳ですが、半沢杯では記録では一拒止でしたが、馬のペースで、馬に振りまわされて帰ってきたというのが実感です。酪農戦では、競技場に入ってから馬が膠着し、スタートが切れずに失権というふがいない結果に終わりました。これは人間の士気にかかわる問題としてとらえなければならないということは、長屋さんが乗り替って、同じコースで、馬体の腹から血を出しながらも帰ってきたことを見れば明らかでした。さらに、考えなければならないのは、馬が競技場に入って、興奮し出すという事実に対する認識と対応でした。低障碍を、そのアプローチと通過後の冷静沈着に気を配りながら、もっともっと数多く飛ばせて、障碍に対する恐怖心を柔らげる必要がありました。また、競技場の雰囲気に対する馴致も欠けていたようです。さらに道自馬における失権によって考えさせられたのは、馬の興奮を如何にして飛越意欲に結びつけるかという課題です。特に準備運動というのは、馬に適度の要求を課し、興奮させ、それをまるめこむということの繰り返しであると思いました。羊蹄が、目をむき出して、障碍に意欲的に向って行って飛越する時の力強さは、経路廻りで感服していましたから、それを引き出すような気のくばりようが必要だった訳です。

夏に入り、私の技術が馬に追いつかないことにより、北日本の中障には山本さんが、総合には矢田さんが替わって出場することになりました。ところで、そこでの中障前々日の練習後、右前肢膝が異常に腫れあがりました。打撲であろうということで、主に水冷を行ないましたが、一時腫れがひいても、運動すると又腫れあがるということの繰り返しでした。札幌に帰ってから撮ったレントゲンには毀損して遊離した骨片が写った訳ですが、徐々に吸収されるという話で、現在でもやや熱があって腫れが残っているものの、快方に向っているようです。北日本での試合成績は、中障で三拒止失権、総合では十位、私の出場したB障では一拒止とタイム減点という結果でした。総合の余力は満点の成績で、障碍をひとつずつ拾うような走行は、私のただ障碍に馬をぶつけているという状態に比べ安定感のあるものでした。夏場にその後、道体の総合、バルクール、公認

大会での総合に出場しましたが、いずれも失権。特に馬が一度拒止した後の対応の仕方に問題があり、それまで経路廻り等で経験してきたことが何も身についていないと実感させられました。

秋になり、今考えれば、その頃になりやっと馬との折り合いを、掴みかけてきていたのですが、岩見沢親善大会の小障に出場し、一拒止。この時は、人間が一つ先の障碍に気をとられて気を抜いた為でしたが、羊蹄のバネの強さにあらためて魅了されたのも、その大会でした。

さて先の北日本大会で矢田さんが全日学の出場権を獲得したことにより、矢田さんが障碍競技に、私が総合に出場することとなりました。全日学の結果は、障碍競技は第三障碍にて失権、総合は　余力の第二障碍にて失権でした。総合の耐久では、十反抗、一落馬。大きく規定タイムをオーバーしてのゴールでした。十の反抗のうち半数は、人間がバランスを崩したせいと言ってよく、安定した騎座特に腰の強さの必要性を身をもって痛感しました。余力では、スタートまでの間に、馬のやる気を高めることが出来なかったのが悔やまれました。

最後に、一年間羊蹄に乗って、今後の課題と考えられることを述べてみたいと思います。第一に、確実な推進によって、常に馬がその推進を了解している事を確かめながら乗るということ。羊蹄が前によく出ている時は、騎手の手の内からはみ出ている事が多く、脚による要求につれて随時前に出すように心掛けなければならないと思います。第二に、低障碍を数多く飛ばし、障碍に対する恐怖感を解消させ、突進することのないようにするということ。今思い起こして、平野さんが戯れに曳き馬時、何度も障碍を飛ばせていたのは効果があったのではないかと思います。第三に、羊蹄の気の小ささを十分思いやるということ。競技場などでは、馬の興奮に際し、人間の側も、どうしてもあせりだし、馬を押え込もうとばかりしがちですが、なだめるようなおおらかさ（その点の妙は矢田さんが十分に見せてくれた）を特に羊蹄の場合は、忘れないようにしなければ駄目だと思います。

今は、親身に指導してくれ、全日学出場という機会まで与えてくれた矢田さんに感謝したい気持ちでいっぱいです。羊蹄で学んだことを生かして、もう一年頑張りたいと思います。

疾風号調教報告

騸　ア・ア　栗毛
昭和45年5月31日生
沙流郡門別町美原産
父　ア・ア　オーバーマイン
母　ア・ア　ミストビハヤ
体重　544 Kg

本城敬文

昨年、疾風はよく活躍してくれました。騎手の未熟さ及び怠慢さ故、その最高状態を持続することは出きませんでしたが。自分では理解してそのとおり行動しているつもりでも、自分に対する甘えが騎乗に際して気の緩みに連がり騎手の扶助や騎座の甘さを馬が感じとったのでしょう。考えてみれば夏の十和田への遠征の時が最も人馬共苦しく、それ故最も緊張した時期でした。あの時ほど彼の力強さ、すなおさに感動した時はありません。熱射病で着いた日からずっと体温が高く、体も弱っていて最悪のコンディションであったにもかかわらず、中障第一走行・第二走行・総合調教審査、野外騎乗

余力審査・B障を無事に好成績でこなしてくれました。しかも総合優勝という栄誉を残して。その後の道体や、公認大会はむしろ馬体のコンディションが良かったにもかかわらず、騎手が前回の好成績に酔っていて馬と一体になれなかったため失敗したと言えるでしょう。全日学でもそうです。甘さ。すべて騎手の甘さなんです。中障第一走行での失敗がなければ団体優勝できたのに。総合野外騎乗で落馬しなければ入賞できたのに。全日学はそういった意味で一番悔いの残る試合でした。しかし彼はよくやってくれました。つたない騎手の命令に対して時には反抗しながらも最後にはいうことを聞いてくれました。今卒部するにあたって彼にもう乗れないのだと思うと残念でなりません。せっかく彼がわかりかけてきたのにやり残したことはまだまだあります。でもこれがクラブのサイクルですからしかたのないことです。次に彼に乗る人のために、昨年一年間の彼と私の足跡をたどってみようと思います。

一昨年の失敗は前の部報に書きましたが、その対策として考えたのは馴致・徴戒と愛撫・人馬一体ということです。表現が抽象的ですが。一昨年の失敗の原因は騎手が頭脳の面においても技量の面においても未熟であったためですが、その現像として疾風に表われたのは、障碍を左へ逃避すること・嫌なことがあると必死で逃げようとすること・そして止まれと言っても自分勝手に走り回っていることの三点です。もちろん細かい欠点は他にいろいろありましたが、とにかく以上の三点だけは何としても修さねばなりませんでした。その由には何が必要であるかという問いに対しまず考えられたのが馴致です。馴致というのは便利な言葉で、毎日の練習で行なっているすべての課題（停止発進・三種の歩様での歩度の伸縮・障碍飛越等）が馴致だとも言えるのですが、ここでいうのはもっと狭い意味での馴致、すなわち様々な障碍の馴致と様々な環境の馴致ということです。どんな障碍でも恐がらない。どんな所でも平気で落ち着いて運動できるるということを目標に置いた馴致です。そしてその馴致を行う上での徴戒と愛撫。決して無理をしてはいけないがその時点での状況（馬の状態・周囲の環境・馬に課した要求の程度等）を総合的に判断した上で明らかに馬が反抗している場合の徹底した徴戒と、どんな此細なことにしろ騎手の要求に応じた時の愛撫。そして障碍を飛越するに際しての人馬一体・馬術の最終目標である人馬一体であります。すべての運動を馬との協同作業として騎手は確実に歩様や歩度や方向を要求し馬はそれにすなおに従い、騎手はそれを邪魔せず動きに追随し、障碍はその程度に応じた緊張を騎手は馬に求め、馬は十分な前進気勢でもってそれを通過する。

以上の点に視点を置いて彼に課した具体的な課題は

①街乗をできるだけ多くし、様々な物や環境に慣れさせ、野外での運動を日常茶飯事とする。

②障碍は低く変化のあるものを数多く飛越し、安定を計るとともに、障碍を特別視せずこれも日常茶飯事のこととする。

③日常縁の薄い藻や水を毎日できるだけ多く通過し、あたりまえのこととする。

④キャバレッティ、連続障碍、不斉地を利用し馬の足運びの機敏さを養い、また首を使うことを憶えさせるとともに踏切、飛越を安定させる。

⑤低い幅障碍を強い緊張を求めて飛越し、首を使わせて大きく飛ばせる。

⑥歩度の伸縮、回転を三種の歩様で停止、後退、旋回、前肢、旋回発進を交えて複雑に変化をつけて行う。（もちろん易しいのから除

々に難しいものへ要求を高めてゆく）

⑦運動に応じた緊急状態を脚と拳で馬に求め馬がその要求どおり動いている時には口を張譲って（許すのではない）誉めてやり、それでいいのだということを理解させてやり、騎手はできるだけ馬の動きを邪魔しないように努める。

⑧馬に対する要求をはっきりとし、馬にそのことを理解させるように努める。（叱かるときは叱かり誉めるときは誉める）そして運動の区切をはっきりとさせる。

⑨輪乗りで頭を下げさせ、ゆったりと落着いて運動させ側方の柔軟性を食うとともに、停止、発進後退をくり回し、顎の柔軟性と前進気勢を養う。

⑩旋回、前肢旋回、回転運動で側方扶助を憶えさせ回転をスムーズにするとともにアビュエへの移行を計る。

⑪できるだけ誉めてやる。

⑫足が悪いのでできるだけ柔らかい所で運動し、準備運動を十分やって（常歩30分位は最初に歩かせる）足及び筋肉への急激な負荷を避ける。

⑬彼といる時間をできるだけ長くし、馬との信頼関係を密にする。

等々のことでした。

さて一昨年の岩見沢での試合以後の経過を順を追って述べようと思います。まず岩見沢での失敗は、障碍飛越後の歩度の短縮と回転そしてそれに続く障碍へのアプローチでの緊張が不足していたこと。豪に対する馴致が不足しておりさらにその高度な要求を達成するのに必要な緊張を騎手が作り出せなかったことにありました。そこで歩度の伸縮を明確にすること、強めの緊張状態で障碍を飛越すること、飛越後すぐに減却すること（なるべく短い距離で速歩or常歩or停止させる）豪の馴致を徹底する（バーを掛けたり、平行、山形三段等にして変化をつけて）ことに重点を置きました。

十一月に入り全日学にスターライト、ドンホッパー、北隼、天龍山、ハイエイムが旅立った後のくやしさびしさ。八月の反省と来年こそはと決意を新たに練習するも、馬場は凍って街乗しかできなくなりました。硬い馬場を離れ柔かい草地を求め、恵廸裏や学生部裏で練習しました。最初は野外での運動は馬が興奮してまともには出来なかったのですが数を重ねるうちに落ち着き、他馬と下級生の部班が出来る程になりました。しかし野外であるため障碍練習はあまり出来ず、キャバレッティ単一か平行を強めの緊張状態で飛越することを十回程しか出来ませんでした。また他の馬場での試合ということを想定して落ち着いて馬場が踏めるようにと、輪線運動での三種の歩様での発進・停止・後退及び輪乗りを解いて直線上での伸縮（主に速歩で・駈歩ではまだ興奮気味であった）また輪線上駈歩からの反対駈歩への移行を練習しました。

十二月一月二月三月は雪上での運動。昨年は出せなくて唯ひたすら前へ前へだったのですが、一年間の彼との付き合いは無駄ではなかったというか、出すのにそれ程苦労はいりませんでした。そこで下も柔らかいので駈歩、速歩での歩度の伸縮と停止発進及びその中に低障碍を折り込んでいきました。

しかし二月の時点では、騎手が緊張にばかり気をとられていたせいか、彼は飛越に際し首をあまり使わず踏切も不安定でした。そこで3.5m門隔で置いた地上横木4・5本と単一か平行とを組み合わせ、踏切の安定化と首を使わせることを計りました。（これは一種の連続障碍であると考えていいと思います。）またもっと徹底して首を下げさせるように注意しました。また速歩でもキャバレッティに変

化つけキャバレッティと平行、ダブルを組合わせて彼に課してゆきました。約二週間もすると踏切はかなり安定し、少しは首を使うようになりました。障碍の種類としては同じ1m位の障碍でも単一よりはドラムの方が馬が注意して飛越するため踏切のミスも少ないようでした。

三月に入り、左後肢の踏み込みが悪くなり速歩で跛行するようになりました。管内側の骨瘤に熱がありそれが原因であるように思われました。とりあえず雪で冷やすこととし、跛行しない程度にまで運動量を少なくしました。足に負担がかからぬ様少ない運動量で、かつ馬を緊張させることを念頭に置いて輪乗りで常歩、駈歩で発進、停止、後退を中心に行いました。駈歩発進では特に頭を上げないように注意し、鞭で強制しましたがなかなかうまくいきませんでした。また駈歩発進にこだわりすぎたため、常歩が乱れチョコチョコとした歩様が表われ始めました。そこで三種の歩様をはっきりと区別して馬に伝えるように努力しました。

三月中旬に騎手の騎座の不安定が指摘されました。自分では鐙に乗れていると思っていたのですが我流になっていたらしく、鏡で見ると確かに踵が下がっておらず速歩では膝が前後に動いてフクラハギで支えており、上体も動きすぎるのは事実でした。そこで常に踵を下げ外に張り膝を着けて抱かないように打く脚を使うこと、できるだけ静かに騎乗することを心がけました。自分の欠点を指摘された時は頭に来ましたが、客観的に見て欠点は欠点でありそれを修することによって自分の技術の向上もはかれるのですから、しばらくは基本に帰るつもりで騎乗しました。結果的に非常にプラスになりました。

四月になってようやく氷も解けやっと待望の土の上で練習できるようになりました。この頃は新馬に乗っていることもあって拳に特に注意して騎乗し、銜受けも軽くしていたので速歩は前より大きくゆったりとなり不整速歩もしなくなり、駈歩でもゆったりとした歩様になりました。（もちろん運動の程度により強く受けることはありました。）

前からそうだったのですが彼が騎乗中始終耳を伏せていることが問題になりました。その原因として考られたのは、①騎手に注意を払っている　②騎手の拳、騎座が悪く馬を邪魔しているので馬がイライラしている　③馬本来の癖ということでした。しかし休めにして全く開放してやると耳を伏せないので小栗兄にも相談したところどうやら②の特に拳が悪いために馬がイライラしているのだろうということでした。そして拳を修すにはもっと口についてゆき拳の良くなるように停止や回転等いろんな課題を課することを注意されました。しかし不斉地騎乗やキャバレッティ、障碍飛越では耳は立って前を向いているのですが平場の運動では耳は伏せたままで修すことはできませんでした。トキよ俺が悪いんだが辛抱してくれ。

春休みの合宿では野外障碍も作り、野外騎乗の練習や新しい障碍の馴致を始めました。どの馬でもそうですが新しい障碍特に濠には興奮しかなり強い緊張でないと通過することは困難でした。また古い障碍でも上に板が乗っているなどちょっと変化があると非常にちゅうちょすることがありました。そこでわざと変化をつけて通過するようにし多少の変化でも恐がらなくなるように気を配りました。

四月下旬になりいよいよ試合シーズンをひかえ実戦的な経路回りを行うようになりました。その結果ペースはまあまあ良いが馬がかってに出てゆく（つっかかり気味・前進気勢ともうけとれる）つめて回転できるが扶助が荒いという欠点がはっきりしました。また小栗

兄よりももっと手綱を短く持って体を起こし強い衝受けでどんどん脚を使って緊張を高めて飛越すると良いということと、準備運動で馬を緊張させるのに一つの方法として馬場を二・三周駈歩で伸縮すると良いということを注意されました。実際その後でそのことに注意して五・六個の障碍を通過したところかなり興奮気味でしたがどんどん前に出て行き、小栗兄の後評ではいつもより安心して見ていられるとのことでまだ今までやってないことを急にやったのだから少々興奮するのもやむをえない、すぐ停止するから興奮しているともいえない、また騎手がかってに前傾するのではなく衝に引かれて前傾する感があって良いとのことでした。この時の注意が非常に参考になりました。今迄緊張ということを頭の中で考えてはいても現実にはまだまだ不足していたということです。

調教審査の練習も始めました。毎日、停止、発進、後退、回転、歩度の伸縮と基本的なことはやってはいたのですが、いざ実際に経路を回ってみると停止一つにしろ満足にはできず、決められた場所で停止や発進を行うこと、直進すること、運動の区切をはっきりさせることの難しさをあらためて知らされました。

いよいよシーズン開幕のトップを切って太泰杯・半沢杯・河田杯記念馬術大会が北大馬場で開催されました。シーズン最初の試合でもあるし肢もそれほど良くないので無理をせず複合に出場し、小障には下級生が騎乗しました。午前中はまず調教審査。試合の雰囲気に多少興奮はするものの思ったより落ち着いていて大きく乱れる所はなくどうにか経路を回って77 1／3。市川さんからは、トキはずばぬけて良いというわけではないが一定の流れの中である程度のことはできると言われました。速歩は全く伸びずアピッエも全くだめでまだまだ改善の余地ばかりですが一応70点位はなんとかなるというメドが立ちました。

さて午後は障碍。準備運動中に一度興奮して走り出したので一瞬ヒヤリとしたのですがどうにか落ち着きをとりもどし試合場へ、強い緊張ということだけを頭に置いてスタートを切りました。彼はどんどん前に出てゆき、つめる時に扶助が荒くなってスムーズな伸縮はできなかったもののペースはまあまあで満点でゴール。午前中の馬場と合わせて77 1／3で運よく優勝することができました。

小障では二年目の島村君が騎乗。下級生が乗っても小障位は安定して帰ってこれる馬を目標にしていたのですが、騎手が少々押しきれず出ていなかったものの彼は素直に障碍を通過し満点でゴール。雑念ながらタイムが遅かったので入賞には致りませんでしたが、無過失でゴールしてくれて一安心。あれでもう少し前に出たらなあ。

五月中旬には対酪農大学定期戦がありましたが、この時期に跛行が目立ち、獣医で見てもらったところ骨軟症だと診断され馬休の状態でした。当然試合には出せず、馴致の意味でも外での試合を経験したかったのですがやむを得ませんでした。冬期はカルシウム（リン含有）の量を増やし笹を食べさしたりして予防に努めていたのですがあまり効果を発さなかったようでした。治療のためカルシウム剤を静注しなければなりませんでしたが、愛馬に針を刺すのは気の進むものではありません。かと言って他の人間では出来ないというのでしかたがありませんでした。トキよ今年は骨軟症になるなよ。

五月下旬には遠乗会があり、全馬で茨戸まで行く計画をたてていましたが、彼は骨軟症から回復したばかりで肢もまだ良くなかったので途中まで皆と行って後は単騎で引き帰しました。馴致の意味で皆と行きたかったのですがこれもしかたありません。

六月中旬には北大馬場で道自馬が開催されました。彼には幸か不

幸か今シーズン続けて二度目の自分の庭での試合です。複合は五月の試合でまずまずの成績だったので安心していたのですが、三角地にあった準備馬場は仮厩舎と密接しており馬がそちらに気を取られて興奮しがちで最後まで落ち着けることができませんでした。結果102 1／2と目もあてられないものでまた障碍も、最初の緊張が不足していたため第一竹棚障碍で拒止、その後は騎手があせってただやみくもに出すだけで、飛越後つめて回転するのがおろそかになり馬をあせらせすぎで、第十ダブルBサイコロバーで落下。

中障は複合のような失敗はくりかえすまいと敬礼後の一分中に駈歩の歩度の伸縮を二・三回行ない十分馬を緊張させてからスタートしました。第一障碍は特に慎重に向けましたが後はずっと波に乗って満点でゴール。満点馬が数頭いたのでバラージュになりました。障碍は数が少なくなったものの各10㎝づつ上げられて140・130の障碍がずらり、彼にとっても私にとっても初めての経験です。今までは練習でも120位の障碍しか飛越したことがありませんでしたが、低障碍を数多くやって安定しておれば140位までは平気だと聞かされていたのですが、騎手がそこまで押しきれるかどうか、うまく随伴して次の障碍にアプローチできるかということが心配でした。それでとにかく死にものぐるいで前に出すことと最後まで体を起こして銜をはずさないこと飛越後すぐ体を起こして次の障碍への誘導に備えることの三点に重点を置いて試合に臨みました。彼はどんどん障碍をクリヤーしついに最終のサイコロバー。ここで騎手のあせりで障碍に斜めに向けてしまったのと、最終障碍だという安堵感で銜がはずれてしまったのとで落下し4。しかし他馬も一落以上したので結局タイムで一番速く運よく優勝することができました。

初心者障碍の西川君も出しきれてはいなかったが満点でゴール。タイムで6位になりました。下級生が乗って出せないということには問題がありましたが一応前回の試合も満点で帰ってこれたし、小障レベルでの安定は一応達成したと判断できました。

そして選抜障碍。この競技も人馬とも初めての経験でしたが中障のバラージュを一落で帰ってこれたのだからという自信がありました。しかし実際に障碍を見てその迫力に驚きました。こんな障碍を果してクリヤーできるのだろうか。いやクリヤーできなくても帰ってこれればいい。障碍を壊してでも帰ってくるんだ。騎手はもう死ぬ気でスタート。第一、第二通過、第三は第四への誘導が気になって多少斜めに向けてしまったため落下、続く第四は押しきれず止まりそうになりながらもようやく通過、第五レンガも通過、そして問題の140の垂直、これは下見の時にすでに落下してもしかたないと半分あきらめていたのですが彼はこれもクリヤー、最終も通過し4でゴール。これも運よく3位に入れましたがそれよりも140クラスの障碍でも十分通用するんだということがわかったのが最大の収穫でした。

太泰杯・半沢杯・河田杯と道自馬と北大馬場での試合が続いたわけですが、対酪農戦に出場できなかったので今シーズンは北日本への遠征前は他の馬場で試合経験を積むことは無理だろうと残念に思っていたのですが、フロンティア乗馬クラブ主催の試合が開催されると聞きそれもスティーブルがあるというので早速エントリーしました。第一から第三障碍までは走路の中の障碍で左右に全然逃げられないコースになっていたので、とにかく止まらないようにどんどん出せば良い、後は波に乗るだろうと思い最初はとにかく前へ出すことだけに専念しました。彼は予想どおり波に乗ってきて第四障碍以降も何なく通過してきました。しかし途中で試合の進行上、前の馬が馬場内の障碍を通過中であったため審判員に停止を命ぜられました。

せっかく波に乗ってきたのにこの停止は不利です。約20秒の停止の後再び馬場内の障碍に向けてスタート。馬場内の障碍に関しては落下と減点の対象となる試合形式であったのですが、馬場の砂が深く肢をとられやすいのと先程の停止とで調子が狂い馬場内の最初の障碍で落下してしまいました。結局一落でゴールし、外での試合及びスティーブルでの信頼性を高めることが出来ました。

しかし七月に入って北日本への遠征を約十日後にひかえたある日練習において、スティーブルの経路回りのタタミの障碍で馬が逃避し、また狂奔するという事件が発生しました。ここに来て今までの馬に対する信頼感が一挙にくずれ去り、遠征を前にしてどうすればいいのかと不安がつのる一方でした。逃避は誘導ミスと緊張の不足が原因でしたがそれにしてもまた一昨年と同じように狂奔するなんて。今回は比較的短時間で押えることができ、すぐに向け直して通過しましたが彼の強引さにはほとほとまいりました。完全に馬が甘えており騎手に対して反抗しているのです。そこで一つの手段として銜を少し細いものに変え、ドイツ鼻革を装着し、タタミに対する馴致を徹底すべく毎日タタミを野外のあちこちに置いてスティーブルの第一障碍と想定して、スタートの秒読みから第一障碍へのアプローチの練習をかねて特訓を初めました。最初はかなりぎこちなかったのですが少しづつ慣れてきたものの、まだまだスムーズではなく果して遠征までに間にあうのであろうかと内心冷や冷やでした。そして四日後、同じく野外障碍で今度は右回転してスカシクロスに向かおうとしたところ馬が障碍を見たとたん反抗して左に行こうとしたのですぐさま鞭で懲戒を加えその障碍を通過したのですが、運悪く斜めに振り降ろした鞭の先が右眼に入り眼球を傷っけてしまいました。大事な試合前にこんな傷をおわせてしまってどうしようかとも不安で一杯でした。もし失明でもしたら……。慌てて獣医の小池先生に診てもらい十分に洗眼した後抗生剤を塗布して冷湿布を行ないました。もう彼にすまなくてすまなくて、どうか失明しないでくれと神に祈る気持ちでした。診断は角膜炎で白濁が残るだろうが視力には障害ないとのことで一安心。数日後札幌をおとずれた水野兄にも診てもらったところこんなのはまだ軽い方だといわれさらに安心できました。しかし彼を傷つけてしまって試合に影響はないのだろうかという不安と試合前に完治するだろうか試合前の練習が制退されてだいじょうぶであろうかという心配があらたに湧きでてきました。この事件で一つだけプラスになったことはこれ以後彼が騎手の扶助に実に忠実になったということでこれだけが救いでした。

眼は完治しないまま貨車積みが行なわれ、馬は一路十和田へ。いっしょについていってやりたかったのですが。どうしてもついていけなかったので付添いの部員に何度も何度も治療法・注意事項を説明して彼のことをたのみました。

十和田着。馬達は暑い貨車の中でかなりグロッキーになり数頭が熱射病にかかっていました。彼もその中の一頭で、下熱剤を飲まし重ソウ・アリナミンを静注したものの一時下がった熱が数日してまた上がってしまいました。次なる手段瀉血。約2ℓ瀉血し体を水で冷やしていたのでですが回復せず、とうとう北里大学の家畜病院で冷水浣腸までやってもらったのですが効果なく、このままではせっかく遠征に来たのに試合に出れないとう状態にまで追い込まれました。たのみの綱は応援に来てくれると言ってくれた水野兄だけでした。水野兄が到着するやあいさつもそこそこにすぐ彼を診てもらい、ダイナトンやカナマイシンを注射してもら

って様子を見ることになりました。しかし試合まではもう日もなく、たとえ前日に体温が下がっても試合ではつかえないかと思われました。悩みました。中障はあきらめて総合にかけるか、思いきって中障につかって様子を見るか。でももし総合で全然だめだったら…。水野兄の意見も聞き、皆で相談した結果様子を見ながら第一走行だけでも回ってみようということになり、試合前夜に車のヘッドライトの中で約15分間運動させ、明日はぶっつけ本番。今の運動でまた体温が上がるのではないかと心配していたのですがそんな徴候もありませんでした。翌日、徹夜で看病してくれた水野兄や木村君の他皆の応援もうけて中障第一走行に出場。馬もあんまり疲労させないように準備運動も極力きりつめ、短い時間で馬を緊張させることに注意し、いよいよ本番。トキよ頑張ってくれ。何度も何度もそうつぶやきながら入場。最初に第一障碍と濠を少し見せておいて敬札しスタートへ。出ない。いや出るんだもっと前に。必死で脚を使いひたすら前へ。しかし第一障碍から馬体が思うように上がらず、迫力に欠けた飛越で四落。無理もない。ここ一週間ずっと病気でいたんだから。トキよ許してくれ。もうやめよう。

しかし馬体は悪化している様子もなく、これなら明日もだいじょうぶというので第二走行へ。これも準備運動をできるだけきりつめて出場。もう今日で終りにしよう。トキ頑張れ。第一障碍はどうにかまたいだという感じであったが、それ以後はどんどん波に乗って通過。ゴール。トキよくやってくれた。おまえのどこにそんな力が残っていたんだい。退場すると皆が集まってきてくれた、話を聞くと何と満点。（中障第一、第二走行を通じて満点はスターライトの第一走行とトキの第二走行のみ）でももうどうでも良かった。彼が元気に走ってくれた。それだけで良かった。

次は総合。体調がだんだん良くなってきたものの果してスティーブルの長丁場に耐えられるであろうか。今の彼にはいくら何でもきつすぎる。まあ様子をみながら調教審査だけでも出よう。調教審査の日は雲ときどき雨。ぬれるのは嫌だったけれど、彼には救いの雨。猛暑の中よりはよっぽどいい。調教審査は手綱を短く持って体を起こすことだけ考えて出場。途中駈歩運動中横のテントに驚いてよれた以外は無難にこなした。弱っていて興奮する元気もなかったのかもしれない。成績は別にどうでも良かった。落ち着いて馬場を踏めただけで十分。トキよゆっくり休んでくれ。

続く野外騎乗。お前だいじょうぶか。走れるか。まあいいさ、ここまで来たんだ、できる所までやって無理だと思ったら途中で乗権するさ。この日も運よく小雨。下がすべるのと水が溜って水濠の様になっている障碍があるのが気がかりでしたが気温が上がらないのが何より救いになりました。軽く準備運動をしてスタートへ。第一は単純な横木。これなら心配はないが慎重に慎重に。次の第二障碍最初の難関は飛び込み濠。それまでに緊張を高めるべく思いきった歩度の伸縮をやる。つめて速歩で回転し向けたら押すのみ。思ったよりすなおに通過し林の中へ、坂は滑るから速歩に落としそのタイムのロスを平坦なコースでかせぎました。水が溜って飛び込み水濠になってしまった障碍も無事通過。もう後は厩舎に向っての帰りのコースだ。トキ頑張れ。複雑な地形はかならず速歩に落とし、草原の直線はもう馬まかせ。彼の体力が心配で自分からはとても伸ばす気にはなれなかった。もちろん障碍前だけはもう必死。ニワトリ障碍もちゅうちょする暇もなく通過。トキよそんなにあせらなくてもいいぞ。ゆっくり帰ろう。いよいよ馬場が見えてきた。さあ後は馬場の中の障碍だけだ。もう少し。そうあと二つ。さあ最後だ頑張れ。

もういいよトキ、よくやってくれた。ありがとう、ありがとう。彼は素晴しかった。体が弱っているにもかかわらず、反抗馬が続出する難コースで満点、しかも一番時計でゴールしたのでした。私は全然急がせたつもりはないのに。この時になって初めて欲が出てきた。調教審査の成績を見ると何と—718で三位。スティーブル満点だから今は二位。運が良ければ……。

残すは余力審査。これも無難にこなし満点でゴール。運よく今まで一位だった馬が最終障碍で落下したので優勝することができました。

B障碍の木村君も押せないながらも二落下でゴールし、他の人間（三年の女の子）が乗っても安定していることを証明してくれました。

話しがだいぶくどくどと長くなってきたので後は端折って述べます。

次の遠征地は旭川。ここでは総合、中障、小障に参加。総合調教審査は、北日本での安心感から手綱が長くなり緊張を保てず馬なりで全くいいところなく、野外騎乗120・150という障碍で緊張がたらず二拒止。中障は誘導ミスで一落。小障は国枝君がバラージュに残り優勝。障碍に関してはもう大部安定してると思いましたが、かえってその安心感が気のゆるみとなり誘導ミスに連がっていました。また調教審査にしても馬を落ち着ける練習が不足していて障碍中心に前に出すことしかやっていなかったため馬に興奮することしか億えさせられなかったようです。これらの欠点は次の帯広での公認大会。そして全日学で表われてしまいました。

公認大会中障は誘導ミスで一反抗四落下というさんざんな結果で、総合も調教審査の最後の運動で外に出てしまい失権。

岩見沢親善馬術大会ではまあまあ良かったのですが、かえって安心してしまい全日学で失敗してしまいました。

全日学中障第一走行。鞭が少し長すぎ、出場直前に取り上げられたこと、はき慣れない長靴をはいたこと（その結果拍車がうまく入らなかった）の二つが主因で馬を前に出しきれず、緊張がつくり出せなかったためトリプルで一拒止、竹棚オクサーで一拒止、水濠落下。—1925

この減点が結局最後までひびいてライト、ドンが頑張ってくれた—にもかかわらず中障団体優勝をのがしてしまう結果になってしまいました。第二走行は鞭を持って拍車の位置を変えて出場し、水濠のおしい落下のみで—4。これがあたり前のトキの成績なのに…第一走行が非常に残念でした。

さて総合はというと調教審査は馬が興奮しすぎでトキの長所であるゆったりとした大きな歩様をいかせず—89。野外騎乗はどんどん前に出て馬の調子は申し分なかったのですが、飛び込み水濠でスピードがつきすぎていたため急激な減速に騎手がついてゆけず、馬の前肢がぐらついたのでこれはもう馬転すると思ってしがみつく努力もせず落ちたら何と馬転はせず落馬だけ。余力は一落。スティーブルの落馬さえなければ六位入賞もできたのに…。

とにかく最大の山であった全日学はのがした得物が大きかっただけに一番悔いの残る試合になってしまいました。

今彼に残された課題は、騎手の命令に対する絶対服従とどこでも落ちついて運動できるという平静さです。そのためには、停止や後退、回転、歩度の伸縮等どんな小さなことでもはっきりと馬に要求し理解させ服従させ運動の区切は明確にすること。

馬との共同作業としていい状態の時はできるだけ誉めてやり、運動の邪魔をしないように静かに柔かく騎乗し動きに追随すること。馴致を重ねいかなる環境においても平静でいられる訓練を積むこと。彼の長所であるゆったりとした大きな歩様を大事にしてやること。

細かい欠点は多々あります。停止でねばるとか、四肢をそろえないとか、アビュエがうまくできないとか、踏切がまだ安定しない等々。それらの小さな一つ一つづつの欠点は今述べた運動の明確を追求していけば改善されるでしょう。最後にあたりまえのことですが、「反復せよ、そして易より難へ。大担にかつ丁寧に」

今まで彼と私を見守りいろいろアドバイスしてくださった皆様、ほんとうにありがとうございました。この紙面を貸りてお礼申し上げます。またこれからも彼を北大馬術部をどうぞよろしく

飛べ友よ
明日に向って

天龍山号調教報告

岩田正勝

騸サラ　黒鹿毛
昭和43年3月6日生
浦河郡浦河町産
父　サラ　ネヴァービート
母　サラ　カンキヒメ
体重　556Kg

去年一年、天龍山に対しては本当に済まない事をしたと思う。自分の頑固さ（開き直り）、技術不足、考えの甘さ等々で、失権を繰り返した事はクラブに対してもマイナスだったと思う。

とにかく、昨年のだいたいの試合経過をたどると、半沢杯小障、道自馬中障Bは辛うじて帰って来たものの、酪農戦小障、北日本中障と、全くのところ騎手の技術と考えの不足で、失権した。一方、長屋兄が騎乗した半沢杯複合障害、酪農戦中障、道自馬中障A、北日本総合と、ゴールは切っているが、やはり、シーズン前の調教に問題があったと認めないわけにはいかないと思う。その後、道体、公認の中障総合と失権を続けたのも、騎手が馬を推し切れないというのが、その一番の原因だと思う。一方、失権を繰り返す中にも、遅過ぎたとはいえ、次第に馬との折合もついて、少しずつではあるが上り始めたと思った。10月15・16日の道内親善大会で、その油断がまともに出て、中障失権はおろか、帰って来ると思った小障も失

権し、関門飛越Aもひどい経路走行だった。

こうした昨年の反省から、これからの天龍山の調教のポイントは次の四点に絞られると思う。

一、彼の天性の重さをどうするか？

彼の重さというか鈍重な感じは、パドックに放している時、あるいは曳馬の時に見ても、まさに天性のものであり、それを、スターライトのようにせっせと歩く程にくつがえすのは不可能だと思う。しかし、一方、下級生の部班に加えると、前の馬との距離がどんどん開き、「出せ」と注意すると、下級生は騎座を崩して馬を蹴り上げるが、思った程には出ない。その最中に、「拳を起こせ、背を伸ばせ」等の諸注意を与えるのは、乗っている下級生にとって、かなりの無理であり、教育上、調教上の効果も薄い。ある程度の重さは覚悟しても、脚に対する柔順さは、今以上に発展させなければならない。

二、馬の肉体的条件

小池先生にも言われたことであるが、天龍山は心臓が弱く体力面でも持久力があまりない。それは計画的な運動量の増加と運動内容の工夫によって解決しなくてはならない。今一つ体の堅さがあげられる。上下方向、左右特に右方向が堅い。これに関しては、常歩速歩による不整地騎乗、回転運動、特に輪乗りが効果があると思う。

三、馬の精神的条件

天龍山は重い馬であるが、その実精神的には非常に敏感で、瞎病とも言える程である。そしてかつ、障害に対しては潔癖であり、これは長所の一つである。障害馴致においては、それをよく頭に入れて行なわなければならない。今のところ、シート等のひらひら動くもの、白くて長いものに対する馴致が必要である。

四、騎手と馬の関係

何よりもまず、一で述べた重さを強力な推進によって克服し、その後、諸扶助の了解を図らねばならない。口の柔かさを大事にして頭頸の伸展低下を促すことも必要である。この点に関しては、不整地騎乗、ゆっくりとした速歩運動を休めで行ない、その後、充分な推進のもとに、可能な限りに接触を丁寧に持つ方法を採用している。ハミを受けて運動している間に、首の上がるのが認められた場合には、拳を上げるドミアレか、あるいは休めからやりなおすかどちらかを行なう。さらに、精神的な面では、馬との信頼関係を強める為に、あらゆる扶助を明確に純粋にし、命令の実行を確実に求めなければならない。同時に、命令に対する柔順に対しては、餌とは限らず、それなりの馬が理解する愛撫、報酬が与えられなければならない。

以上四点がだいたいの所である。その他、馬体管理上、肢の問題がある。水野兄が乗り始められた頃から、肢の故障の連続であったが、昨年は大したこともなく、冬前あたりに、両前肢が軽じん帯炎を起こしたのが気になる程度で、跛行もほとんど見られなかったが、やはり注意は怠らないようにしなければならない。同時に、過去に鞍傷を起こした事にも留意して装鞍にも気を配る必要がある。

去年一年、天龍山とつき合ったものの未だに分らない部分がある。例えば試合で、推進不足で拒止するかと思えば、助走距離も満足に取れず、ろくな推進もない状態で障害をクリアするのは何故だかわからない。

とにかく、去年一年の失敗を今年一年で必ず取り戻し、さらに向上させなければならない。

ドンホッパー号調教報告

騙中半血　黒鹿毛
昭和46年6月30日生
勇払郡早来町産
父　サラ　オーシャ
母　トロ　ハゴロモ
体重　530Kg

半浦　剛

明け八才ですから競技馬として油の乗り切った充実期にこれから入ろうとしている言うなれば成年期にある馬です。適度な悍に恵まれ、時として思わぬ勇敢さを発揮し、満足し得える素直さをも供えた、乗用馬として、傑作の一頭だろうと思います。中間種にしては、体高も有り、胸が一寸狭いのを除けば、後軀の発達、首付き等も僕たちには申し分ありません。他馬に比較して、馬が若く、競馬にも使われたことがないので、概して骨瘤等脚部疾患は少ない様ですが、右後跛の腱鞘、繋靱帯、球節部一帯が弱いようです。しかし、体力、健康という面では部内随一と言っても、過言ではありません。無事是名馬。とにかく、馬に乗り始めて3年と立っていない者が騎るには一寸もったいない気もする優秀な馬であります。

冬場はソフトコンタクトでの頭頸の伸展低下を主眼に停止、回転等を丁寧にやる様心掛けました。右の口が幾分硬いように感じられましたが、特に輪乗りでどうとはせずに、ソフトコンタクトでの騎乗がそれ自体、口の左右前後の較わかさを生み出す物だとの説に解決を求め、固より回転の良い馬ですから、丁寧にやることによって維持増進を画りました。回転時の脚は意識して使う様心掛けました。

障碍は低い連続。いわゆるインアンドアウト、巾のある固定障碍等、常に目新しい物を多く飛びアプローチ及び連続障碍に対する安定化を画りました。当初は心配していた頭頸の伸展低下も冬場の間に、自分なりにかなり満足できるものとなっていましたが、まだまだでした。この頭頸の伸展低下もただ単に頭が低いだけではいけません、そこに騎手との充分なコンタクト、馬にはあふれるばかりの前進衝動が是非必要なのですが、これは窮極ともいえる目標ですから、そうそう安い物ではありません。

ドンは、目に映る物に対して非常に強い注意を向けます。時には何の変哲もない物に驚くことがあり、乗っている方がそれに驚くということもしばしばでした。又、放棄手綱で、不用意にM字乾燥などに向けるといやがられる経験もしました。しかし一旦騎手とコンタクトを持ち、緊張度が増すと障碍に対する潔癖さは驚くものがありました。しかも物に対する注意力も障碍を尊重するという良い面に発揮されています。ですからドンの場合、如何にコンタクトを高め緊張を高め、しかも落ち付いた状態にして、それを保つかが一番のポイントです。そんな事は当り前だと言われそうですが余りにも、小細工時間を浪費していた様です。だから、北里と東京で「びっくり症」を発病させてしまったのではないかと思います。「びっくり症」を発病させないもう一つの方法があります。それは、ドンの空元気に乗じて、それで押しまくるというやつです。これなら確かに「びっくり症」をおこす余裕がありません。しかし、そんな状態では、障碍を尊重する余裕も失なわれ、障碍飛越は落ち付きのない無造作なものになってしまいます。国体がちょうどその状態ではなか

ったかと思います。騎手にも余りに余裕がありませんでした。準備運動をもう少し何とかできなかったかと悔が残るところですが、山本君のAll Japan 3位は、試合中の技術もさることながら、この辺に成功の因があるのではないかと思います。

最後に幾つか感じたことを掲げて参考になればと思います。

①前述の様に準備運動は大切なことですから、日々の練習でこれを把んで下さい。

②大きな障碍を飛ばねばならない時、馬にその勇気を鼓舞するだけの強靱な脚が絶対必要です。

③調教審査の前の準備運動は常歩を多くし、興奮させない様特に留意するといい様でした。

④無知、無感覚による虐待が続くと馬は必ず悪くなるものだと思います。自分の意識できる最高の位置で馬とやりとりして下さい。

大学4年間の可能性は無限ですが、成し得る事には限界があります。我々は受動に生きる必要もなければ、能動に過信すべきでもないのです。これからのドンの活躍を祈っています。

ドンホッパーに騎乗して

笠間淳子

3年目の冬から半浦兄とともにドンホッパーに騎乗したわけですが、結論から言えば最後まで馬に乗り切れなかった。乗せられていたという感じです。

私からみれば、馬は完璧に近く、少々重いとはいえ、その内在している力にはすばらしいものがあります。あとはどこまで乗り手がこなせるかでしたが、非常に難のない乗りやすい馬であることで、私自身、どこかにすきができ甘えていたことは否めません。障碍に向かった時の気迫など、むしろドンの方がまさっていたのではないかと、反省させられる次第です。また、日常の練習では一連の運動を課してはいましたがその域を出ず、野外や障碍物の馴致、実際の試合での馬の緊張感等に、練習不足、経験不足も手伝って、疑問点を多く残したまま終わってしまい、ドンを理解できたとはとてもいえません。しかし、継続してドンに騎乗できたこと、私にとってたいへんプラスになったし、幸せだったと思います。

調教については半浦兄が記してくれると思いますが、私が気がついたこととしては、逆鞭を使う時、口に悪影響を与えやすく、注意が必要ではないかということ。また、まだ若いので、ひねくれていない反面甘えている点、わがままな点も多く、これをいかに抑えられるかが成功のカギではないかと思います。

ドンはやはり名馬です。でもそれに負けず、またそれにおぼれず、常に上をめざしていけばもっとすばらしい馬になることと信じます。

ハイエイム調教報告

牝　ハンター
昭和41年生
オーストラリア産
体重　588 Kg

山本裕介

昨年十二月より平野兄の後を継ぎ、僕がハイエイムに乗ることになった。御存知の通り、三年前に入厩、あっという間にハイエイム旋風を巻き起こし、いろいろな意味で、話題をふりまいた馬である。オーストラリアでどんな生活をしてきたのか知らないが、頭に血が昇りやすく、とにかくよく走る。そうかと思えば障害前では止まりもする。飛べばとんでもないところから踏切り、流麗な弾道を描くが、落下の名人（馬？）である。そして一名「怪物」とも呼ばれる。

どうすれば良いものかとしばらく乗ってみた感想は「重い」ことであった。僕の乗る限り並たいていの脚では動かない。そのくせ頼みもしないのに、勝手に出てていってしまうことが多い。これはやはり、動かせるだけの脚から出発しなければならないと思った。それには確固たる騎座が必要である。ハイエイムの幅広い背中にfixするにはどうしたら良いか。何やかんや言っても、乗り込んで慣れる他はなかった。

十二月。馬場状態が悪く、野外の草むらでの練習が多かった。最初は、輪乗りとキャバレッティを中心に、ハミ受けと頸の柔軟、障害へのアプローチの沈静を主眼とした。輪乗りでは、どんどん内にささってきて円がだんだん少さくなり頭も外を向き正確な輪線運動がなかなかできなかった。回転時における内方脚を効果的にするためにも、輪乗りや旋回運動で、特に内方脚を解らせる必要があったが、これは、最後まで満足いくまでには至らなかった。

一月。全くの模索状態で、何とかなだめながら、つっ走られないように乗っていたが、島松のすずらん乗馬クラブの運動会で一メートルにも満たない小障害で何回か止まられ、勝手にどんどん走られてしまった。充分な準備運動が、出来なかったせいもあるが、全く予期しなかったことでがっくりきた。

二月、三月。右後肢管内側に大きな血腫を二回もつくり、運動は常に控え目で、障害の飛越量も不充分で、障害の調教は停滞していたが、輪乗りによる沈静した停止発進、特に駈歩での停止発進、輪乗りの開閉なども繰り返し、僕の方の騎座、脚もやっと馬に慣れてきた。

四月。半沢杯への準備もそろそろしなければならなかったが前月からの肢の様子を見ながらの練習が続き、まだまだ本格的な障害飛越練習はできなかった。キャバレッティを組み入れた一連の運動では、横木を蹴散らしてすっ飛んでいくようなことは見られなくなり、それにつれて低障害の速歩飛越も安定してきた。障害は、脚を使ってしっかり受けて数多くこなすようにした。半沢杯が近づくにつれ、どうにか駈歩での低障害飛越まで曲がりなりにも、もってきたが、大きな障害走行では何が起こるかは、実感としては全く経験がないので大変不安だった。

五月。腑甲斐無いことではあるが、試合直前に、たちの悪い時期はずれの風邪にかかり、一週間も寝こんでしまい、半沢杯は断念し

た。中障害には、まだ人馬共に尚早だったという観点からすれば、無理があったかも知れないが、試合経験しなかったことで、止まらないという自信が崩れる時期が遅くなったかも知れないという点では大きなマイナスであった。今から考えると、むしろ後者の害の方が大きい。それから二週間余り、余力障害程度まで、程度を上げていったが、どうしても障害が大きくなると、興奮して突進してしまい騎手の方は、それを力で押えるのが精一杯だった。そんな折の経路回りで、前に出るのをただ拳で押えてゆっくり向かったところ、止まられた。あわてて脚不足に気付き、脚を強めて少し前をゆるめてやると後は止まる気配はなかった。この辺のアプローチにおけるスピード、脚、拳の操作の兼ね合いが、ハイエイムの拒止癖については非常に難しいものがあるということが今さらながらわかった。

そして忘れもしない対酪農戦。心配していた先輩方の失敗をまたもや繰り返してしまった。一キロメートル余りの野外騎乗で歩度を落とさずに急回転してしまい馬転し、僕は、足首を骨折してしまった。ゴールを切ったものの惨たんたる走られようで、次の中障害は出場できなかった。馬体の方が、無事だったのは幸いだったが、それから一ヵ月、僕とハイエイムとの関係がぷつつり切れてしまい、六月の道自馬大会も、僕での出場は、涙を飲んであきらめなければならなかった。そして、いちばん大切な時期の一ヵ月間を失ってしまった。

七月。復帰後、本番の北日学までは半月の猶予しかなく、人間の方はだいぶ焦り気味だったが、運良く、石狩のフロンティア乗馬クラブで競技会があり、中障に出場した。しかし、第一、第二、第三、拒止であっけなく失権してしまった。競技会での本格的中障害は、これが初めてだったが、まさに危惧していたことが起こってしまった。大丈夫だと思っていただけにエムのこの理解し難い、拒止癖をそのころになってやっと身を持って痛感した。しかし遅過ぎた。

八月。本番。例により、準備馬場ではどんどん興奮してしまった。伸長した運動、特に伸長駈歩をなるべく行うようにしたのでそれを止めるに必至で、騎手は、体力的にへとへとだった。それに、前月の試合で止まられたままだったので、一か八かの大勝負ということで精神的にかなり参って委縮していた。さて入場の時から猛烈な勢いである。つめる間もなく、スタート、第二、第三で拒止。もはやこれまでかと半分焼糞になって鞭で徹底的に懲戒すると、変った。行く気が出たようである。後は、ただ向けて推すだけで気が付いた時はもうゴールしていた。成績は悪かったが、ここでゴールしたことの意義は大きかった。これで馬が調子付いてきた。第二走行では、僕も少し落ち着くことができ、前日より安定した走行ができた。ゴールのみを考えて落下のことは二の次であったが、やはり落下が多く、最下位であった。

総合では、魔の泥沼スティープルで、スリップ、馬転は目に見えていたが、押え切れずに各障害で何回となく滑った。馬転してハミが、頭絡ごとはずれたり、やぶの中にっつ込んで動けなくなったりして、相当のタイムオーバーで泥々、傷だらけで帰ってきた。おかげでキュロットとその下までだめにしてしまった。余力は四落で結局総合も最下位だった。全日学の権利は取れなかったが、この十和田での北日学の経験は、後に続く尻上がりの成績に大きく役立った。道体（旭川）の中障害を基として、始めて障害前での突進を押えることができるようになり、落下も、止まるという不安と共に減ってきた。公認大会（帯広）では最好調で一落一止で三位に入賞、初めて「紙」をもらった。

九月。キャバレッティ云々というよりも実戦面の練習を主に、もともっと手の内に入れた飛越を考えて練習した。

十月。ドンホッパーで全日本に半浦君の代理で出場したので、半月ぐらいハイエイムについてはおろそかになっていたが、全日学出場の可能性が出てきたので、全日学目指差して再練習ということになった。しかし、ちょうど右前肢の腱炎を起こし本格的な経路走行を試みないままに貨車積となった。

十一月。全日学。肢の方は、そう必配はないようだったので安心して試合に臨んだ。我がハイエイムは、切り込み隊長とばかりに、北大勢のトップを切ったが、少しブランクがあったせいか、また、突進を押え切れなくなっていた。しかし馬場が広く芝であるために回転に不安はなく。走られても、必至で脚を使ったので止まる様子はなかった。何と一番時計でゴールした。案の定五落下。でも威勢のいいところだけは、北大勢の景気付けとしては役に立ったように思う。第二走行は、一変して調子をとりもどし、規定タイムをオーバーするほど、障害間でつめることができた。特にトリプルでは、他馬より一間歩少ないが、障害をよく見て飛んだようである。そのおかげで、三落に留めることができた。あこがれのオリンピック記念馬場で、エムがこれだけやってくれれば、団体成績には貢献しなかったとはいえ個人的には満足だった。

これでやっと終ったかと安心していたら、豈に図らんや、北里大の馬が二頭も棄権し、急遽、ハイエイムが、浮かびあがり、総合にも出場できることになった。調教審査は、いつものことではあるが興奮してしまい、今までの最低のできだった。スティープルでは、その年から速歩区間が設けられたのが幸いした。速歩区間は、千二百メートルの走路を二周するのだが、馬が速歩ではがまんできず、目いっぱい走ってしまい疲れたせいかスタートを切って第一障害を通過したあたりから丁度良いペースに落ち、後は馬なりで障害前で推してやるだけで、苦手の狭い林の中や転びやすい水濠飛び込みもうまく切り抜けて、規定タイムぎりぎりで減点〇でゴールした。ハイエイムに乗って以来、初めての減点〇で、嬉かった。

おかげで日の丸必勝のはちまきは、恥をかかずに済んだ。余力では、慎重に向けることができたにもかかわらず、疲れのせいか肢が上がらず四落下してしまい二十一位に終った。

以上、一年間の経過を記してきたが、終りにハイエイムに関して、これまでの経験を通して二・三まとめてみることにする。

突進について――最初はどうしても腕の力に頼ってしまい引っ張ってばかりいるが、こういう状態で障害に向けてしまうと、結局、馬に止まる自由を与えることになる。どの馬でもそうであるが、やはり基本であるしっかりとした騎座と脚で前に推すことがあってこそはじめて拳で止めることが有効になってくる。ただハイエイムの場合、そのスピードに惑わされてしまって脚を忘れてしまいがちである。むしろ勝手に出れば出るほど脚を使わなければならない。そしてもちろん推進力を柔かく受け止めるだけの拳をもちあわさなければならない。その辺の感覚、つまり、今馬が、自分の脚に従って動いているのか否かの判断を細かいレベルで、要求されてくる。ハイエイムの場合特にさっきも述べたが、そのスピードと力に、感覚が、乱されてしまうのである。

拒止について――突進の所で述べたように、もちろん推進不足は、致命的であるが、ハイエイムに関しては、いったん行く気を出してしまうとそう苦労はしない。つまり、準備運動でいかにして、行く気、緊張を作り出すかである。準備運動では、必ず興奮してくるが、

その興奮を逆手に取って、行く気と緊張に変えてしまえばいいのである。ぼくは、かえってそういったことの方に、注目してきたぐらいだ。一例として、準備運動の中に、野外を精一杯脚で前に出して走らせることを取り入れた。ふだんの練習時にも、できるだけ野外で走るようにした。走ることにより馬は興奮するが、かえって走った後の運動の方が明らかに御し易かった。

落下について――今となっては、馬の方から飛越自体をどうこうするということは、新馬ならいざ知らず、かなり難しいことだと思う。僕としては、はじめは、低くはあるが、エム独特の弾道を大切にしていこうと思っていた。しかし試合経験を積むにつれ、つめたアプローチができるようになると、脚と拳の中に馬をかなり規制してやった方が、落とさなくなってきたという事実を認めざるを得なくなってきた。それを偶然だと言われれば、それに反論するだけの量の経験を踏んだわけはないが、障害はつめて飛べという原則は、エムにも当てはまるものと思う。

騎手の調教に対する姿勢――馬事公苑で、千葉幹夫先輩と会った時のお話だが、馬は簡単に言えば止まれといった時に止まり、出ろといった時に出て、曲がれと言った時曲がることが第一条件であるということ。あたり前のことではあるが、このことに騎手は常に立ち返らなければならないと思う。つまり基本に戻れということにもなる。

思えば、僕よりもっともっと苦労された水野兄、平野兄のやられてたことを技術的には、完全に受け継ぐことができなかったが、へたくそな僕がこれだけやれたのは、まさに三年間の調教の積み重ねの結果である。そして今後も、まだまだ伸びる馬だと信ずる。どうか、がんばってもらいたい。最後に、

ハイエイム万歳

北燕号調教報告

矢田　明

騸　サラ　鹿毛
昭和46年3月14日生
勇払郡鵡川町産
父　サラ　マタドア
母　サラ　リュウウエー
体重　586 Kg

彼の優しさ、私は、出来得る事なら、親友になりたかった。彼は優しすぎるくらい優しいし、私の我ままな、態度も、幾度も何度でも許してくれた。その寛容さは満ち溢れ、何とかして学び取りたいと思った、卒直な態度、素直さ、それらは、勇気を、十分に補っていた。意識が、その実直さを持ち、無意識に描いた人間の理想像の射像。自分の無力さ、不実さ、不完全さ、そして人間である事を、考えるだけで、生きる事が急になる。

あなたも、彼と一日を過してごらんなさい、彼の目を覗いてごらんなさい。きっとわかるから。

予定と大差無く調教を進めて来られた事が、一つうれしい。しかし、全日学に連れてゆけなかったのは、彼の目を見る事が出来なか

ったほどに口惜しい

昨冬も、馬休が多かった。管骨瘤の熱感が原因である。ようやく練習が始められるようになったのは三月であった。日記より、

『三月二十四日、七十分騎乗。構内一週。川の水が雨のために増え気分は上々、少し熱いくらいで汗が出た。至る所水浸し！　下さえ知っていればどこでも行けるのに！　学生部の側の池に入った。水を飲んだ。敢然と北大富士に挑む。数回昇降、彼少し汗ばむ、足に来たようだ。明日の朝が心配だ。』

足を気にしながら、頭を下げて歩かせるように気をつかい、逆鞭を用いながら気長にやるしかなかった。口向きが悪いために回転が思うようにゆかず、筋力トレーニング（山登り）とともに、多く消化した。

『四月十二日　一時間半騎乗　調教と馴致を重ねてゆけば、反抗は有り得ない－然り。時間と精神の余裕が欲しい。否　必要なのは、調教者としての忍耐強い精神である－急がば廻れ。

山登り、そして馬場での輪乗り。監督に乗っていただく。口が、固くなっているのを気にしていると、やはり、指適され指導して下さった。』

外での筋力トレーニングを兼ね、野外障害の馴致を繰返す日々が続く。豪で反抗を見せた事もあったが、数を重ね、褒める事で馴らす事しか思いつかなかった。

『五月七日、外での作業のかわりに、馬場内での速歩、駆歩運動。留意点・巾障害を多くやる事　・停止が悪い。絶体に引っ張らぬ様に！・左駆歩の発進　・直進する事。』

『五月二十二日　対酪農大学戦、総合競技調教審査、案の定　減却が思う様にゆかず、食出したり、点を通過してしまったりで、かなりの得点を失った。アビュイエも、ふらついて前に進まず、またしても手前で終ってしまった。減却を良くすれば　(一)81・5が70点にはなると思う。

野外ではワンコを着けなかったために落鉄。浅薄だったかもしれない。波に乗ると拒止は無くなるものの、バンケット豪のようなタイプの障害、巾のある障害は嫌う。障害の前での一押しに対する伸びが無い事が良くわかった。』

太奏、半沢杯、酪農戦、そして道自馬大会を通じ、私にとって一番大きな収獲は、中障害レベルの高さを飛越出来る様になった事、一番大きな失敗は、道自馬での中障害で、ベル前スタート失権をしてしまった事、馬の事から言っても、自馬大会で少し無理をさせてしまった事が、その後も影響した事だ。

道自馬の後七月の中旬まで馬休が続く。大きくしてしまった骨瘤を夜通し冷した一週間、吉田妹ごくろうさん。この時期に私は鎌田先輩の家にご厄介になり、畜大に世話になったり、新馬を入厩したりで何だか一人あわてていた。

『七月二十日　右の口は固い。体も固い、外に出て体をほぐしながら、野外障害の馴致を行う。すべてクリアー、まだ忘れてはいないハミにねばるのを何とか止めさせねばならぬ。推進によって後駆を踏み込ませる練習を重点的にやりたいのだが、どうしても、前に出す事しか出来ない。うまく縮まらない。扶助が乱れる。

障害につい立てで大きく左へぶれる。拍車をつける。少しひっかかり気味だがうまく飛越する。』

後は、試合のことだけであるから詳しくは語らない。準備運動の事に関して述べたい。私の場合、中障害レベルの競技の経験が浅く馬も若いために、準備運動をどうしても長く、自分で納得するまで

やってしまう。そのため馬はどうしても疲れ気味にならざるを得無い。しかし、不安には勝てず、さっと済ます事が出来なかった。そのためか踏切は安定したものの、一試合四落下前後の成績に終ってしまった。能力と　準備運動の両方に欠点は有ると思う。

試合を拾って。

道自馬選抜中障害、曲線コースに七つの一二〇～一四〇の障害が並ぶ。私も馬も、こんなレベルは始めて、何とか帰って来たい。それだけだった。待機中に拒止したが、試合では三落ながら帰って来れた。待機中の拒止は問題が大きかった。簡単な話、止まる様な練習はしてはならんのだ。

北日本学生馬術大会総合二日目、二頭乗りのために朝からニンニクを食べて準備していた。野外へスタート。一障害から少し距離をおいて二障害、巾二五〇長さ五〇〇深さは九〇もあったろうか。その大乾濠に丸太で枠をつくってあり、飛越したい中央部は飛べるような高さではない。両脇を通るしかないのだ。常歩ながら馬は飛び込んだ。さあ、ワン、ツー、スリー　あれあれ！　何と馬は半分しか上がれず傾いて濠の中にさようなら、私は、濠の外へ放り出されてあっけらかん。審査員と目が合う。中の馬に外から乗り、くるりと回って、今度は脱出。今思えば笑い話し。しかしその落馬に、全日学の夢が降りつける雨と消えた十和田　八月五日。

八月二十一日旭川での国体予選を兼ねた道大会、慎重に準備運動を終り、いわくつきの中障害。というのも　馬連の方で、成人障害の予選として行いたいので一四〇の障害を入れる事を認めてほしいという要請が有り、畜大、北大でやっきになって反対したのだった

スタート　引っかかる事も無く、良いペース　踏切も良く合う。障害は大きく見える、ドラム平行など、すごく恐ろしかった。愛馬は良く飛んでくれた。五つの落下もなんのその、二人とも十分やったんだし、その時自分は馬と一つになったような気がしたんだから。その中障害、あれだけ反対した北大は、一、二、三位を占め、かつ失権した一頭を除いて一四〇を五頭がクリアーしているのだ。皮肉なものだ。私はただ失権した一頭に何とかして還って来てほしかっただけだったのに。

帯広の大会は、悪天候の中を何とか四落下、早く帰って休ませてやりたいと、そればかり考えていた。

彼をつれて行けなかった全日学、何とも言えぬ思いが込み上げるもう自分のところから離れてゆけるようにと、わざと近付かずに、彼に対し、冷たく振舞うことしか出来なかった空な日々。全日学ではみんなでがんばって勝ちたいな。せいいっぱい　願張って！

去ってしまった日々は変えられない。明日を生きるのみ、と思って北燕号に近付かないで過していた日々。久々に乗ってみれば、皆忘れている。人も馬も、これじゃいかん。早く後輩たちよ、彼の面倒を見てやってくれ。

本村先輩が一年余りで作り上げた馬、デビュの小障では一落下で二位。幸運にも二年間乗せてもらった自分は、総合四位がいいところ。少なからぬ悪癖を残し、わずかばかりの進歩もあったか！

引き継がれる者に望む。今度こそ、三代目こそ彼を男にしてやってくれ。

切なる望みを託し、この報告を終ります。不肖　矢田

北楽院号調教報告

騙　サラ　鹿毛
昭和47年4月6日生
静内郡静内町産
父　ミンシオ
母　ジュラルディンツ
体重　553 Kg

本城敬文

彼とは一年間の付き合いでした。新馬の調教として彼に教えた事よりも、その調教の過程で試行錯誤した結果彼に教えてもらった事の方が大でした。彼に乗っていたおかげでどれだけ疾風の調教に参考になったことか。

二頭乗りは可能であると思いますがどうしても時間の不足が生じてきます。できることなら彼にもっともっと時間をさいてやりたかったけれど、トキを放っておくわけにもいきませんでした。もう少しなんとかならなかったかと反省しております。

彼の長所は歩様が大きいこと、素直であること（反面、非常に頑固なことがあるが一度それを乗りこえると後は素直である）落ちついていること、何といっても体格のいいこと等であり、欠点は顎が固いこと、体が固いこと、したがって前後左右の柔軟性に欠けること、最近はみせないが非常に頑固な一面のあること等であります。

彼の調教といっても基本的にはトキとまったく同じでただレベルを少し下げただけのことです。特に注意したのは、脚をオーバーに使用して理解させること、軽く口に接触し脚で推進すること、物件馴致を進めることの三点であります。もちろん先ほど上げた欠点を修すために、輪乗で脚と逆鞭により頭頸を進展低下させ、回転や停止、後退を要求することによって左右及び前後の柔軟性を養い口向きを良くする。キャバレッティ不斉地を利用してのバランスの養成、低障碍を数多く飛越させて普偏化させる。運動量を徐々に増やし体力をつけるといったことも当然行ないました。さらに細かいこととしては、輪線上での駈歩発進と直線への移行、前肢旋回による左右側方脚の了解も行いました。

障碍の程度は昨年一年で小障碍を安定して回ってこれるようにという目標を定め、デビュー戦を八月の道体に想定しました。四月中はH70W120位を中心にたまにH80位までを飛越し、五月、六月と少しづつ要求を高めていきました。大きさの変えられる障碍に関しては小さいものからやっていけば良かったのですが濠や土塁に関しては似たような地形を利用して馴致を進めていっても、いつかはその障碍を飛越しなければならないわけでその時期を見計らうのに苦労しました。最初は古馬の後についていったり、餌でつったり、しかったりなだめすかしたりでなかなか大変でした。新馬故、知らないのですがそれが平気だと教えて通過するのはなかなか難しいことでした。こんな時彼は非常に頑固で多少拍車を使おうが、鞭を使おうが前に進まず、あまり懲戒しすぎて馬に嫌な物という印象を与えたくなかったし、かといって馬を甘やかしてはいけないしどちらを取るべきか大いに迷いました。結局取った道は、それまでに程度の低いものから徹底的に馴致を進め、古馬の先導が可能ならばそれも利用し最善の準備の後、思いきってトライしてみて一度でだめなら懲

戒した後一回か二回再トライしてそれでもだめなら、もう一度一段階レベルを下げてやりなおすことにしました。濠の馴致では濠を囲んで馬を閉じ込め、渡れば飼が食べられるようにしてみたり、その後から追ったりしてかなり苦労しましたが、大底一度通過した後はもう恐くないということを理解して通過できるようになりました。また馴致の時騎手があまりその障碍を意識しすぎるとかえって不自然な扶助になり、その微妙な変化を馬が感じとってうまくいかないということもあります。

新馬故、出来ることと出来ないことがはっきりしており、今まで通過したことのなかった障碍が通過できるようになり、そのレパートリーが増えてゆくのは実に楽しいことです。八月のデビュー戦目指して徐々にレパートリーを増やしてゆきました。

そしていよいよ八月。十和田へは貨車の余裕がなく連れて行けなかったので単身でつぎの遠征地旭川へ。見知らぬ土地に来た彼はさすがに興奮はするものの、かなり平静で思ったより落ち着いていました。しばらく振りでQに乗ったわけですが、その口の硬いのに驚きました。前から変ってはいないんでしょうが、しばらく接していないのでその印象が強烈でした。また輪乗りから徹底的にやらにゃいかんと感じましたがもう試合は目の前。まあ小障だから大丈夫であるとは思いましたが、試合前に欠点を再認識させられるのは嫌なものです。試合ではどんどん前に出すこと、回転の前につめることを念頭におき出場。障碍の程度としては普段の練習で飛んでいるものより小さかったのですが、なにしろ初めての試合なのでどうなるか心配でした。スタート前に駈歩で歩度の伸縮をやりスタートへ。スタートを切り第一障碍は特に慎重に、後は前へ前へ。しかし障碍の尊重性に少々欠くところがあり箱障碍は練習中でも当てて落下することがよくあるのがここで表われ、平行を落下、続くレンガに左回転し向けましたが回転のときに緊張が緩んだため、左へ逃避、次に真直向けたら何なく通過。後はまったく問題なし。しかし今だに馬とのコンタクトが未完成で、どの位まで強く受けて緊張を求めてよいものかわかりませんでした。結局彼のデビュー戦は一逃避一落下という成績でした。障碍のレベル自体は高くはなかったのですが騎手の技量不足が結果として表われてしまいました。

次は帯広へ。今度は旭川よりも少しレベルが高く、小さいながら乾濠も入っていました。これも、第一から第二まで直線で少し距離があったので緊張を維持するのに失敗し、ハミ受けがゆるんだため第二のドラムで左逃避、箱障碍と濠では余分な力を使って馬鹿飛び。まだまだ障碍飛越に対する安定度が欠除している。

これからのQへ。最大の欠点は口が硬いこと、脚に鈍いことです。それを修すには先に述べたことに注意する必要があります。それと障碍飛越をあたり前のことにしてしまうように数をこなすことです。彼はまともに育てば、十分大障碍にでも通用しそうなりっぱな体軀を保有しているのです。頑張れQ。明日の北大を背負うのは君だ。

三　好功悦

僕がQ（北楽院の愛称、以下Qと呼びます）とつき合い始めたのが昨年の三月始め。本城兄が中心となって調教にあたられており、僕自身は、その引継ぎ役だと考えていた。

今、こんなことを書いたら皆にブットバサレルかも知れないが、省みて、僕が乗っていたことが新馬Qにとってどんなメリットがあ

ったか……ハッキリ言って自信がない。技術的未熟者が、新馬調教という大事業に手をつけられるか。本城兄の存在は、僕にとって救いだった。しかし、Qにとって、本城兄にとって僕の存在はどうだったろうか。明白なのは、Qにとってはマイナスだったということであろう。しかし、慢心と言われようが、なんと言われようが「下手は下手なりに、馬を自由に動かしていなければならない」ということを新馬にも拡大解釈するしかない。

乗り始めて、僕の受け持ちは、野外馴致と基礎調教だった。基礎調教といっても真に基礎の基礎、常歩、速歩で停止、後退、発進を繰り返すこと、キャバレッティ、不斉地等を通過することだった。

馴致に関しては、よく物を見て驚き、首をあげて後ずさりすることがあった。この時の対処が、解らなかった。悪印象は残すまい。まだ何も知らないんだ、と懲戒は慎しんでいた。落ちつけて、或るいは降りて曳き馬で行こうとした。しかし、ことが明らかに、物に驚いておきたのならまだよかった。突然、立ち止まり、後ずさりする時のQの心理が読めなかった。反抗なのか、恐怖なのか……。反抗だ、懲戒／という気持ちと、やさしくやさしくという気持ちと。ただ、漠然と、これをいつまでも許しておく訳にはいかないという気持ちだけはあった。

生来、ガンコな所がある。例えば、ある春の日の夕方、曳き馬で恵迪裏の濠を馴致していた。既にその頃、70㎝ぐらいの濠は曳き馬でまたいでいたし、ちょっと難度の高いその濠も、何度も何度も、見せては愛撫を繰り返し、落ち着いて中をのぞけるようにはなっていた。そして、その濠の前で二時間半頑張った。夕闇の迫まる中、他の馬はどんどん厩舎に引きあげていく。こうなりゃ根くらべだと、僕は座り込み、濠のあっちとこっちでニラメッコ。Qは濠をのぞき込んでは、僕をうらめしそうに見る。それでも、またごうとした瞬間はあった。しかし、その時、前肢がズルズル濠の中に落ちていくのを怖がって、もうそれっきり。結局負けた。また、ある日曜日、一日中、M字乾濠の周りに障害で囲いを作り、濠の前に飼付けを置き、濠をまたがないと食べられないようにして閉じ込めた。濠といっても50～70㎝幅ぐらい……Qは一日中その中に居た。最後にしびれをきらして、鞭で追って渡らせた。以後、なんなく渡るようにはなったが。

馬場にもどると、とにかく前へ出すことであった。輪乗りでも、蹄跡運動でも、ひたすら出すことを考えていた。

悪循環。ただでさえ悪い挙なのに、出すことばかり考えて、いきおい力、刺激にたよりがちになる。ついてゆけない。気持ちのみアセルばかり。

馬が扶助を完全に理解していて、それでもできないなら、人間が必死で練習するしかない。しかし、馬が脚、拳を充分理解していない上に、人間に正確に扶助を出しつづける技術、そして多少の変化をも見過ごさない感覚が欠如しているとすれば、これは救い難い。

重いのではなく、馬が脚を理解していない。そして、出た分を静かに軟かく受ける拳がなかった。毎日が苦痛だった。Qを悪い方へ悪い方へ持っていくのではないかという怖れ。それだから、毎日必死に乗って少しでも早くうまくならなければならないというアセリと……。

馬の方については、口が堅いこと。体が堅く回転が不器用なこと歩様が小さいことがあげられていた。課業としては一貫して、停止発進、後退の繰り返しと回転運動。歩様の問題については、当初、スピードばかりを求めないで、強い脚と、それによって出た分をス

ピードに変えないで受ける拳によって改善しようとする方法、次にスピードを求めて間歩の広いキャバレッティを利用する方法を本城兄がやっていた。僕はそれに準じていた。

六月後半から、僕は野外で走ることを利用しだした。則ち、馬の多少の興奮を利用して、人間はついていくことに先ず留意し、その上で確実、大袈裟に胸を使うようにする。何よりも騎座を、しっかり維持するようにする。この頃は、恵迪裏の野外障害も少しは跳べるようになっていたこともあり、外でだいぶ走り廻っていた。野外ではまた、頭もよく下がり、巻き込むこともなく（つっぱり気味だったが）馬場内でうまくいかないと鬱屈しているよりは、よほどよい結果が得られたと思う。

ここで気をつけたことは、多少の興奮は利用しても、決っして過度の興奮に陥いらないようにすること。枝でも穴でも、とにかく何でもいいからまたぐこと。図形というか、コースについての要求は妥協しないことであった。これは、実に雪の降る直前まで続けられることになる。ここで一番の課題は、少しでもいい状態を外で作り馬場内に持ち込むということであったが、これは、なかなかうまくいかなかった。緊張を馬場内に持ち込むというよりは、馬場に帰って馬が安堵してしまった。

七月、馬場で放牧中右後肢内側しかも飛節の上という不思議な部分を他馬に蹴られ、十日間ぐらい馬休となった。

そしていよいよ夏、Qは本城兄で道下の小障がデビュー戦と決まった。

初めての遠征、旭川へ。早朝、ただ一頭馬運車で札幌からやってきた。到着した日の午前中からさっそく曳き馬。二人で石狩川で遊んだ。初めての場所で興奮気味だったが、怖いのかキョロキョロしながら割と素直に僕の後についてくる。靴のままジャボジャボ、川の中に入って行くと、最初ためらっていたQも球節のあたりが浸るまで入ってきた。もちろん燕麦でつりながらだが。この時、初めてQと遊んでいる気になれた。目を三角につりあげて、馴致、馴致、馴致、と考えているより、入ってこないかなあというぐらいの気持ちだった。水の冷たさが心地よく、川面に反射する光が眩かったのを覚えている。

結果は、一逃避一落下

札幌に帰ってきて、僕は一年目と日高合宿へ。日高合宿から帰ると、Qは公認大会で帯広へ。僕は居残り。

九月末、右前肢破行。小池先生に肩をマッサージしながら、様子を見て常歩で乗るように言われ、様子見の街乗で同じ右前肢、切り石を踏んだらしく座石。結局、十日間馬休ということになった。その後、雪が降るまで前述の野外で走り、馬場に持ち込むことの繰り返し。

現在、馬場内で停止、発進、後退、前肢旋回、回転による口の柔軟性の追求と脚扶助の諒解、速歩の歩度の伸縮と低障害通過を柱に練習している。

もう一年乗ることになりました。甘えてはいられません。今年はQになんとしても陽のあたる場所へ出させてやりたいと考えています。

北雛号調教報告

牡　鹿毛
昭和51年2月23日生
北大馬術部産
父　ドンホッパー
母　羊蹄
体重　460 Kg

岩田正勝

人は彼を北雛などとは呼ばず、ただ「ガキ」の一言。そのガキも知らない間にでかくなってミョコよりも数十キロも重い明け三才である。それでもなおガキと恐れられるのは、乗馬開始前の調教に対する無頓着な人間のせいではあるまいか。人間との関係に関して、白紙の仔馬に、各人が感情的に様々な接触を持ったことが、彼の頭を混乱させる原因となったのではあるまいか。

五十二年秋、北雛を自分から調教したいと申し出て以来、日毎大きくなっていく彼に対するあせりがどんどんつのっていった。もうしばらくすると押さえ切れなくなる、力で完全に負けるようになる。そう思うと早く人間との正しい関係を教え、人に乗っかかって来ないようにしなければならなかった。実際には、まず馬の攻撃から最低限身を守ることから出発し、悪い事に対しては、かなり乱暴とも思われる懲戒をし、決して馬を後ずさりさせない様に曳綱をしっかり握り（逃げられない事を教える。ここで力がいる）、馬が立ち止まり静かになる迄まち、おだやかに話しかけ、愛撫してやり（まだ愛撫を完全には理解していないが）、餌を与えた。

それと並行して、「お手」を教えた。芸は最も簡単な調教である。前かきにならない様に注意して、覚えてからも時々やらせて、できたら餌を与えている。

現在は、三月の去勢後、鞍付をして本格的に乗り始める下準備として、調馬索を始め、手入れも他馬と同様にしている。北雛は三角地（パドック）に放しても我々が思っている程、走り回ったりせず他馬と一諸に入れても咬み合う程度のじゃれ合いで、余り運動にならない。せまい三角地で走り回ることを期待する方が間違っているのかもしれない。そこで、調馬索での運動が重要となり、毎日欠かさない様にしなければならない。

最初調馬索の為に馬房なり三角地から出した時には、北雛は遊びたくて（人間相手に）うずうずしている様に見える。この時が一番警戒しなければならない。ややもすると、気を抜いた瞬間に襲って来る。馬場に出てからはしばらく、調馬索で勝手に走らせる。この時は号令をかけず、要求はしない。しばらくして落ち着いて来たら速歩運動から始める。数分ごとに手前を換えて、とにかく速歩の維持だけを要求する。手前を換える度に餌を与える。その後、速歩、常歩の歩度変換を加え、最後に止まれの号令も加える。語調に対して注意をくばり、聞き分けやすいように発音する。三十～四十分のこの調馬索運動が終わると、北雛はかなりおとなしくなり、乗っかかって来る様な気配もなくなる。とはいっても、三十分程度の調馬索では運動量も足りなく、少なくとも一時間は必要であると思う。また、これからの運動内容にしても、駈歩、歩度の伸縮等も加えていかなければならない。

調馬索後、しばらく曳馬した後、手入れを始める。小さなことにも餌をやってほめてやり、馬体の各所に触れるようにしている。仔馬はできるならば広い草原で仲間と一諸に放してやるのが良いし、広い場所もなく、仲間の仔馬もいない場合は、一人の人間が付きっきりでいるのが望ましいと思う。北雛に関しては、そのどちらでもなかったわけで、知らないうちに明け三才になってしまった。その点も考えて、なるべく馬と一諸にいる時間（たとえ、何もしなくても）が、必要だと思う。今年一年面倒をみて、何とか馬らしくして愛される様な馬にしなければならない。また、現役部員も人間らしく可愛がって欲しいと思う。

ダイパレード号調教報告
（水産学部馬術部所属）

牡　サラ　栗毛
昭和39年4月16日生
父　ダイハード
母　ミレッタ

藤原一郎

調教報告といっても夏以降、調教らしい調教を行なっていないのだが、私の思い出と合わせて書いてみたい。

パレードは、二年前に阪上先輩が道大会へ連れて行って以来、試合を行なっていなかった。その間、故障を起こし、満足な調教もできなかった。この度、道自馬・北日学への出場を目標に秋より調教を始め、ある程度の目度が立ったので大会に出場したのである。結果はみじめで、我々の経験不足をいやというほど思い知らされたものである。馬に乗り初めて一年ちょっとの我々が調教計画を立て、乗っていったのであるが、試合という大舞台で、調教の成果が現われなかったのは、残念でしかたない。問題点は確かにいろいろある。馬にも、人間にも、問題がありすぎたのかもしれない。馬自体の肉体的問題点、人間の試合に対する考え方、取り扱み方、馬のコンディション作り、等の経験不足・知識不足があったように思える。これらの問題点は一朝一夕には解決できるものではないが、今後の積み重ねによって少しずつ解消できるだろう。

今後の方針としては、初心者の練習用にこの夏まで乗っていって、馬を交代させようと思っている。先の見えて来ない水産学部馬術部であっても、道を開いて、道を築いてゆかねばならない。その一歩がこの一年の歩みでなければならない。今年、たとえ、試合には連れてゆけなくとも、二年先、三年先には新しい馬で大舞台を経験しようとする者が出てくるだろう。そして、その時から我が部にも新しい夜明けが始まるであろう。

パレードは、S43年に、目黒記念を勝った馬で、天皇賞、有馬記念にも出馬したことのある名馬で、内国産種牡馬になっていた馬で三年前に入厩している。当初はかなりのスピードがあったそうだが足の故障等でだんだん走らなくなってきた。今思えば、あと二～三年早くめぐり合えていればと残念である。性質はおとなしく、物おじしない馬で、我々初心者にとっても扱い易い馬である。ただ、頑固で、一度いやなことがあると、てこでも動かなくなる。一度、行

く気になれば、突込んでゆく馬である。腰はガタがきているがバネがあり、柔軟な馬である。素質的には、かなりいいものをもっているけれど、年にはかてない。今後、若い馬を入れたとしてもパレードの勇姿は、我部の原点であり、宝である。明日への糧である。共に苦しみ、努力してきた仲間である。新入部員も増え、彼らにまかせる時が来たけど、彼らにも忘れてほしくない。ダイパレードという名馬が函館の地で、水産学部の馬としてがんばっていたことを。

すすきの南6西3

三協ビル

名代

焼鳥ぼんち

TEL512-2929

自然と愛馬精神を大切にする人達の社交場

フロンティアライディングパーク

フロンティア乗馬クラブ

馬場　北海道厚田村しっぷ165の3

01336⑥3858

新馬紹介

北姫号調教報告

牝　サラ　鹿毛
昭和49年3月27日生
静内郡静内町産
父　アステック
母　ヤマニンザザ
体重　461Kg
競争名　ヤマニンミヨコ

山川　恵

52年7月1日に競馬場の大久保厩舎より入厩。

〈第一印象〉

小さくて、痩せてて（締まってて）、そしてその足の細いこと細いこと。部馬のゴツい足を見慣れていたせいか、その四才馬の華奢な足は今にも折れそうに思えた。しかし、その三角おにぎりを額にはりつけたような顔は愛嬌があってやんちゃそうで、それほど繊細でもないようだ。体高は羊蹄位、かなり小さいが均斉はとれている。贅肉はひとかけらもない。

〈入厩当初〉

試合前の忙しい時期、数日はパドックにほっておかれた。その後練習中に馬場内で曳き馬。走りたがり落ち着かない。馬場に放すと、最初の頃は逃げてなかなかつかまらなかったが、そのうちに非常な好奇心を示すようになり、自ら寄ってくる。

〈装鞍、装勒、乗馬〉

装鞍、装勒はおとなしくしている。腹帯は一番短いのを使い、頭絡も頬革に穴をあけなければならなかった。全く細い馬だ。曳き馬でも段々落ち着いてきたので騎乗を試みる。競馬場で既に人を乗せたことはあるのだから平気だろうと思っていたのに、鐙革を持っただけで逃げようとし、鐙に足をかけたとたんに立ちあがったり跳ねたり。よっぽど乗られるのがいやな様子だ。その後数日は装鞍だけして曳き馬をし、途中で鐙をばたつかせたり鐙にぶらさがったりして重みをかけることに慣らしていった。夕方、椅子を使って裸馬の背にもたれていったり、色々苦労する。慣れてきた頃再度騎乗を試みる。岡田監督に反対側で押さえていていただき、乗馬。今度はおとなしくしている。しかし、上に乗った方はいつ跳ねだすかとビクビクものだった。乗ったはいいが、脚を知らないので誘導するにもうまくいかず、口笛停止にしてもたいして理解していないので馬なりに歩いていた。このようになだめすかして乗っていた頃、後ろから他馬が駈歩で接近。突如走り出す。そのまま馬場を二周ほど全力疾走。回転させて止めた。ひっかけるような感じではなく、止めようと思えば止まるということがわかったので、人間の方はこれで度胸がついてしまった。

〈調馬索〉

とにかく運動不足ではっているのだが、上に乗ってはまだ何もで

きないし、人間への親頼感も持たせなくてはならないので調馬索を始めた。他馬遠征の折、馬場を広く使えるのを幸いに30分以上続ける。声には敏感だし、餌をやれば何でもすぐ覚えるようである。一週間もする頃には駈歩発進までするようになった。しかし何周かすると止まれといっていないのに餌をねだりに寄ってきたり、途中で反対向きになって勝手に手前を変えたりする。駈歩に右手前がなかなかでない。でても不斉駈歩だったりして非常に下手である。でもとにかく調馬索のおかげで声による発進とか口笛停止を覚えたし、何よりも人間になついてきたのは大収穫だったと思う。

＜騎乗＞

調馬索で多少精力をとっておいてその後で騎乗する。初めの半月位は、乗る時まだびくついたり動いたりするので、声をかけながら乗馬することが続いた。二～三日は曳き綱をつけて曳いてもらったり、横についていてもらったりして、ひたすら常歩で歩き続けた。多少速歩になることもあるが、落ち着いてくるようになった。脚も使い始める。八月中旬、速歩を始める。ほとんど興奮することもない。除々に速度の持続時間も長くしていく。何よりも体力、筋力をつけねば。八月後半、不整地、キャバレッティ、30cm位の低横木なども跨がせ始める。この頃には、飛び乗りをしても、馬上体操をしても、嘘のようにおとなしくなっていた。外乗もしだす。

＜馴致＞

最初の感じとは裏腹に、それほど神経質ではなく、割とのんびりした性格の馬である。憶病でもないし、そうかといって無鉄砲でもなく、注意深い。そのため、この馬に関して馴致ではほとんど苦労しなかった。曳き馬だったら、始めてのところでもたいていは人についてくる。不整地や濠やバンケット、野外の小さい濠など、ほとんど一回で跳んでいる。ところがこういう濠など、人が上にいるとなかなかすんなりいかない。やはり重い物を背負って跳ぶには、まだ自信がなかったようである。しかし、濠とか障害そのものに対しては怖がることはなく、向かっていく感じである。

＜馬肥ゆる秋＞

9月は他馬に蹴られたり、自分で自分の足を蹴ったりしてほとんど乗れなかった。しかしこの一ケ月のブランクも大した影響もなく10月には練習も順調に進んだ。10月下旬には一日か二日に一個の割で新しい障害を跳んでいった。馬の方は何でもないように跳んでいくが、人間の方は、もしも止まられでもしたらとか思ったりして、初めての障害に向かうときは、かなり緊張というか、心配というか怖しい気がした。でもいくつかやっていくうちに、これくらいの障害では絶対に止まらないという確信が持てるようになり、さほど硬くならなくなった。ミョコは足さばきは器用だし、体は柔く、大きな跳びをする。また、自分から銜を引いていき、逆鞭など使わなくても人間の挙さえ良ければ頭も下がる。

＜冬……現在＞

11月になって、それまで毎日続けていた調馬索に一応のくぎりをつけ、練習中の輪乗りで代用するようになる。馬場が凍って障害練習はできなくなったが、野外の馴致は進んだ。外で走り回ったり、低障害を跳んだり、それまで足の問題もあって控えていた駈歩もとり入れる。現在、雪の馬場での運動は、体力作りを頭に置き、低障害の速歩飛越、駈歩の発進、持続、輪乗りでの基礎的運動等を組み合わせて行なっている。また、日曜毎に少し程度の高い障害を跳ばせるようにしている。問題点としては、停止が悪く、銜が少しでもきつくなると舌を出す。右駈歩が出にくい。歩度が伸びない（脚に

対してまだ鈍い）等がある。

調教を始めてまだ半年にもならないが、人間の技術、経験不足にもかかわらず、ここまで来ることができたことを思うと、このまま素直な性格を伸ばして、恐怖心を起こさせなければ、かなり期待できる馬だと思う。二年後のスターライトも夢ではないかもしれない。

今まで、あたかも私が調教したように書いてきましたが、調教の半分以上は岡田監督に負うところであります。調馬索や、初めて跳ぶ障害の馴致のし方、また、運動内容の要点など、貴重なアドバイスを頂き、どんなに心強かったか知れません。新馬調教に未経験で怖々やっていた私に「どんどんやりなさい。こわれたら私が直してあげるから」と言われ、ようやく伸び伸びと乗れるようになったこともありました。ここまで順調に来ることができたことを、ここで改めて御礼申し上げます。また、これからも宜しく御指導下さいますよう御願い致します。

北将号調教報告

牝 鹿

サラ　芦毛

昭和49年2月14日生

浦河郡浦河町産

父　フォルティノ

母　マツノミドリ

体重　536kg

競走名　シュバールブラン

矢田　明

五十二年七月下旬入厩、全体的にはぼやけたような灰色、左目が少し白目勝ちで不気味、胸巾はあまり無く肩は偏平、骨太な脚部、首は長く胴は短か目、まずまずの馬格、体高は一六五程度。

幼駒の頃、人間と多く接した時期があるという事で、そのためか人を人とも思わぬ節がある。きかないやんちゃぼうずと言うところ。

遊びと服従をはっきりさせなければならぬ。騒々しいもの、動く集団を嫌う。食事中は何者をも追い払う。興奮した姿は、実に精悍。

八月に去勢手術。九月十日、曳馬から騎乗調教。体力はかなりあるが、足元が不安。駆歩、障害をはじめてしばらく後、突然のこずみ。右のつなぎに故障。同時に悪い鞍がたたり鞍傷。しこりが残る。

十二月八日、鞍傷を切開し、しこりを取り去る。十二月現在、手術の跡の回復と新しい鞍の入手を待っている。調馬索での運動を日に三十分から一時間やるようにしている。

離厩報告

北稜号離厩報告

山川　恵

この馬は一昨年秋、獣医より我部に入厩しました。最初半年間、矢田兄が調教していましたが、その頃から足の故障が多く休みがちでした。しかし性格的には素直で憶病なところもなく、その時いた3頭の新馬のうちでは最も調教し易い馬ではなかったかと思います。四月から矢田兄に代わり、私が騎乗し始めました。体は硬いし無器用ではありましたが、馬格もあるし、素直で前進気勢もあるので、あのままいけば良い馬に成長したかもしれません。しかし、練習中直線運動ではなんでもないのに回転でひどく跛行するようになり、診ていただいたところ右前肢種子骨骨折といわれました。骨折にしてはあまりにも普通に走り、痛がりもしないし、いつ骨折したのかも全くわからなかったので、信じられない気持ちでした。二週間経って二度目のレントゲンを撮ったところ、やはり骨折に間違いなく、かなり休ませなくてはならないことになりました。北大にきてから故障のため休みが多く、調教もなかなか進まず、年令からいっても11才ということで、結局これ以上遊ばせておけないということになり、七月に離厩しました。

ユキ（北稜号）とのつきあいは短く、乗ったのは更に短い時間であの人を寄せつけない毅然とした態度をほぐそうとしましたが、なかなかうまくいきませんでした。でも、新馬を扱う緊張感や楽しさなど、多くの貴重な思い出を残してくれました。それが、私にしても矢田兄にしても現在役に立っていると思うと、ユキのいた一年も無駄ではなかったと思います。

産科・婦人科
田畑病院
院長　田畑武夫
札幌市中央区南五条西二丁目
TEL五三一－七七七〇

株式会社平田金物店

札幌市北区北十八条西四丁目
TEL七四二一七六一六
TEL七一一一七五三六・九九五五

乗馬用長靴
スキー・スケート・登山靴
各種靴製造と販売

札専加盟店

三浦靴店

札幌市南一条西八丁目八番地
TEL (代)(231)0901

すずらん乗馬クラブ

北海道ならではの豊かな自然の中で
乗馬を楽しめます。

○会　員　制
○遠乗コース有り
○個人指導，競技選手養成
(初心者歓迎)

馬場　恵庭市西島松　自衛隊補給所前
TEL (01233) 6－6386
夜間（松崎） 6－8519

全日学大健闘

第20回全日本学生障碍飛越競技会
総合馬術競技会

あの感激をビデオで！

矢田　明

時は流れる走馬灯。が、あの感激は忘るまじ。思い起こせば、早二々月。

時は霜月拾と五日、折しも天は泣かんばかり。華の都は東京の、元、武蔵野の一角に、名を派す中央競馬会が、造りし立派な施設、競技場、馬事公苑とは、是のことだあ。

入厩の都合上、宿をお借り致しました農大さん、骨を折っていただいた幹事さん、重ね重ね有難うございました。

というわけで、北大駿馬五頭が、競技場にその勇姿を連ねしは、拾参の日。威風堂々たる馬たちは、他校の馬を圧倒する光の如し。と思う選手、馬匹係の期待とはうらはら、皆なでちっちゃくかたまっちゃって、可愛らしいやら、情無いやら。

前日までの馬体はと言えば、まず、スターライト。足元の不安、（前技の熱感）から、常歩を中心とした、言わば、気持を確め合うというところか。少々小さくなった尻が気になった。焦りはあったろうが、苛立った様子も無く、馬も五頭中では一番落着いていた。

ドンホッパー。右後肢、球節が、熱感を帯び、本番の今に至っても、尾を引いていた。しかし、彼の能力にそれほど影響するとも思えず、常なる練習風景を展開している。興奮のためか、浮き足立った飛越も見せ、スピードも出すぎているような気がした。が、見慣れた練習は何と心が安まる事だろう。

疾風、一年ぶりに復活。乗り手は昨年から二年目、意外に落ちついた性根に感心しながら、独特の常歩（首をのらくらと動かしながら）ダイナミックな速歩、ダッシュ、回転、そして、独特の飛越。足を気にしながらも、いつものようにやっていた。

ＮＨＫとの打ち合わせで、以上三頭で優勝すると私が語ったところが、目の無いＮＨＫは、全々取り合はず。愚かなるは、己惚れ、悲しむ可きは、無智。ハイエイムの事なんか、聞きゃしない。

ハイエイム、おこぼれ頂戴とはいえ、何はともあれ、出場するのだ。前肢の腱炎が気になる。痛いくせに、表情に出さぬ馬は、いじらしくも、逞しくも、阿呆らしくも見えた。興奮に、病上がりのブランクに、手の内を出やすくなった、六百キロハンターの糞力、誰が、止められよう。豪快な走りっぷりも飛越も、どこか足が地に着かぬ観である。が、勇ましく偉大だ。さてどん尻に控しは。

羊蹄、馬格も気も小さいときている。例い希な、そのジャンプ力と器用さで予選を通過したものの、実は総合でとった権利だけに中障害の大きさと初舞台という状況に、人馬、落ち着かない。練習も一頭だけ、ミスが目につく。もしかしたら、がんばって、ヨウコ。そんな皆んなの期待に答えたい。私は、首をたたく手に思いを込めた。（中障害には私が出たのです。）

書き並べると故障馬ばかりの様子ですが、確かに、ベストコンディションとは言えなかった。しかし、それ程苦しくも無かった。

皆、北大の馬たちの活躍を信じていた。応援に来て下さった方々、支援して下さった方々、失礼とは思いつつ、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。誠に有難うございました。遠い先輩諸兄、関係諸氏には、誠に申し分け無いところではありますが、やはり、札幌近郊の後援諸氏、先輩、仲間等に対する感謝は、格別の様に思われます。半沢先生、馬連の方の仕事は疲れますでしょう。岡田監督、毎朝ありがとうございます。また家で飲せて下さい。小池部長、流石に外科の先生、人馬共に心配おかけしますが、宜しくお願いします。競馬場を初め、道馬連の諸団体の皆様、鷲田さん、八木先輩、お手数をお掛けします。畜大、酪農大の仲間たち、ありがとう。

と言うわけで播き散らした数々の迷惑、その極一部の簡単なお礼を述べたところで話が逸れました。ここで愈々本題の競技に入るわけですが、かなり主観的な表現に終始するだろう事は、覚悟して頂きます。

馬の話の前提は先に一応述べましたが、もう一つの重大なキャラクター人間たちです。六名の選手と、数(?)名の世話人達、これらの者を収容してくれたのは、近辺の誰それの家であり、馬事公苑であり、東京農業大学厩舎であった。

十三日に馬場馬術が終るのを見はからって、馬事公苑の中の馬場馬と、農大に世話になっていた、疾風と羊蹄との入れ換えでもある。運良く農大に厩舎をお借り出来、助かりました。というのも、地方の大学には、予備馬を入れる厩舎はもとより、障害だけ出場する馬を入れておく厩舎もありません。これは残念なことであるばかりか毎年予選に頭を痛める原因でもある。

さて初日、蓋を開ける様な気持ちで見守る中、岩大のチャンセラー(高野)畜大の柏勝(風間)と続き、一つ置いていよいよ、あの恐怖の馬、人殺し、一番のダークホース、晴れ舞台や何如に、ハイエイムの登場です。いつもと同じく落ち付きが無い。だが憶しているわけでは無い。敬礼もそこそこ、走り出したものの馬場を一周しても手の内に入らない様子。速いよエム。山本抑えろ。祈る間もなく三落四落、十一メーターを一完歩で、八メーターを兎飛びする馬である。踏切りが合っても落している。エム、どうしたんだ。このとぼけ馬、居眠りしていて倒れるおまえだけど、あせるな、しっかりしてくれ。結果は九〇秒 (一)二〇点 九〇秒というのは二日間の最高タイムであり、分速で四八六メーターである。得点は喜んで良いやら惜しんでいいやらわからなかった。二年前乗ってらした水野兄も見えており、愛馬の活躍を喜んでおられた。

やきもきしているうちに北里のコンコルドハットリー(小泉)が満点でゴールした。北日本強しなどと感心しながら、おととし、七大学戦で、厄介になった東大の、今回は一頭だけの東蕉が (一)四点でゴール……

畜大の柏栄(菅浪)が満点でゴールし、日大のメジロサンゴの次に、北大の二番手疾風はこの一年で大きく成長し、力も体格もかなり安定を見せ、北日本学生では、総合一位にもなった馬である。いつもの様な入場姿、この本城という男は落ち着いているのか、興奮しているのか良くわからない。敬礼、それからゆっくりと握り直してさあスタート、かけ歩、ダッシュ、少し乱れるかな?スタートラインを通過し、独特の首を前へ投げ出す様な飛越で める様にクリアーしてゆく、いいぞ!飛越は不安定だがうまく落下を防いでいる。そして第八障害トリプルは、ドラム平行、垂直、三段である。え!うそだ、疾風が拒止した。

勝負を時の運と言ってしまうには、あまりにも信じられぬ光景で

あった。立ち直るかに見えたが、第一〇障害の竹柵バーでも拒止。何故、何故なんだ二人とも……。

ゴールしたものの水濠に足をつき（一一九・五に終わった。

農大のホープ緑彗（林）が第一でチョンボ、トシマヒカル（田沼）も調子がでない。北日本の梵天（中野）が満点ゴールし、京大のサーデン（有富）日大のスズドクター（黒田）が満点ゴール。そして名馬ドンホッパー、全日本でも活躍し、若いながら安定した力を見せ、北大の二番目の柱となっている馬であるが、北日本学生の総合の野外走行二二障害のにわとりバー（生きたにわとり七わがそれぞれケイジに入って積まれている。）を通過できず今回の全日学は障害だけである。入場したものの何か落ち着きが無く、足が地に着かない。でも皆んな信じていた。ドンホッパースタート、そしていつものペース、何だかつまり気味だけど次々に通過。ところが、悲劇は待っていた。水濠で拒止、というよりは反抗か？飛べるくせにドンよ、半浦よ。結果は一反抗とタイム減点で（六・二五。

夢が、団体の夢が遠去ってゆく。今のところ五位か六位だろうか半浦よ、本城よ、山本よ、くやしがれ、クラブの皆が、泣くぞ。私も準備運動のため実はドンホッパーとスターライトは見ていない。その日のスターライトの馬匹係の成田に、スターライトが終わり、曳いているところをつかまえて問えば、何と、何と、満点、信じて良いやら、誇って良いやら。まあ、長屋とライトだ、こんなもんかなあ。ははは、うれしかったなあ。

そしてとうとう羊蹄の出番。予選の時と違って全く落ち着かない。騎座も浮いてしまう。馬の心がわからない。浮き足だった馬を、どうすることも出来ず、スタート。合わない、まずい、一から二の左回転で反抗、二通過、三で二拒止、みじめな退場、羊子に合はす顔がない。ごめん、羊子、ごめん皆んな。失権である。（六六・二五

初日が終り、明日への期待と、落胆に複雑な胸をかかえ、手入れ作業を終える。この日、日大、京産大、農大、東北大、北大、宮崎大の順であり、北大は首位日大との差を三落弱（一〇・七五）にとどめた。

さてさて、時は流れる走馬燈、時は霜月拾と五日……

競技二日目はあいにくの空模様、小雨の中を若い命が駆けまわる。放送の関係で、成績の悪い方からの出場順番に変更され、北大は、羊蹄、ハイエイム、疾風、ドンホッパー、スターライトの順である。

羊蹄。準備馬場は、癖馬のたまり場のようだった。鬼のような人間、怯える馬、興奮と錯乱、反抗と懲戒、開きなおった馬、あきれ、手の出ぬ人間、私は入りたくなかった。悪い事はあっても、そう益にはならぬ様に思えた。学生馬術の下で、少なくとも、ここに集う百十頭の幾倍かの馬が、日の目を見ず、また、いじめられて去って行くのかと思うと、何とも言えぬ暗い思いが、背を下る。

準備運動中に拒止される。どうしようも無い。まだだめか？意識しすぎか？わからない。意地でやってやる。と思って出場。が、結果は前日と同じであった。帰りに第一をもう一度飛んで帰ったが、意味も無かった様に思う。拒止をくり返しただけか！中畠、すまない。総合はがんばってくれ。私には、それしか言えない。すっかり雰囲気にのまれ、一人苦しむ羊蹄をとうとう救うことが出来なかった。何よりも大切な自信など、人馬共に持ち合わせは僅かばかりだったのだが、今やそれも無い。私は羊蹄を避け、観客になり下がった。

二日目ともなれば、大方の馬は調子が上る。と思っていたが、雨のためか、何のためか、そうでも無い。

ハイエイムは、きのうの突進は消えたものの馬自身が落ち着いていない。芝カマボコ、トラケーネン花壇、ビラビラ、と、三落下、これまでかエム、でも良くやったよ。結果㈠十二。

疾風は、きっと大丈夫、農大のやつにそう言いながら見ていた。うん大丈夫、今日は良く出てる。行け、トキ！。そしてスタート、三本目の柱となるか、この馬も、良い点は、多く有る。動きの大きさ、そして、落下の少なさ。走ってる、飛んでいる、あ！またまた水濠に足を入れる。疾風よ、あのくらい飛べるんだよ！よかったな本城、あの位は出来なくちゃ、今まで何のために練習して来たんだよ。でもきのうはかえらないのだよ。結果㈠四

柏勝（畜大風間）が満点を出した。おしい！　東北大の金太郎（小田）も良い（㈠〇・二五）が、美々津が足をひっぱる。どうやら抜けそうだ、宮崎もしくじっている。農大が前にいるが、これも抜けそうだ。全体的にもう一歩というところか。

そして期待のドンホッパー。行け、行け、そうだ。がんばれ半浦。農大に混じり、小雨に震えながら、団体優勝の行向を追いつつあった目にドンの落下が入ってくる。一落下、しかたが無いか……。そして十一のトラケーネンから左回転して十二の水濠の少し手前、どうした！何をびびっている。ドン。反抗にとられるぞ。半浦、押し出せ、そしてゴール、㈠八。後で聞いた話だが、水濠のそばの、ビニール合羽に驚いたらしい。でも、もう一押しだったんだよ半浦。かなり上位に存った馬の三頭が、水濠で失権している。信じられない。当人もそんな顔をしていた。

さて残すところはあと三頭、京産のサーデン（有富）　日大のスズドクター（黒田）北大の長屋、スターライト。この時までに、ほぼ三位内入賞の決定した北大だが、京産には申し訳ないが、サーデンがしくじれば、二位になれる。きたならしい発想である事は百も承知、でも、勝ちたいと思った。そしてスズドクターが、十点以上減点をもらってしまえば、北大は優勝出来るかも知れない。

サーデンがスタートする。見たいような、見たくないような、まったく、何と表現して良いのか、語彙の少なさか、複雑な内心のせいなのか。やはり勝ちたいだけだ。サーデンは、四の垂直と十二の水濠と最終のレンガ（落ちるはずが無いと思っていた）と三つも落としてしまった。正直なところ嬉んでいると、まわりの観客に、笑われていたのである。そしてスズドクター。もうはっきり言ってしまおう。落せ！と。こんな思いは、誰でもあるはずだ？？？

スタート、だが、さすがに落さない。六の芝カマボコを落しただけに終ってしまった。ああ、ああ、優勝はやっぱりだめだったか。他力本願でない自分でつかむ優勝でなければいけない。でも、満点がいなくなったなあ。日大のムネヒサが㈠〇・七五で最高。そう、ライトが無難にまわってくれれば二位になれると思っていたが、満点がいなくなったのだ。長屋、ライト、優勝？いやいや意識したらいけない。いいんだ一落でも、長屋よ。そしてライトがスタートする。観衆は無言、出るはため息ばかり。一つ一つ、馬は落ち着き人はほぼ馬まかせ。いいじゃないか、馬にたよったって！これだけの馬にしたのは先輩等と長屋なのだから。落さない、落さない。私は立ちかける。落さない。二人が目の前の十三障害をクリアーして行った。勝てる？　ゴール／満点ゴールだ。優勝だ。長屋！ライト！

立ち上がり私は駆け出す。二人に向って北大の部員が皆、駆寄って行くのが見える。うれしかった。誇らしかった。皆んなで勝ったんだ。団体は二位だけど、それでも皆んなで二位なんだ。ここに居る人馬、長屋を初め選手達と馬匹係、馬たち、札幌の下級生たち、

若い馬たち、そして、数多くの先輩、離厩馬たち＝北大馬術部が、団体二位を、個人優勝を成し就げたのだ。ただ、感激をかみしめて厩舎に向った。そんな感激の過の中で一番落ち着いていたのは、飛び終ったばかりの、スターライトだったのだ。

現金なもので、二位になったら、どの馬もみんな可愛らしく見え顔を会わせられなかった羊蹄にも『ヨウコ、あんまり飛ばんかったけどメダルとリボン貰えるよ。よかったねえ』、などと言っていたのは私だけだったのだろうか。

第20回全日本学生障害飛越競技会

11月15、16日

於　日本中央競馬会馬事公苑

長屋清隆

団体の方は矢田が書いてくれるというので、申し訳なく思いつつ個人の方を書かせてもらいます。

＊

先日、函館の水産へ行っている同期の荒井が撮ってくれたビデオテープを見せてもらい、初めてあの大会の経過を辿ることが出来ました。見るに従ってあの試合前の緊張感がまざまざと甦り、胸が締めつけられるような思いをしました。あの時はもうこれで耐え難い緊張感に包まれてスターライトと共に試合に出ることも無いのだと思うとただただ悲しかった。

一昨年は全日本の中障害で優勝しながらこの大会では失敗したので、学生であるからには何としても卒業までにこの大会で勝ちたかった。スターライトという素晴らしい馬に乗っていられる恵まれた立場にいる以上、僕個人としてはこの一年それが一つの目標でもあった。

が、それ以上の念願としていたのは、三年連続して四位に終わった団体で上位入賞を果すことだった。僕がいる間に是が非でも三位以内入賞を、あわよくば優勝を達成したかったし、また近年の実績と現在の馬匹の能力をもってすれば団体優勝も充分可能だと確信していた。問題は騎手の腕如何だった。

ところが国体前からスターライトの前肢に屈腱炎を生じさせてしまい、常歩を30分位と湿布・マッサージの毎日が続いたが少しも良くならないどころか悪化するばかり。遂にはまるで騎乗できなくなってしまった。仕方なくスターライトの代わりに俺が、というつもりで夜中一人で走る、といったような鬱鬱とした毎日が続く。そして貨車積み。貨車の中にいる間にどうか良くなってくれという願いとは裏腹に、東京へ発つ前には未だ前肢が腫れている夢まで見る仕末。暗鬱たる思いで一人列車に揺られて着いた東京で、彼女の前肢の腫がきれいに退いているのを見た時のうれしさといったら、それまでのモヤモヤが全て吹き飛んだ思いで忘れられない。とはいっても一ヶ月以上運動らしい運動をしていないせいで歩様がぎこちなく明らかに馬体の柔軟性に欠けている。完治したわけではないから、出場するか否かは駆けつけてくださった水野さんの診断結果如何に懸かっていた。水野さんは二日間なら絶対大丈夫と保証してくださったので、こうなればやるしかないと思った。試合の前々日久し振

りに速歩を10分位混じえ、前日に低障害を10回位飛んだに過ぎなかったから、優勝は愚か満点さえ思いも及ばなかった。

＊

第一走行　今回も経路は一昨年と全く同じ。やはり全般的に一昨年より成績が良く特に北日本地区の活躍が目立って、肢の心配と相まって焦りを感じた。スターライトの出場番号は95番で、強敵と目するうちの一頭、日大ムネヒサの次である。ムネヒサがタイム減点のみでゴールしたあと常歩で入場。一昨年味わったのと同じ嫌な思いが込み上げてきたが、それを振り払ってスタート。故障のあとだけに絶高頂の時のような力強さと切れ味の良さは感じられないが、詰まり気味になりながらも精一杯クリアーしていく。落下の多かった第4と前回痛恨の第9と第12水濠は特に気をつけて慎重に向けた。第6芝カマボコではまた詰まった。水濠に対する騎手の不安もなく楽に通過でき第13も通過、あとは最終、と意識したせいで随伴が遅れてしまい、辛うじて附いていったからよかったものの尻をついていれば落下は免れなかった。上段が10㎝ばかりずれていた。冷汗。六頭目の満点、うち四頭が北日本である。退場後冗談混じりに「これで明日はテレビに出られるなぁ」と言うと、馬匹の国枝が「そういう不届きな事を言っては駄目ですよォ」と言う。何はともあれ満点で帰ってこれてまずは一安心といったところだった。

が団体では第五位と聞いて、今年も駄目かと思うと何とも惨めで気が重かった。

第二走行　前日満点だった六頭のうち最後だったNHKテレビ放映の関係上最終競技者となり102番。第一走行で満点が多かったこともあって第二走行だけで勝敗が決するとは思えなかった。優勝してやろうという意気込みは無かった。ただ堅くならないで満点で帰ってこようとだけ思った。ドンホッパーを除く三頭の走行を見ることが出来たのだが、羊蹄は矢田の健闘空しくいけそうに見えた第3を遂に越えられなかったけれども、ハイエイムは前日より遅くはあったがいいペースで山本が本領を発揮して三落下に留め、疾風も本城に堅さがなく本来の調子を取り戻して一落下に押さえた。〃今日はみんな調子がいい。あいつらが頑張ってくれている〃その思いにどれだけ勇気づけられたことか。

準備馬場で101番迄の馬が皆出て行ってしまって、一頭きりになった時、スターライトに向って「ライト、ここ迄来たんだからお互いに信じ合っていこうや」と語りかけた。自分自身に言い聞かせているようなものだった。待機馬場では三回くらい手綱をとって障害を幾つか飛んで調子を確かめるに留め、あとは常歩にして落ち着かせた。前日の減点が一落下程度以内の上位陣だけで実に20頭、これではほんの僅かなミスも許されない。落下は即ち転落を意味する。意識しない奴の方がどうかしている。果たして上位陣は乱れ、落下等が続出する。一人の失敗が続く者の過失を誘う。そうした中でムネヒサが満点を出した。そのあとの前日満点組は騎手に堅さが見られて、一頭また一頭と落下を招き落伍してゆく。バーの落下する音、ワッとあがるスタンドの喊声、その度に人も馬もビクッと震える。バーに肢のあたる乾いた音が鋭く耳を打つ。ムネヒサ優勝の色が濃厚になってゆく。次第に高まってゆく緊張に耐えられそうもない時夜のトレーニングの事を考えた。この日の為に、この一瞬の為に毎日走ったんじゃないか。ひたすら気を静めようとした。

101番が入場してゆく。さあ次だ……その101番は一落下でゴール。ああ、いよいよ俺か!!　場内アナウンスが「ムネヒサの優勝が確定的なようです」なんて言う。速歩で入場。緊張というよりは寧ろ恐

怖で、自分でも驚くほど体がガタガタ震えている。大きく深呼吸しゆっくりと敬礼。それから後の意識は霞がかかったようになってしまう。微かに記憶に残っている事といえば……第4　コッンと当たってスタンドがドッとどよめく。第5通過「ようし」と声を掛ける……第8トリプルAで少し遅れ気味、B、Cと思わず掛声が口を衝いて出る。第8から第9への間で場内アナウンスが、現在北大が同体二位である事を告げる。…第11通過、誰かが「よし」なんて言っているのが耳に入って、こっちの身にもなってみろとばかりに、〃くそー〃と思う……第12水濠通過、第13あたりからスタンド全体がウァーッという喊声ともつかぬ大きなどよめきに包まれてくる。

頭の中は完全にからっぽ。そして最終の第14障害、飛びながら、〃これだけだ!!〃と思った。……ゴール。思わず「やった??」

半信半疑のままスタンドに向かう。観衆がものすごい拍手をしてくれる。うれしくて〃ありがとう〃を言いたくて何度も何度も頭を下げた。敬礼、愛撫しながら退場門へ。躍り上がらんばかりにして迎えてくれるみんなの顔、顔、顔……

でも飛び降りた後は、みんなの顔とは裏腹に空しかった。〃これで終わってしまった〃そんな思いを噛みしめながら暫く一人で何処かを歩こう、なんて考えた。と、スターライトが目に入った。あの恐怖、試合前のあの重圧感は心底恐かった。それがまた甦ってくる。〃あんなに肢の悪かったおまえがこんな俺を乗せてよくぞ勇敢に飛んでくれた。俺は正直いって恐かったんだよ。でも、これでもうおまえに乗れなくなるなんて……〃

そんな思いが胸の中に拡がるともう堪え切れなかった。

＊

スターライトは今回の成績により全日本学生馬術連盟から優秀馬匹に、同時に前年度に引続き日本馬術連盟から国内産優秀乗馬に選ばれました。

一昨年に比べ昨年は調子がもう一つといった所だったが、最後の最後になって念願の個人優勝を果たした。その上、積年の念願だった団体入賞も達成できた。今迄三年間も僕の上級生があと一歩の所で涙を呑むのを見て来ただけに、その口惜しさをどんな事があっても僕のいるうちに晴らしたかった。一年の時の上級生の素晴らしい情熱、先輩のあのひたむきさに打たれたことこそが今日まで僕を支え励ます原動力となって来たから、やっと獲得した団体二位というのは正に先輩と部員みんなの血と汗と涙の結晶としてその喜びは非常に大きかった。衝突する時もあったけど、でも矢田以下この仲間達みんなの力で勝ち取ったんだという何ものにもかえがたい感激！団体優勝を目前にして果たせなかったのは残念だが、それでも喧嘩しながらも俺達のやってきた事は間違っていなかったんだと思った。が、更にうれしく思ったのは、現役のこの戦績をOBの方々が心から喜んでくださったという事です。現役以上に喜んでくださったのではないでしょうか。例え日頃は馬から離れておられても、いつも現役部員を暖かく見守っていてくださるOBの存在は部員にとって精神的に大きな支えとなります。またOB以外にも様々な方々が祝福してくださいました。わざわざ御仕事を放り出してまで駆けつけてくださった東京OB会のみなさん、岡田監督はじめ在札OB諸氏それに全国のOBの方々に心から感謝の意を表します。小池先生や装蹄師の太田さんには御迷惑をお掛けしました。そして水野さん、本当に色々御世話になりました。現役部員諸兄姉、それにお互いさまだけど矢田以下四年目のみんな、本当に御苦労様でした。失礼ながら誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

長屋君優勝

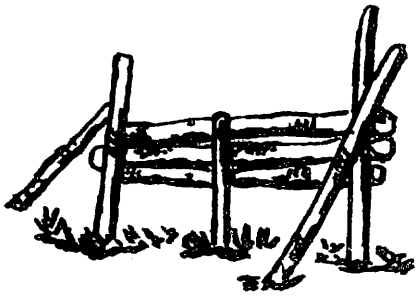
岡田光夫

昨年の第二〇回全日本学生障碍飛越競技会で、長屋選手が見事優勝した。このことは一昨年の第二十八回全日本馬術大会中障碍飛越競技優勝と合せて正に、長屋・スターライトコンビの打樹てた金文塔であり昭和五十年の添田・スターライトのコンビでの全日本学生障碍飛越競技会優勝をしのぐ快挙であり北大の名を天下にひゞかせた。勿論この事は添田・スターライトコンビが開いた道があったればこそであって記録は常に破られるために存在すると云う見方からすれば添田君も後輩の為に拍手を惜しまぬ所であろう。添田君には先駆者としての苦労があった。長屋君にはこれを守り、これをしのがなければならない使命感の様なものがあったであろう。全国的な大試合で同一人馬が優勝した事がないと云うことは今度の試合の放映中に解説者の言葉ではじめて知った事実であるが、考えてみれば学生馬術界に於てはその在学期間と云う制約の中で、同一人馬によるコンビは先ず最大限二年間であろう。しかも地方予選を経て出場と云う事になれば、先ず選ばれると云う事だけで大変な努力を必要とするだけでなく運にも又めぐまれていなければならない。しかも優勝となればいかに確率の少いものであるか分る。

彼が一昨年優勝したのは未だ三年目と云う気安さと、満点馬が少なくて一落下の馬まで出場権を与へられた中に救われた出場でありいわば無欲の勝利であったわけである。失礼な言い方をさせてもらへば優勝など意識せず優勝と告げられてはじめて知った喜びではなかったろうか。その点では昨年は第一走行を無減点で通過し、多くの期待と注目を一身に受けて第二走行の日を迎へ、しかも出場順番は一番最後と云う条件は正に精神的に追いつめられ、もうあとに引くことも何も出来ないギリギリの線の戦いであったと想像される。よくこそこの精神的に重圧にも負けず勝利を得たものよ感ぜざるを得ない。それにしても昨年はシーズンの幕明から、長屋・スターライトのコンビは当然勝つものと云う目で見られ、時には「この人馬は昨年全日本で優勝致しました」と云う紹介も騎手に微妙に作用したのか惜しい所で優勝出来ずじまいであった。幸い出場の選には入ったものの今度は出発が近くなってスターライトが前肢の故障で破行する様になった。部員諸君の懸命の治療にもかかわらず、容易に快方に向わずとうとう破行したまま馬運車に積むと云う一つの賭けの様な出場であった。幸い部員の努力が実って無事出場出来たのであった。第一日目を無減点で通過、第二日目の競技はテレビで放映されるとの知らせが我が家にあったのは第一日目の夜だった。次日の日は朝から落付かない。時間が来るや応接室にもぐり込みテレビのスイッチをひねる。試合は大分経過して居り昨日無減点だった馬が続々登場して来る。そして何がしかの減点で空しく馬場を去って行く。待機馬場の馬はへってくるスターライトはどこかと探すけれどもテレビカメラはなかなか待機馬場をとらえてくれない。時々栗毛の馬が見えるが馬格から見ると帯広の柏栄らしい。それにしても順番を待つ長屋君の気持はどうだろう。きっと成績発表の放送に耳をかたむけ迫ってくる運命の時をいらいらした気持で待っているのではないか尾ろうな話だけれど「俺なら小便がしたくて仕方ないだろうな」等と見ている方がたまらない気持だ。日大のムネヒサがタイムオーバーの〇・七五減点、帯広の柏栄が一落、放送の解説者は

ムネヒサの優勝目前といわんばかりの話をする。いよいよスターライト、無減点で飛ぶ以外に優勝はない。

いよいよスタート。ただ祈るような気持で画面を見る。まるで障碍の間を蝶が舞う様に極めてスムーズにリズムに乗って次から次へと障碍を飛んで行く。水濠を飛んだ時、あっ勝ったと思った。果してそのまま次の障碍を飛んで流れる様にゴールイン。そのまま気が抜けた様にほっと息をついた途端身体中に何か叫びたい気持にかられた。しかしドラマはまだ続く。長屋君が下馬した。部員がかけよってスターライトを受け取った。と突然長屋君がスターライトの顔をだきしめ男泣きに泣いている姿をカメラにしっかりととらえた。この一瞬こそ全視聴者が思わずジーンと胸に熱いものを感じた事であろう。愛馬心、人馬の信頼、何んと表現してよいか分らぬが私自身もいつのまにかひとりでに涙が出てきた。そしてスターライトをここまで持ってというか支えてきた部員諸君の後姿に彼等の心の中を想像した。



習得しませんか
本格的乗馬技術

素晴しい馬達と共に…
北星乗馬クラブ
●銀鞍会 ●少年騎馬隊 会長松岡靖雄
東月寒185番地 TEL853-4978

東京園での祝勝会

昭和八年度卒　武田朝男

昭和五十二年十一月十八日、夕食をしていたところに、東京ＯＢ会幹事の池田、樋口の両君から電話。十五日から馬事公苑で始まった第二十回全日本学生馬術競技会障害飛越で、北大が個人優勝、団体二位を獲得したとの報告だ。万歳し、私は在京ＯＢの古参格と連絡して会期中に馬事公苑でいろいろ話し合う事を約した上、改めて更に一杯を重ね、大声で優勝歌「桑楡哺紅に彩なせる……」を歌い家族中を喜ばせた。

二十日、永松先輩（昭和七年卒）と馬事公苑に赴き、池田、八木沢その他のＯＢ達と会い祝勝会の相談の結果、会場の世話を永松氏に頼んで、東京に近い網島温泉の東京園で二十二日午后六時から滞京中の現役十人を迎えて実行する事を決めた。

十一月の東京は、今年は特に好天が続き爽秋の快さに今、優勝の悦びをプラスして、吾々は半ば興奮気味で祝勝会の時を待った。東京ＯＢ会長の東園氏は宮内庁掌典長の身、翌二十三日の新嘗祭を控えて出席できないがと、金一封を拝領。永松氏以下東京及び近県のＯＢ十五人が、前記現役十人と一堂に会し、楽しく進行した祝勝会は終了予定時間が二時間も延びてしまうと云う中味の濃いものだった。

部旗を掲げ、優勝盃、メダルを飾った会場で、場所柄、一風呂浴びて身も心もサッパリして相集う現役、ＯＢが入り交って肩を組み「桑楡哺紅に彩なせる、われ吾が戦友の血涙史……讃え唱わん光栄の優勝歌」みんな歓喜に祝酒を飲み、斉しく感激に涙を流した。これ等老若の年令差は約五十。

席上、米国に二年余も留学して最近帰国したＯＢ樋口君と、年中日米間を往復して、仕事をしているＯＢ加藤君から夫々滞米中に、物色して来た馬乗りに関する名著（実物）の紹介や見聞の土産話、それにＯＢ戦前組からは昔恋しい隠し芸などの披露もあり、前主将の体験所見、現主将の部況報告、現役各人の自己紹介が連綿として続き、談笑が尽きない光景。寮歌の数々を斉唱したり、愛馬行進曲の合唱、お馬の唄のクワルテット、果ては黒沢ＯＢの踊り教室の演出もあり、出席各員総出演の学芸会の観を呈した。

終盤に臨み、例によって「都ぞ弥生」で締めくくった次第である。が、音頭をとっていた前主将君が最後に「フレー、フレー、北大」「フレー、フレー馬術部！」の蛮声に続けて「フレー、フレー東京ＯＢ！」と絶叫した。この一番あとの東京ＯＢ分の「フレー、フレー」だけは、私にはどうも「クレー！呉れい！」と聞こえた。万事に気の利く東京ＯＢ幹事君は、すかさず東京ＯＢ会の有り金全部をはたいた上に若干を加えた金額を、額は少ないとは言え、現ナマでこの現場で現主将に手渡す事にしたことは（既に予め関係者の了解を得ていたはず）気持ちの良い仕草ではあった。

昭和三十七年度卒　大場善明

東京の日中は秋の名残りの陽光でポカポカです。足場の悪い馬場でホッペタを紅潮させている貴君達の姿が目に浮びます。すっかり枯葉を落し、裸になったポプラが鋭く天を突き、通り過ぎる季節風の音が懐しく思われます。

先日は本当に御苦労様でした。あらゆる意味でショウモウされたと思います。しかし、貴君達の身体の中には言語に表し得ぬ充実感が漂っていることと思います。それが大切なのだと思います。

私も社会人となって、俗人となって十六年過き去りました。何度か若き日の生き甲斐をそのまま持続させようと努力はしてみましたが、かなわぬ環境のもと、儚なき夢ではありました。

現在、馬から降りた私は、余り技術的なお話はしたくありません。なんとなく寂しくなってしまうのです。しかし、技術を抜きにして馬に対して持った愛情は昔も今も何ら変りありません。そして、毎日馬と共に苦楽を共にしている貴君達をも理解したいと思っております。

先日、東京OB会の席上、宮崎先輩が貴君達にお約束した記事の件、去る三十日に紙面で拝見しました。すでにご本人から連絡があったかも知れませんが、コピーを同封します。何かの〃記録〃にでもと思いました。他の何物にも替え難い貴君達の〃宝物〃として、誇りにして欲しいと思います。

今から十七年前（昭和三十五年）、九州熊本より愛馬を連れて帰った札幌の駅、そして当時、恵迪寮に居た市川瑞彦君が寮生あげて祝ってくれた「おしるこの味」を今でも忘れられません。

過ぎ去りし日におごることなく、明日への充実に心して下さい。本当にご苦労様でした。

チャンスに恵まれなかった愛馬の皆々様にも充分に労をねぎらってやって下さい。

大いなる明日の開かれむことを祈りつつ。

安田生命

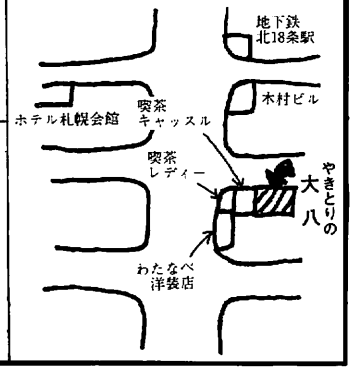
清酒 北の誉

北の誉酒造株式会社

やきとり界で常に躍進する大八グループ

やきとりの大八 地下鉄北18条店

地下鉄18条店	札幌市北区北17条西３丁目	TEL721-4908
本　店	札幌市東区北10条東１丁目	TEL742-7364
本町店	札幌市東区本町１条３丁目	TEL782-8992
栄町店	札幌市東区北41条東１丁目	TEL751-8689



太田装蹄所

札幌市東区伏古10条１丁目15番５号

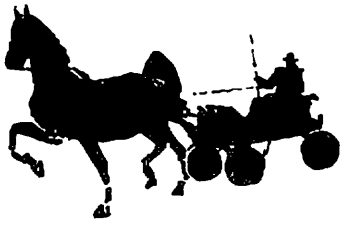
TEL 782 － 6084

環境測定調査（大気・水質）
測量調査・海洋観測調査
都市計画・交通計画

日本データーサービス株式会社

本社　札幌市東区北十三条東十五丁目
高木ビル2F
TEL七八二一一六六五

馬具鞄
製造販売修理
安くて丈夫
中野馬具店
札幌市白石区南郷通七丁目
TEL (863) 五七六三



車検・修理・中古車は
北専カードと
ローンでOK!!

北大モータース

本　　社　北区北18西5　☎721－1526
北営業所　東区北44東1　☎721－7049
中古車センター　東区北26東1　☎704－1257
代表　小野　忠

普通傷害保険

わずかな負担で大きな安心を買おう

日産火災海上

札幌支店　札幌市中央区北４条西３丁目１番地（札幌駅前合同ビル）
電　話（011）２２１－８１３１番（代表）

ラーメンなら

北龍

北18条西6丁目
TEL742－1376

おふくろの味

食堂

まこと屋

札幌市北14条西４丁目
TEL 742－7794

先輩寄稿

学生時代の思い出と私と馬

昭和六年度卒　間　克市

私は大正十四年予科に入学したとき、さそわれて柔道部に入部した。当時の柔道部は予科の運動部の中で最も活躍していた時代で、全国制覇をねらって、昼夜をわかたぬ猛練習をつづけていた。しかし私の選手としての三年間の奮斗のかいもなく、全国決勝で岡山六高に敗れ全国制覇の夢は消えた。それから七年後に堂垣内知事や私の弟の時代に遂に待望の全国優勝をなしとげた。

私は予科柔道部の選手生活を終った三年生の秋、乗馬部に入部した。柔道部からいきなり乗馬部に入った私は、古い部員と一諸に練習をやらねばならないので、大いに苦戦を余儀なくされた。当時は北大農場に乗れる馬が三頭ばかりいたようだが、それは畜産の実習用の馬で、我々部員は日曜日毎に月寒の歩兵二十五連隊に徒歩で練習に出かけたものだ。初歩の私にとっては大変な事で、鐙をはずしての馬場運動では途中で飛び降りたくなるほど辛かったり、野外騎乗では落馬しそうになりながら馬の頸にしがみついて皆について行ったり、それでも柔道部時代の斗魂精神で頑張ったので、どうやら古い部員に追いつくまでに上達した。まだその頃は学生対抗の馬術競技を行なわれず、いとも呑気に乗馬を楽しんだものだ。冬期休暇には毎年旭川の騎兵方七連隊に合宿練習に行き、乗馬調教師の宿舎に合宿した。当時の連隊長は中山蕃大佐で豪放磊落古武士のような人で、私の好きなタイプの軍人で人間的にも教えられるところが多かった。また教官は衛田軍曹と云って連隊切っての馬術家で、その騎乗ぶりには感心させられた。ただ、あの手のちぢかむような酷寒期の馬の手入れ、特に水での蹄洗いには参ってしまった。それでも泣きごとも云わずに皆頑張ったものだ。

私の在部中に旭川師団で馬術大会が開かれ、我々部員も全員参加した。私の腕前では馬場馬術や障碍馬術では、問題にならない成績であったが、散紙競馬や巻乗競馬では健斗した。特に巻乗競馬ではゴール前、馬にひっかけられて一着に入賞したのを今でも覚えている。

私は昭和六年畜産二部を卒業すると農林省奥羽種馬牧場に勤務することになり、馬の仕事で飯を食うはめとなってしまった。あれから四十七年たった今でも馬の仕事をつづけており、丙午の年に生れた私は馬との奇しき縁にむすばれて、馬一筋の人生を送ることになってしまった。今にして思えば、学生時代に乗馬部に籍をおいたことが、長い間の私と馬との悔のない人世のきっかけとなったような気もする。

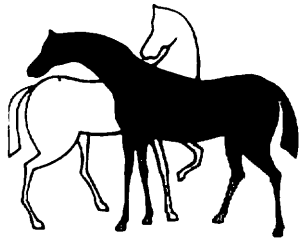
戦前の華やかな馬役人の時代から、戦後の斜陽化する馬産の現状ととりくみながら、忿懣やるかたなき思いもあったが、それにひきかえ競馬復興にともないブームとさえ思られる程の軽種馬生産の隆盛ぶり等、時の流れの移り変りをしみじみと感ぜざるを得ない。

日本馬事協会の専務をやっていた頃、衰退する農用馬に代り、戦後いち早く姿を消した乗用馬の生産復興を夢みて努力してきたのであるが、これも実を結ぶまでには至っていない。なるほど学生乗馬は盛んになってきているようであるが、一般乗馬は特定の愛好者に限られ、大衆に浸透するまでには至っていない。ゴルフを始めレジ

ャー用スポーツが盛んになってきた今日、最も快適なしかも健全なスポーツである乗馬が普及しないのは何故であろうか。乗馬の施設や飼育に金がかかる、乗馬クラブの経営が不安定だ。乗馬資源の不足等、色々な原因もあろうが、馬を通じて一般大衆に競馬の健全スポーツ性の認識を高めるため、競馬の益金を思い切って乗馬の振興に投入すべきであると思う。

今の学生諸君は学校を卒業すると、その殆んどが乗馬をやめてしまう。社会人となっても大いに乗馬を楽しみ、日本の乗馬振興のリーダーとなって活躍してほしいものである。

（日高軽種馬共同育成公社常務取締役場長）



takes good care of
person and horse
feeling with heart
"sunbridge"

株式会社サンブリッジ

■本社ライディング部
〒662 西宮市浜脇町1番29号
☎0798－35－7771

■東京ライディング部
〒213 川崎市高津区土橋6丁目13～1
☎044－854－3541

■札幌ライディング部
〒062 札幌市豊平区美園9条7丁目
☎011－822－1105

普通自動車・大型特殊

身障者科併設・技能試験免除

●北海道知事認可
●北海道公安委員会指定

札幌 篠路自動車学校

北区篠路町篠路13の2　☎771－2224・3917

北大馬術部と私の母

昭和三十四年度卒　樋　口　正　明

私の母は、昭和五十二年十一月六日七十九才にて永眠した。母と北大馬術部は、強いきずなで結ばれていたといえるので往時のことが、しきりに想いだされてならない。

私は、昭和二十九年東京を離れて北海道にわたり、馬とのつきあいをはじめた。生活を支えるアルバイトの時間を除けば、毎日を馬とともに過して、すべてが馬そのものの学生生活を送った。これはたまの帰省のときにも同じようなものであり、朝まだ明けやらぬ頃から起きだして馬事公苑に通って、厩舎の手伝いをしながら一日中練習にあけくれたものだったが、このようなとき、いつも毎朝心づくしのニギリ飯を持たせてくれる母だった。

当時の北大馬術部は、やっと自馬を持つようになったばかりのときであり、ＯＢ会は組織されておらず、部員のアルバイトや遠征するとき身近な方々に奉賀帳をまわす程度にとどまっていた。したがって、遠征して人馬ともに腕をみがく機会は非常に限られていた。なんとか競技会に参加する機会を多くもとうと皆んなで考えていたが、部の財政状況には余裕がなくきびしいものだった。

東京方面に遠征したときなど、私の家でザコ寝をしながら試合にのぞんだこともあった。父が早く亡くなって、苦しい家計であったが、このようなとき、母は、いつも馬の仲間を歓迎してくれた。私が参加しているときも、また加わっていないときでも同じように、競技の応援をして、喜びもまた悔し涙も我々とわかちあってくれたものだった。私が卒業してからも、当時の仲間が来たり、現役諸君が寄ったときなど、我がこととして歓迎し、馬術部の状況をいつまでも暖くみまもってくれていた。

また、昭和三十四年の東京ＯＢ会の組織化のときには、丁度、勤務で忙しかった私を助けて名簿の整理から通知文の作成まで協力してくれたものである。また、あるときには、私が勤務先での宿直中馬術部からＯＢ会あての至急便を、夜間とどけてもらったこともあった。後年、私が結婚した際、馬術部の仲間が集まって「都ぞ弥生」の大合唱で祝ってくれたが、そのときにも、元気でこれに和してくれたものだった。近頃、現役諸君との関係はほとんどなかったが、おりにふれて、馬術部の活躍している状況を伝えたりすると、往時をなつかしみつつ、とても喜んでくれていた。

母は、約一ヶ月の療養生活をおくったあと静かに息をひきとったが、最後の頃、馬の仲間である千葉兄、生田兄にくれぐれもよろしく伝えてほしいといってから逝った。いま頃は、あの世で、池内先輩、大久保先輩等の方々と馬術部のこと、東京ＯＢ会のことなどを語りあっていることであろう。

最後に、母が生前、多くの方々からいただいたご厚情に対して、この場をおかりして、深くお礼を申しあげる。

詩二篇

昭和三十九度卒　三浦清一郎

子をつれて

娘を連れて馬場に立った
いななきに
思い駈け巡れば
星霜すでに十余年

やみくもに
あれもやり
これもやり
おのれの飢餓を恐れて
新しい行為の種を蒔いた
ある日
風の日
春が生れるように志が生れる
木の芽が育つように
精神がふるえる
あゝ
志は行為への努力の中でしか生れない

しかし
いくたび体験しても
血肉の記憶と為し得ない
凡愚の哀しみ
どうひいき目に見ても
もう若くはないか
志は行為への努力の中でしか生れない

楡の日

忘れたわけでは決してないが
十五年もの月日の果てに
案内状はとまどうだけだ
あの夜
ポプラの馬場へ残してきた
若い意見には存在証明がない
夜明けの霜が鮮烈であった
若さはいたけだかに誇らしく
わたしたちは落伍者たちを嘲った
時間に汚れ
愛想笑いを覚え
今となってみればその可否は知らない
やさしさだけが甲斐ある憂き世
もう楡の日に戻れない

帯広より

昭和四十二年度卒　加藤正昭

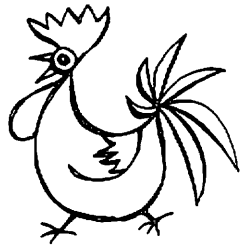
卒部以来、早十年も経ましたが、いまだに馬にしがみついておりますが、わが愛馬は、さかんに「いやいや」をしております。というのも、かっての元気はどこへやら、三日に一度が一週間に一度、寒くなるともっと乗らずにいるのですから、馬にも愛想をつかされても文句は言えません。

学生の時代に純粋に馬に打ち込めた時代をなつかしく思います。自分の条件はますます悪くなって来ます。いずれは自馬を持てなくなるようになるかも知れません。（経済的には許されても他の多くの要素がありますので）

現在活躍中の部員諸兄は、現役の日々を是非思い切り馬に乗ってみることをお勧めします。競技からも遠のき、まったくの門外漢としての最近の印象です。

北大馬術部のますますの活躍を祈ります。

やきとり



なると

北区北24条西４丁目
メトロ会館
751－1628

手造りのパン
洋菓子

有限会社 ジュウジ屋

札幌市北区北17条西４丁目
電　話 741－5332番

馬とのふれあい

佐合義弘

日増しに軍靴の足音が高くなりつつあった昭和十六年三月、私は長野県飯田市の高等小学校を卒業した。

同時の情勢下では長男以外は家に居る事を許されなく、ましてや四男である私は上の学校にも行けず、工場か、軍か、又は、満州かしか行く所はなかった。少年戦車兵、少年航空隊、少年海兵団、青少年義勇隊などなど、十五才十六才の私達が血湧き肉踊る宣伝があり、学校では先生から、お前はこれがよいとか、悪いとか云われた。私の場合は体が小さく、近眼と云う事で満州がよいだろうと云われ結局本人もその気になった。

三月三十日の卒業式で、三日と家に居ないで二十三日には茨城県の内原訓練所に向って出発した。本来は三ケ月間の内地訓練なのに私達は五月の初旬、二ケ月足らずで渡満と云う事になったのだった。

舞鶴から月山丸と云う小さな船に乗って、清津、羅津を経由して図門に入った。流石、満州、肌に当る風は冷く、異国の風物はすべてが新しいもの、そして新しい体験ばかりだった。

五月十二日に私達のこれから三年間実地訓練を受ける伊拉哈訓練所に到着した。

赤い夕日の満州、広漠千里の満州、これが夢に見た満州なのだ。そしてこの広野を馬で駈ける。大営農を展開する。更に北の守りをもと云うのが私達、義勇隊の任務であった。

待望の馬が入って来たのは六月、若草のもえる満北の春の真最中日本馬十頭、満州馬（これは丁度、どさんこと云った所）十頭の計二十頭だった。

私は日本馬（中半血）の初浪という馬の担当に当った。この馬輸送中に跳ねたか、他の馬に蹴られたか、右の飛節の上に大怪我をして、しかも化膿して大変だった。私は夢中でこの馬の介抱に当った。時には馬屋の中でねた事もあった。おまけにだんだん暑くなるとあって思うように傷がなおらず、完全に跛行がなくなり、良くなった時は涼しい風が吹き始めた九月の中旬だった。

私と馬との出合いは、この初浪が最初だった。

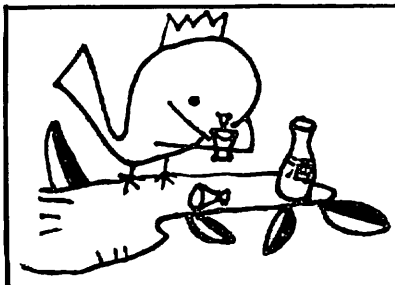
私達の居た伊拉哈と云う所は全満一寒さのきびしい所だった。水飼いをするには約一Kはなれた丘の上で、こゝが、又、どんな厳寒でも決して凍冷しない湧水があり、私達訓練所の馬も牛もみんなここで水飼をしていた。

農耕のない時は、毎日馬に運動させる為に乗馬運動をしていた。先生は騎兵の将校で、私達は、全員まずハダカ馬で訓練させられた。尻はむけるは、足は血が出る、楽しいなんてちっとも思えない訓練が続いた。なんとか仮病をつかって休みたいと何時も考えていた。

この時程馬の当番を後悔した事はなかった。しかし、一訓練を終えて鞍をつけた時、乗馬とはこんなに楽しいものかと思い、馬からもうはなれまい、なんと思ったりした。人間とは実に勝手なものさ。

あれから、もう三十五年にもなる。この間、色々な事もあったがどうゆう訳か何んとか、馬と縁があり程々に楽しんでいられる事に感謝しながら筆をおく。

最後に部員諸氏の今年の健斗を祈る。



ボリューム満点
コンパもできます。

やきとり きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向　電話 742－7000

とんかつなら味の

とんこ

北区北18条西5丁目　TEL 742-5809

ラーメン・焼魚・焼肉・定食、各種

出前迅速

平和食堂

北区北18条西5丁目
TEL 711－2671

塩野屋

飲むほどに
酔うほどに…

北18西4 北18条ハイツ地下

北海道名物
ジンギスカン専門の店

義経本店

札幌市北18条西5丁目
TEL (721)一一七二三
義経本店

馬術部を後にして

春秋四節

矢田　明

遊びがいつのまにか、巫山戯半分に、そのうち本気になり、己惚れも昼の夢、追い詰められ窮鼠と化し、燃えてしまった。

自分にとって部活動は大きかった。裏を返せば、自分が小さいと謂ふ事に他ならぬ。その他には女の事だけ、これは文字通り助女平だという事。

馬と接した事。己の姿を馬の中に知る。自分の限界と苛く苦い蹉跌、真剣な集中、闘いと主張、光、まばゆいふれあい、どう考えてみても自分は馬でせいいっぱいだった。

不幸かって？　さあてどうかな！

四年目の夏、親父が死んじまった。死んだやつは阿呆だ。

四つの春と三つの秋、やはり長かったんだな。己の親不幸を思い知らされた。愚かにも今頃になって漸、おふくろを愛せるようになった。

権力と責任、失敗と後悔、限りない挫折、仲間、先輩、得たものと失ったものの重さを比べようと試るのは、愚劣？　率直？　言分けに過ぎぬのか。

ずい分と残業がたまっている様子だが、もう自信がない。堕落だろうか。皆、同じだろうか……「解放」、逃避に似たこの禁句を口には出さねど、体はすでにどっぷりと浸り込んでしまっている。

十一月末に虫垂炎を煩らい二週間の入院、部のやつらは、皆来てくれたのに我クラスメートは二人だけ、さびしいなあ。

最近、また夢を見るようになった。夜の夢じゃない。まだ暫くは、生きられそうだ。

卒部にあたって

長屋清隆

四年間恵まれていたと思う。ほんの偶然で入部して以来、部全体特に上級生の間に漲る意気込みというかエネルギッシュな何物かに引き摺られ圧倒された。今日まで部に全てを傾けて来たというのも馬と離れられなかったのは無論だが、それ以上に上級生のあの情熱に打たれたからなのは確かだ。

しかし自分が上級生となってからの部活動というのは難しい。様々な人間の集りである部を一つにまとめ唯一の目標に向かって進む、というのは予想を遥かに上回る困難が付きまとう。僅か二、三十名そこそこのしかも馬が好きだからこそ集まって来た連中ばかりなのにこと部の運営そのものになると何故ああも考えが食い違い、捉え方が異なってくるのか不思議なほどだ。馬に乗り下級生の指導に当っているだけで済まなくなるのは当然としても、部の外からも内からもそして馬の事にしてもあらゆる難題が押し寄せて来ると目が回り頭が痛む。その上意見が対立し衝突しようものなら気も狂わんばかりだ。やりがいを感じる頃でもあろう。だが馬が好きだから、だ

けで部に来るわけにはいかなくなるのはやはり何といっても辛い。これを乗り越えるのは、部を支える者としての自負と俺こそがという情熱しかないのだろうか。

思い出なるものを語るには未だ部生活の余韻は強烈だ。日々の人と馬との生活があったから四年間は決して短くはなかったけれど、懐かしく振り返るほど前の事でもあるまいし、まして人に語るほどの事でもない。今日を精一杯生きている馬たち、そして明日を目指す現役部員には先輩の戦績やら様々な思惑、或いは単なる感傷なぞ全く無用のはず。

部員諸兄には、苦しい時もあるに違いないだろうけれど自分を甘やかすことなく、そしてまた臆することなく大いなる望みを持って馬と共にみんなで歩んでいってほしい、とだけ言っておきます。

卒部するからといって今更弱音を吐いたわけでは決してありません。俺達を踏台にしてほしい。

四年間の思い出

半浦　剛

思い出というものを語る程は遠い昔ではありませんが、なつかしいと思う位には月日は経ている様な気もします。到々、卒部ということになってしまいました。正直いって嬉しい気もしますが、やはり大きな絆が一本なくなる寂しさを感じます。何かをやり遂げたという感じは不思議とないのですが、必ずや何年か後には、思い出という糧となって勇気づけてくれるものと思います。

どんな部生活が一番よいのか、固より僕もわかりません。僕が入部してからの四年間だけでも、多くの人々が途中で部を去って行きました。その度に僕は寂しい様な、煩悶せずにいられない様な気持になりました。僕は話しべたで、引込み思案の方（だと自分では思っています）ですから、そういった人達と話した事は殆んどなく、軽卒な事は言えない立場にあるのですが、部はもっと寛容であるべきだと考えます。やめて行く人たちにも、ある面ではエゴイスティックな所があり、没目的的な人もいますが、大きな範囲の人との継りのある有機体は必ず大きな発展性もあるはずです。今の部の人たちの立場にも、もっともっと種々のものがあって受容されてもいい様な気がします。生存比較競争の中にあって居直ってもいけないし逃避すべきでもありません。又、居直った人は別にしても、人には考えは同じでも強い人と弱い人がいるのではないのですか。いずれにしても自分の立場にしっかり立って頑張ってほしいものです。

＊

君たちが高く抜き出ようと欲するならば、自分の脚を使え！人に持ち上げられるな、他人の背や頭の上に乗るな！

しかし君は馬に乗るのか。君は今や、敏速に上へ向って君の目標を目指して、馬を駆るのか。さあ、そうするのがよい、ぼくの友よ。しかし、君の跛の足もまた、ともに馬に乗るのだ！

もし君の目標に着いたならば、もし君の馬から跳び下りるならばまさしく君の達した高処において……君はよろめくであろう。

四年間の思い出

本城敬文

早かった四年間。あっという間に風のように過ぎ去ってしまった。思い返せば四年前、不安と希望に胸ふくらませて、あこがれの北海道に足を降ろしたのは昨日のよう。あの夢多き青年はいずこへ去ってしまったのか。入学当時、やりたい事が山程あった。スキー、スケート、登山、マージャン、パチンコ、読書、水泳、スキューバーダイビング、ギター、写真、旅行、○×遊び、それに勉強、しかし、何もでけんかった。何も何も。その代わり私が得たものは何であったろうか。四年間のクラブ生活を通して得たものは。友か。四年間いがみ合いながらも一つの目標のために共に競い合った友か。四年間続けられたという単なる自己満足か、今はわからない。今はわからなくとも、時の流れがその重要性を教えてくれる。そういうことにしておこう。自らその労費した時間の代償を独断的に高く評価するのも愚なことではないか。人間誰しも自らの行動を正当化したいものである。自分の行動が自己及び部に対し、有益であったと自惚れ、自己満足の温床にくるまって、ぬくぬくとしていたいものである。私の四年間のクラブ生活を支えてきたものは、ひょっとしたら、その自己満足にあったのかもしれない。

しかしながら、クラブの四年間は、自己満足に十分値するものであり、なおかつ、お釣りのくるものであった。貴重な青春のエネルギーをつぎ込んで働いた四年間は、学業の不足をも補いうるポテンシャルを有していると私は信じたい。

＊

ねえお兄さん、今度キャバレーへ連れてって。

四年間の思い出

山本裕介

入部当時、馬術とはずいぶん難かしいものだなあとめんくらって以来、来年こそはもっと理論的に馬術が解るようになろうと毎年思ってきたが、とうとうそのままで終ってしまった。結局、いつまで経っても、インサイドワークに欠ける乗り方しかできなかった四年間であった。従って、僕の持論はいつもこうである。いくら頭で考えても、人間の脳波で直接馬が動くわけない。体で乗って体で覚えろ―　野蛮な言い方ではあるが、単純な僕としては、このことぐらいしか言えないのは、察していただきたい。

ところで、思えば親のスネをかじって学校へも行かず、四年間のクラブ生活の中であんなにいろいろな事をやってきたことは、実に幸せであった。世に言う青春の謳歌とでも言おうか。しかしまだ過去のことではない。

ひとつ、これからは、第二の青春を創り出していこうとひそかに思っている。

四年間の思い出

笠間淳子

私が馬術部にはいったのは、他ならぬ馬がいたからである。北海道の大地を馬に乗って駈けてみたい。誰もが抱く夢だろうが、四年前、私もそんな単純な動機で入部した。今思えば、それが私に与えてくれたものは大きい。

この四年間の部生活には、いろいろな出合いがあったが、もちろん、まずは馬である。一種の恐れと好気心をもってその背中にまたがった時から、彼らは私に乗ることへの興味をどんどんかきたててくれた。中には、思うように動いてくれず、馬術のむずかしさをたっぷり教えてくれた馬もいたし、試合では私の未熟さや甘えをいやというほどつきつけられたり、逆に不安な自分が馬から勇気づけられることもあった。馬術では馬が一番の師であるというのはほんとうだった。理屈だけでは通用しない厳しさと、乗り手の気持ちをそのまま映し出す素直さは、時に私をしかり、時には励ましてくれた。四年間クラブを続けることができたのは、第一にこの馬たちのせいではないかと思うのである。

また、馬術とは別に、日頃のつき合いの中で馬の気持ちがわかってくるのも楽しいものである。その大きな馬体からくる存在感の確かさと、むしろ憶病な気性は、人間と馬とのつながりを強くしてくれる。そして動物の目というのは、ほんとうに純粋で愛らしいものであると思う。反面、どうしても不可解な、その神秘性にもひかれまた、時折みせる一種の悲哀を帯びた表情も忘れがたい、愛すべき動物である。

一方、たくさんの人たちとの出合いもあった。直接指導してくれた先輩たち、また、四年間を共にした同輩たちは、練習の中で、あの息のつまるようなミーティングの中で、また時にはばか騒ぎのコンパの中で、馬術の教えはもちろん、クラブでのあり方、さらには人生論まで、教えてくれたり話し合ったりした。理論が空回りすることも多かったが、そんな中で、たくさんの個性を知り、共通した何かを感じ、いろいろな人間がいることを知った。それは、また、私自身との出合いでもあったと思う。

もう一つの大きな出合い、これは、いつの時代でも馬術部でくり返されている普遍的なものかもしれない。馬という生き物に接するとき、あるいは、四季折々のつらさを経験するあの合宿のとき、いつも、自然がそばにあった。日高の牧場の爽快さ、真夏の遠征、冬の練習や、春の雪割り。山のような氷の固まりの下から流れ出す雪解け水をながめていると、人間の力なんて微々たるものだと思えてくる。ほんとうの自然は、もっともっと厳しいものなのだろう。私は、そのほんの一角を垣間見たにすぎないが、単なる自己満足にせよ、それまでの生ぬるい環境にどっぷりつかっていた自分を発見し忘れかけたものに気づいただけでもよかったと思う。

ふり返ってみれば、さまざまな波があった。クラブという組織や試合という現実の中で、イライラすることも多かったが、思い出というのは感傷的になり、美化されるものらしい。コンパの時の寮歌や愛馬進軍歌も、なつかしく思うようになるだろうし、早朝の練習のあの緊張感も忘れることはないだろう。クラブというものを外から見てみると、その存在の大きさに驚く。馬がいて部員がいる、一つの大きな家族のようなものなのかもしれない。

女子部員として

山川　恵

この四年間、女子部員として送ってきたので、馬術部における女子部員について考えたことを書いてみたいと思います。

女子というと、とかく半端者扱いされがちですが、果たして本当にそうなのでしょうか。馬が好きで入ってきた新入生。男子も女子も区別なく一から教えられ、同じように上達していきます。そして馬を当てられ責任を持たされる段になると、なぜか男子が優先し、女子は半端者にされてしまうことが多いのです。これは、男子部員の方では女子などに乗れるのだろうかという不安があり、女子部員の方にも気楽に乗れた方がいいのかもしれないといったような気持ちがあるからでしょう。こんな考え方はいいとは思えません。それまで同じように練習をし、同じような目標をたてていた部員が、そこでお互いから二つに分かれてしまっているように思えるのです。

クラブの最終目標は試合です。勿論、一年の最初から試合に勝とうと思って入部してくる人はまずいないでしょう。でも、馬と接していればそれだけで満足という人でも、結局二年、三年といると、それだけでは済まされなくなるのです。馬術部という運動部では、皆が団結して勝とうと努力しなければならないのです。どこの運動部でもこれに違いはないでしょうが、馬術部における女子部員というのは、バレー部の女子部員とか、バスケット部の女子部員、あるいはサッカー部の女子マネージャーなどという存在に比べると、かなり特殊な位置にあると思います。というのも、この馬術という競技が男女の別なく争われるからです。男女の差というものは様々な特性で明らかです。最も目立ったものは筋力の差でしょう。このような大きな差がありながら馬術競技では同等に戦えるということはこと馬に乗ることに関して筋力は大して重要な意味をもたないということだと思います。勿論、向き不向きはあると思います。石のように重い馬にか細い女の子が乗ったり、繊細な馬に山のような大男が乗るといったような問題はあるでしょうが、とにかく作業での力の差はあっても、女子にも馬に乗れないことはないと思うのです。馬と人間の力の差を考えたら、男女の力の差など微かなものではないでしょうか。男子にしろ、女子にしろ、もう一度このことを考えてみてほしいのです。特に、これからの女子部員はもっともっと自信をもって、積極的に学び、教え、そしてどんどん意見を述べるようにしてもらいたいものです。女子部員といえども男子部員におぶさらずに、主体的にクラブを支えてほしいのです。それが、クラブが一丸となって勝とうとするときの責任でもあると思うのです。

自分の四年間を振り返って、反省の気持ちで書いてみました。

なつかしき日々

浪内陽子

ただ、ただ無我夢中のうちに、過ぎ去った三年間。最近はめっぽう朝起きが、辛く成りました。

馬術部へ入部して、私にとっての最高の思い出は、やはり馬達との生活です。特に私にとって一番長い付き合いだったデコ嬢との思い出は、かけがえのないものです。彼女との夕方の散歩は楽しみの

一つで、クローバーのあるところばかりねらい食いつく彼女のそばで気分良く、迷曲を声高らかに歌をどうたう。へたくそと言わんばかりに、首を高く挙げ、首振る彼女の顔を見ていると、いつかヒョッと口から言葉が漏れて出てきても決して不思議がない気がしてなりませんでした。彼女にしてみれば、私を馬鹿にしてからかい半分のつもりでも、そんな素振りや、しぐさの一つ一つが、可愛らしくたまらなく、いとおしさがあふれてくるのでした。

四月から、馬達からは全く離れ、又新しい道を進みはじめる事に成りますが、いつどんな時にでも、馬達の愛らしい表情や姿を目に浮かべる事ができる様に思います。

最後に、三年間もの長い間、暖かい寛大な心で、私を励まし勇気づけ、許してきて下さった諸先輩、諸兄諸姉に心より、感謝いたします。

郷土料理

えぞ鮨

毎月1日　鮨半額デー
20日　天丼半額デー

札幌市北区北20条西4丁目
☎741－5525・741－1608

酒・たばこ・食料品・塩

土野商店

北18条西5丁目

TEL 711－2575

お好み、焼そば

さ　と

北区北18条西4
TEL 721－8356

腕章
旗・幕・幟
附属品
カップ・楯
バッチ
トロフィ
メダル
タオル
手拭
記念品
記章
出世兜

各種製造販売元

禮式国旗掲揚器発売元

株式会社 山　禮

〒060 札幌市中央区南1条西7丁目
TEL 札幌(011)大代表241-1641番

受信略号　「サツポロ」ヤマレイ
取引銀行　拓　銀　本　店
振替口座　小樽 2 9 0 9 番

スポーツ・レジャー用品の
総合センター
馬術用品コーナー開設

札専・北専・札信販・住友・ダイナース・ダイヤモンド・HCB・ユニオン・ミリオンの各クレジットカードをご利用下さい。高額商品には「北専ローン」を、最高24回払いまであります。

スポーツハウス

さっぽろ中央区南3条西5丁目　☎221－1111

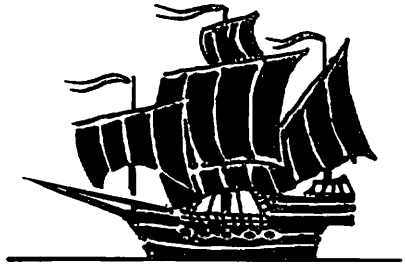
支店. 旭川・釧路・岩見沢・帯広・北見・青森。

創造の輪をひろげる

日特建設株式会社

取締役支店長　小　池　栄　一

本　　社　東京都中央区銀座8丁目14番14号
☎ (03)542－9111(大代)
札幌支店　札幌市中央区南13条西11丁目1251番地
☎011)561－5326(代)



喫茶　パド

札幌市北区北18条西5丁目
本通り南向
戸川ビル2F
TEL 742－5336

株式会社 丸仲 中一

営業品目　仕出し・給食・会食弁当
折　詰・オードブル
各　種　料　理

事務所　札幌市北区北18条西5丁目
電　話 711－5045番

工　場　札幌市北区北18条西4丁目
電　話 711－6751番

ふと思い起こせば

雑　感
（〃感〃は〃感覚〃の〃感〃）

石黒直秀

初夏のころ、水のみ台の椅子に腰かけて天龍山の足を冷やした。水の流れる音と共に風がポプラの枝をならすのを聞いた。何年ぶりだったろうか、風の音に耳を傾けたのは。

腰をかがめて、手に豆をつくって、草刈りの青い匂い。〃俺は土方の親方になるんだ！〃と剣先スコップを振り回し、土の匂いは馬糞の香りもほどよく調和して。故郷の砂浜の波の香りと共に去年の夏の思い出となった。

愛する夏も過ぎさり、手稲の山々が染まるころ、スターライトと共に夕方のお散歩をした。朱色になった太陽がゆらゆらと山に落ち行くのを見るために、草地でぶらぶらと時を持ち、そして見た。毎日、陽は沈むというのに、夕焼けを見ることはあっても眺めることをしなかった自分が恥ずかしかった。

「ある日ふと思ったこと」その1

北畑裕

『一九七八年から禁煙することにしよう。そして今度の駅伝に頑張ろう。もし次がダメでも、又その次は頑張ろう』と。

ざっかん

篠田聖児

ぼくが入部してから早くも一年がすぎようとしている。我ながらよく続いているものだと思う。馬術部というと一応運動部であるが現実は労働部といった感が強い。肉体的には大してつかれるわけでもないが、とにかくやたらと時間ばかりとられるクラブである。一日の約三分の一はクラブに費され、その他に遠征、これが他のクラブと違って馬を運ぶため非常に長期に及ぶし、その輸送費を出すためにアルバイトをしなければならない。このアルバイトであるが、ぼくが入部したばかりで何も知らない時、この部はわざわざアルバイトを紹介してくれるのかと喜んだら、とんでもなかった。これは非常にむなしかった。働いたあとの充実感がまるでわいてこなかった。ある日ぼくは考えた。いったいだれによって搾取されているのか、と。そしてはっと思った。自分はどうなんだ。一体だれの金で食っているんだ。だれのおかげでのうのうとくらしているんだ。親父だ。そうだ、同じことだ。かわいい子供が十二人もいるんだ。働

かなきゃあならんのはあたりまえではないかと。それからはあんまり苦にならなくなった。（でもやっぱり授業をつぶすのはいやですね）

初めは馬というのは上に乗れば動くもんだと思っていたが、完全に甘かった。生まれつきの反射神経のにぶさから、一度に幾つもの動作を要求される馬術はぼくにとってとてつもなくむずかしく毎日どなられてばかりいます。最初の頃は全く進歩しない自分にいや気がさして、いやいや練習に来ているという感じで、それでも続いたのはひとえにキュロット、長靴代を無駄にしたくなかったからなのです。最近はやや開き直りまして、とにかく練習に出りゃそのうちなんとかなるさと割とまじめに練習に出てくるようになったつもりです。また最近は部室に入りびたりといった感が強くなってきましたが、これでいいんでしょうね。全日学の時はほんとうに感動しました。あの喜びをぼくたちも味わえるようにがんばりたいと思います。（勉強もがんばらなあかんね）

どういうわけか途中から文体が変ってしまいましたが、気にしないでください。

雑感

丹羽岳人

一面の銀雪
冬空の月明かり
静寂
何も聞こえない
……
一瞬
黒い躍動の影が翔び
沈黙の世界を駈け抜けた
……
瞬く北極星の光は一千年の彼方より
時を超え
太古の昔
彼が見上げたであろう光そのまま
静寂
限りない静寂
沈黙の世界
そこに佇むのは……。

南から北へ

高橋均

昭和五十一年三月二十二日、鹿児島大学退学イコール同馬術部を退部した。そして、翌年の三月十八日、私は北大馬術部入部の許可を問うた。

その前日は、願ってもない北大に三度目にしてやっと入学を許可された日であった。その日に部室を訪れたのであったが、部室にたむろする人間が、日頃、多いにもかかわらず、その時は馬しかおらず、入部したい旨を伝えることができなかった為、その翌日の朝、再び訪れたのである。さすがに、入部が早すぎたのか先輩諸兄は驚き、ためらい、そしてあきれていたようだった。私はといえば、とりあえず入部を許可され、まず一仕事を終えた気持ちであった。なぜなら、この北大に入学することイコール馬術部に入部することであったからである。なぜこれほどまでに北大馬術部に魅力を感じていたのか。また、なぜ鹿大馬術部をやめたのか、それにはそれなりの理由がある。しかし、あまり筋の通った理由はない。ふざけた言い方をすれば、日本列島の南北の端にある大学の馬術部に入部したかったからである。

もともと、鹿大に入学した時に、翌年は北大にまた挑戦するつもりではいた。しかし、馬術部にいて受験勉強はやらなかったし、大学の授業にもほとんど出なかった。そんなこともあって留年しそうになった。留年するくらいなら再度浪人。その方が……。その時は不安などなかった。もう一年みっちりやれば北大に入れない事もない。そう自分を信じて決断した。自分をかばった言い方をすれば、ただ留年しそうになったためだけに退学退部したのではない。それはあくまで、料理の一つの調味料にすぎない。さて決心すると早速行動に移った。まず札幌で浪人生活を送ることにした。その方が大学に入ってからもまごつくことはない。

鹿大をやめた頃はちょうど桜がまっさかりだった。こんなすばらしいところをなぜ去るのか、そうも思った。しかし、それ以上に北への熱望は強かった。東京を経由して札幌へ来た頃はまだ雪の降る寒い時期だった。気のひきしまる思いがした。おれは北へ来た。鹿児島の桜はもう散っていることだろう。しかし、ここ北の地ではまだ咲く気配もないのだ。まるでこれからの試練を象徴しているかのようだった。

南の郷愁と北への憧憬が入りまじった日々が続いた。今は北にいるが、あくまで仮でしかない。来年こそ本当に北に存在する為にと努力した。五月のある体みの日、北大の馬場に練習を見に行った。ここで来年はこのおれが練習することになるのだと思いながら…。

短い夏が過ぎ、冬がやってきた。雪の中での生活だ。なぜかその寒さはここちよかった。気もひきしまった。このころはもう自信がついていた。北大馬術部員になれることを。そして入試。終わった。駄目だ。北の端の馬術部員にはなれないのかとあきらめた。しかしどう間違ったか、北大当局は私の入学を認めてくれた。そして今、北大馬術部員として歩んでいるのである。

あの桜島が手稲山に変わり、やしの木がエルムにとって変わろうとも私の馬術にかけた心に変りはない。そして、その日が来るのをひたすら願うのである。

幻のサラブレッド

松岡　功

今、一つの明るい星がゆっくりと落ちていった。三月五日、あの悪夢のような日から四十三日、彼は関係者の懸命の看護にもかかわらず、蹄葉炎、全身衰弱による心不全のため五年と少しの短い生命

の炎を静かに消してしまった。

私は末、彼が死んだなんて信じられない。緑の芝が燃えさかるターフの上に、再びそのりりしい姿を見せてくれるような、そんな気がしてならない。目を閉じると、彼のいろんな想い出が甦ってくる。華やかだったデビュー戦、そして、阪神3才ステークス。不運に泣いた4才クラシック。胸がしめつけられた天皇賞、有馬記念。天馬といわれたトウショウボーイとの数々の名勝負。思えば、私もそんな彼を見ながら、たわいなく一喜一憂したものだった。また、彼は私の人生に大きな転換をもたらした。というのも私が北海道へ行こうと思ったのは、彼を知ってからだった。少し大げさな話だが、以来、彼は私の心の支えともいえる存在だった。しかし……

彼が静かに朝やけの東の空へと去ってしまった今、私が驚いているのは、彼の死があれほどまでの大騒ぎになったことである。マスコミが大きく取り上げ、多くのファンが悲しみ、見舞の手紙を書く。競馬もとうとうギャンブルの壁を乗り越えたと受けとめることができるかもしれない。しかし、今度の場合も、あのハイセイコーの時と同様に、報道機関にあおられた日本人得意の同調主義によって、人々は、自分が当時者であるような錯覚に陥り、ただはしゃいでいるだけのように思えてならない。皆が皆そうだとは言わないし、私にはそれが悪いとも言えない。しかし、それが、彼がどういう馬でどういうレースをし、人間に何を訴えたか、など、もっと注目すべき点をないがしろにし、死という事実が表面的にだけ過大に受け止められ、ただ騒ぐだけなら、それは、悲しいことではないか。美しきサラブレッドを鑑賞する人々よ、もっと心に余裕を持とうではないか。

彼はいろんな教訓を残していった。馬というものはどんなものか馬作りが日ざしている馬とはどのような馬なのか。現在の日本の競馬にはどんな問題点があるか。サラブレッドにとって、レースとはどんな意味をもっているのか……。

このように彼の生涯を考えると、彼つまりテンポイントは、天の国からサラブレッドたるものを説くためにやって来た「幻のサラブレッド」だったのかもしれない。そんなテンポイントは、今遠い空の上で、何に束縛されることもなく、四肢をいっぱいに伸ばし駆けていることだろう。人間界の煩雑を、そのすずしい瞳で眺めながら。

いろいろ、とりとめのないことを書いてじまったが、北大馬術部における自分をみると、すでに一年が過ぎ去ろうとしているのに、ふり返ってみると、自分がこの一年に残してきた足跡は、ぼんやりぼやけて霧の中。毎日毎日時間に追われ、あわただしい日々の繰り返しだった。これではダメだ。難しいことを考えるのは苦手なので少なくとも目標だけは見失なわぬように心がけねば。でも、まあ何とかなるでしょう。ナ！

雑　感

水野哲夫

馬と、馬と人間との関係が、まだまだわからないのです。こんなことを今更言っているなんて、ダメなんですけど、僕の素直な気持ちです。肩の力を抜くのは、鞍数が増えるだけで直るものではないようです。もっともっと真剣に考える事が僕に必要な事であり、自分の力を思い切り出し切ることは、それにも増して必要なことなの

3つの味とワインの香り。
ワインケーキ
ロバパン
株式会社ロバパン
札幌市白石区本通7丁目
電話:861－8131
Wine Cake

です。今のこの不安定な精神状態を早く抜け出したいのです。自分の力で。

●北大関係作品
北海道大学創基百年百周年記念映画　北大医学部癌研病理・学術映画
『大なる楡』　カラー35分　『異物化』—癌免疫の秘密を探る—カラー25分
●記録映画　●学術映画　●PR映画　●CM　●VTR
den-ei
株式会社●電通映画社
北海道支社●札幌市中央区北一条西7(おおわだビル内)011(251)6071
●(本社)東京　(支社)札幌・名古屋・大阪・福岡
●『大いなる楡』のプリント御用命の節は当支社迄御連絡下さい。

成人病保険のパイオニア

協

協栄生命㈱ 北海道団体支社

札幌市中央区北大通り西九丁目
TEL二六一－二三四一

医薬品卸

ITO

ホシ伊藤株式会社

本店 札幌市南八条西十四丁目一三九七番地
支店 帯広・釧路・北見・函館・旭川・滝川
室蘭・苫小牧・岩見沢

アメリカンタイプとヨーロピアンタイプ
シルエットで分けた、選びやすいコーナーです。ヤングマンのための本格的スーツいろいろ。VAN. JUN. AX. JAZZ…

《まるい》のスーツで
仲間に差をつけよう

スーツショップ/一条本館2階

地下鉄大通は〈まるい〉ひろば
札幌
今井
TEL281-1151大代表
水曜定休日

卒部生と現役部員

【卒部生】

上段　左より本城兄、山川姉、浪内姉、笠間姉、矢田兄
下段　左より長屋兄、半浦兄、山本兄

【3年目】

左より中畠兄、三好兄、岩田兄、木村姉

【2年目】

上段　左より中島兄、国枝兄、吉田姉、成田兄、西川兄
下段　左より島村兄、OBの横沢兄

【1年目】

上段　左より北畑兄、高橋兄、石黒兄、條田兄
下段　左より丹羽兄、松岡兄、水野兄

自己紹介・他己紹介

卒業生の部

矢田　明兄　　農学部

昨年の続き

然らば、その評価はどうある可きか。至っては最早、他人は介入出来ない。自分の夢をどれだけ現実のものに成し得たか、との事に対する満足感をもって測るしかなかろう。

自分は自由でありたい。しかしてその代償は大きい。ゆえに悩み此に在り。

顔の話：一見、近寄り難い仁王様の容貌ですが、その実や……。表情豊かなる事、部内一。特に笑った顔は天下一品、百万ドルの笑顔とはあの事を言うのでしょう。

病気の話：ゴールのテープと盲腸だけは早く切ってしまった方が良いようです。かく言う私もまだですが……。

コンパの話：壮行会でのジングル・ベルは忘れられませんねえ。あー、おぞましい。

役職の話：持ち前の貫禄と統率力で部を引っぱってこられた兄。主将という大任、そして四年間、本当に御苦労様。

昨年度北大馬術部主将として一年間、本当にごくろうさまでした。兄の底知れないバイタリティ、優れた馬術感覚、ユニークな発想は誰もが認めることだと思います。

ツバメクンとの生活を終え、主将という責任を果たし、以前の兄のような自由奔放な学生生活が始まることと思います。

長屋清隆兄　　工学部

入試合格に始まった一連の奇跡は、卒部と同時にどうやら種切れのようだ。嫌われることはあっても好かれることが少ないけれど、血路を開く俺の武器は頭に血が上った時の意地と醒めた哀しみしかないのだ。命取りになるだろうけれど、一つ事に己れの全てを埋め尽すこのツッパリを逆に唯一の取柄として、新たなる第一歩を踏み出すべく出直すことにしよう。

車に乗っている時の兄が、全て兄の性格をあらわしている様です。バァキャロー、ババアどこに目ぇつけてんだ気をつけろ！　しかし、口ほどになく、車の運転はスムーズでなかなか乗りごこち良かったりして、ライト嬢、兄伴に激しい(?)性格なはずなのに、どこかその波がマッチしていて外見上、非常に緩やかかつ優雅。

あのかわいい顔に秘められたきびしさと優しさを君は、見たことがあるか。

半浦　剛兄

工学部

あはは、わかった。君は気に入った、お若いの……。君は純粋な恋愛を求め、不誠実を軽蔑してまず自分であろうと望む風変りな青年だ……。あらゆる悪魔どもにかけて、あなたは最高を狙っていますね。あはは……

―　メフィストフェレス　―

今更、自己紹介もないと思うんだけれど、だからと言って書かなければ、水野（これはあの僕の尊敬する水野兄（これは言い過ぎかなあ）ではなくあのかわいい僕の水野クンのこと）に凄く悪いし、何といっていいか、こう途方に暮れるという感じなんだけれど、結局は毎年臆面もなく書いている僕の大げさに言えば内面告白というか、努力目標にもなっていると思うのだけれど、こうつまりあの「僕はスズメ派です」なんていうのを、走り出したい程恥ずかしいのを押さえて書くことにします。

僕はオスカー・ワイルドみたいな唯美主義じゃないのだけど、「何か恰好いいって、負けたボクサーが帰って来て、徐にピアノの前にすわり、ショパンを弾く」なんていう中央競馬会のCMに相当共鳴して、猛烈憧れちゃう所があって、自分でもおかしいのだけれどこのことに関して考え込むことがよくあるんだ。しかし何やるにしたって、そこに何か大きな目的とか、飛び抜けた才能とかがなければナンセンスだと思うんだけれど、ここであっさり告白すると、僕は、良く言えば自負と言うか、悪く言えばある種の優越感でもって支えられているんじゃないかと極普通に自分を観察しているんだけど、一方では又、このかわいい剛クンを相当猛烈に嫌悪して、そして僕が他でもない僕だと気が付くと、相当のっぴきならない気分に陥ったりするんだ。もう「舌を噛んで」「犬死」だ。

今回は蕉クン風に書いてみました。どうでしたか。でもやっぱり漱石は凄いですね。恥かしいけど四年目の半浦でした。

まず行き先を決めたら、あとは淡々とただひたすらに、一歩一歩自分の足元をみつめつつ、着実に進んでいく。ヒョルことなく（時に例外あり）、イキガルことなく、常にマイペース。堅実派、性格これすべて、馬上にも表われているようである。ただ、馬上ではもう少し、前を見るようにするといいのだが……

橋を作るのが夢とかで、現在土木で勉強中。将来、彼の設計した橋を渡るときはどこかに手抜きがないかどうか安全を確かめてからにしよう。（これは彼の野外障碍の作り方から察してのこと）

愛車ダイハッコンソルテを走らせ工学部へ通われる兄はどう見ても〝一般の大学生〟です。ひとめ見れば〝あっこりゃ馬術部員だ〟と分かる程に馬色に染まっている馬術部の中に四年間もおられて、今だに〝一般の大学生〟でいられるというのですから驚かされます。

半浦さんは何と言ってもあの笑い方。「アッハッハッハッ」と笑いとばす声は、コンパの騒々しさの中でも、部室の外からでも、ちょっと聞いただけで〝あ、半浦さんが笑ってる〟と分かるのです。これほど大らかに笑える人はちょっといないのではないでしょうか。

本城敬文兄　　獣医学部

性別　男
年齢　22才（53年3月26日現在）
生年月日　昭和30年4月26日
星座　雄牛座
身長　162㎝
体重　52㎏
特技　四年で卒業すること
秘技　電燈をつけたままこたつで眼を開けてて眠ること
妙技　眠りながら歩くこと
念願　山本君より先に彼女を連れてユーハイムでバームクーヘンアラモードを食べること
懇願　部報の原稿を一番遅く出すこと
悲願　大学院に5点差で合格すること
祈願　獣医師国家試験で外科学講座の中ではトップで合格すること
趣味　かくこと（絵を）
興味　すること（墨を）
価格　未婚の美女（20～25歳）には無料進呈
注意　逃げられても当方は責任を負いかねます。

エリート街道真しぐらの兄は、卒部＝卒業を成し遂げた数少い「天才」の一人。現役当時は夜遅くまで獣医学部で勉強し、そのまま練習に出て、終わったら授業へ行くという生活をし、また、下級生の合宿のトレーニングには自主参加して、人一倍はりきるという「超人」でもある。中央競馬会へ就職も内定し、身体にはちょっと大きめのセリカLBに乗る兄の姿を見るのもあとわずか。

何故か、コワイ。何故か得体の知れない怪物みたいな人。ギャオー！目に入れても痛くない様な可愛いがり様の疾君とお別れし、水野兄を追い中央競馬会へ出陣。イイナイイナーと皆から言われる兄の顔は笑顔いっぱい。ほんとイイナ。一生お馬さんのそばに居れるんだもん。

山本裕介兄　　農学部

自己紹介も、毎年、しかも四回目となるとマンネリ化して、どうもいやな物であるが、それはとりもなおさず、四年間何も進歩していない証拠である。最近では、自分よりは他人の方が、よく知っていると思うほど、それ以上深みのない人間になった様な気がする。かと言って他己紹介を当てにするとろくなことを書かれないので、やはり自分で書いた方がよいと思う。

酒飲みで、粗野で、単純で根性が悪く、難かしいことは言えないで冗談ばかり言いながら、ただ馬に乗っているだけの男。昼間は、学校に行っても、すぐ帰って来る。夜は、テレビばかり見ている。極たまに、みんながハッとする様に、苦労してまじめな事を言ったりして名誉挽回を図ろうとするが、虚しいあがきになる。

やはり、自分で書いてもろくな事しか書けないのでこの辺でやめた方がいい。ただ救いは、よくかぜをひくことである。

四年間御苦労様でした。

馬術に関しては不言実行の典型みたいで、理屈をこねるより先に体で覚えるという感じ。柔道で鍛えた足腰を、エムにしごかれて更に修練を積まれ、その騎座の堅固なること部内随一でした。鍛えられた分のお返しとしてかエムの調教には随分と尽力され、絶大なるお骨折りを頂きました。御蔭さまでエムも立派に男(?)を上げました。

最近は頓にお酒に弱くなられ、お年を召されたせいなのか気掛りなのですが、その代わりといっちゃあ変ですけれど札幌コマなどの出し物には精通しておられ、白黒ショーがどうのとか相撲取りがこうのなどという私共にはとんと見当のつかぬ分野では第一人者であられます。

四年間の変遷

一年目　その本来の性質を隠してむっつりし、目立った行動をとらない。

二年目　弥永家の影響か、本性を表わし出す。酒にひたり、陽気になり、バカなことを言うようになる。

三年目　再びその本性をおし隠し、むっつりした壁の中に入る。威厳を保つためにおかしなことも言えず、苦しむ。

四年目　壁の中からそろそろはい出して陽気な笑い顔を見せるようになったが、その本性は、用心深く、徐々にしか表わさない。

お酒も飲めなくなったし（本人が言うには）、暴れなくなったし、貫禄もついたし、逞しくなったし、歳をとりましたネエ。そろそろアカデミックになってもいい頃かなあ。

山川　恵姉

農学部

北大馬術学校に入学して早四年が過ぎようとしています。早いもので、学校の勉学及び実習に励んでいるうちに、時は矢のように過ぎ、今ふと立ち止まってみるとまわりは馬の臭いのしみついたものばかり。おまけに筋骨隆々、逞ましく、なりふり構わず、果ては男と間違えられることも日常茶飯事。これで良かったのだろうかなどと思ってみても既に遅く、さりとてこの先、懐しい臭いから遠ざかれば空白の時が待っているようでもあるし、などと思い悩んでないでとにかく卒業しなければ。

山川兄、としないのが不思議なくらい、いつまでたっても男と間違えられ、可哀そうな気がするのですが、御本人は傷つく風もなく、気にしているのはどうやら周りの人間だけのようです。

それでも御自分の思考回路をコントロールするのはなかなか盛ならないらしくて、あのおっきな手足同様持て余しておられる様です。馬術部における女子部員の地位向上のため、解放運動の旗手として日夜努力されました。これに賭ける情熱というかド根性は見上げたものであるばかりかこちらが恐怖の念に駆られるほど。姉から慮るに、ウーマンリブの闘士ってのはどうも男性ホルモン過多の傾向があるのではないでしょうか。

がしかし内に秘めたる優しさと微妙に揺れ動く女心をお持ちなのは確かです。でも姉が今よりなまめかしく色っぽくなったとしたら、どんな人かな、なんて余計な想像するだけで背筋に冷たいものが走るのです。

やっぱり姉は今の盛が一番いいのかしらん。

湘南の実豊かな太陽と大地に育まれたモルトを、北の地札幌で馬糞と伴に四年程かけて熟成をまちます。
湘南の大らかな味と、北国の冬を偲わせる引き締ったあと味の創り出す見事な味わい。馬糞のエッセンスの醸しだす、親しみのある芳醇な香り。そして素晴らしい琥珀の色。
味・香・色の三拍子そろったウイスキーの極めつけ。サンリバーウイスキーより自信をもって新発売「THE YAMAKAWA」。
あなたも酔ってみませんか……。

笠間亭子姉

農学部

四年間の部生活、思い出がいっぱい。
自分らしさを見失なわず、馬術部の教えを忘れないようにしたいと思います。

ころころりん　ころころりん
でもさわるといたいよ　とげがある
ころころりん　ころころりん
でも笑っておしゃべり　うるさいよ
ころころりん　ころころりん
でもほらそのうち　ふくれるよ
ぷりぷりりん　ぷりぷりりん
ころされないうち　消えましょね

姉も女性部員の例外に洩れることなく、とても頑張り屋です。小柄でちょっと太めの姉の騎乗姿は、まさに全身を、頭と体を駆使して乗っていて、とても爽やかです。普段の姉は勝ち気な割に控えめなところもあり、何と言っても、良い意味で怖くない人です。卒部しても、あまり変わられるとは思いませんが、もう汚れた姿も見ることがないんですね。四年間じっとボロの間に埋もれていた宝石がやっと日の目を見るんですね。本当に御苦労様でした。

浪内陽子姉

北大看護学校

可愛いい馬達の居る北大ともお別れし、四月から新規一転、一生設計パートIを、進んでゆく予定であります。皆々様の第一子、第二子の御誕生の際には、是非お手伝いに参じる覚悟で御座居ます。
とてもたよりになるお姉さまです。野郎の多い我クラブに於いていろいろと面倒を見て下さる姉は、とても貴重な方だと思います。北大看護学校を修業なされるため、本年度で卒部されるそうですがとても残念です。これからも、看護学を勉強なさるようですが、しっかりがんばって下さい。でもこれからも時々差し入れを、お願いします。
姉は残念ながら、今年卒部されてしまいます。最近は看護学校の勉強が忙しく、コンパの席で、その姿を見られるだけとなってしまいました。酒豪である姉も、今は、控え目に、上品にふるまってお

られます。やさしくて、たくましくて、子ネコちゃんのような方です。きっとおもしろくて、患者のよい話し相手となる、すばらしい白衣の天使になられるでしょう。故郷網走で、馬に騎って診察をするという夢を実現させるべく、がんばって下さい。お世話になりました。

現役部員の部

三好功悦兄　三年目

僕の他己紹介を、こそばゆい気持ちで読んで、ニヤニヤしている僕を想像するとオゾマシクなる。

僕は、僕自身によってしか表現できないはずなんだがなあ……。

身長　一七一センチメートル
体重　六四キログラム（ベスト六二キログラム）
座高　八六センチメートル（高校三年の時……参考記録）
童顔、酒好き、煙草、目下断煙中
とりえ　声が大きいこと、早めし

花の文化から主将に栄転(?)した兄です。今年の活躍が期待されています。全日学団体二位のあとだけにその荷は重いかもしれませんががんばってください。どちらかというと理論派という感じがします。馬に対する思いやりは非常に深いものがあります。あとは矢田兄のような豪快さが加わればたのもしいかぎりです。去年は黒ブチからメタルフレームに換え、さらに最近健太郎カットにしまして、着々とイメージチェンジをはかっています。兄の大ぐい、早ぐいは定評があります。かまの中の飯の残りぐあいと自分のどんぶり、他人のどんぶりを見くらべながら常に一番先におかわりすることを目ざしているようです。来年というか、今年も北楽院の調教にあたられるようですが、がんばってください。

主将になられてから責任感が増し、自分に対しても厳しくなられたようです。感情はきめ細かく奥深く……などと、ここで下級生が褒めあげると、その丸い顔全体を崩し、嬉しくてしようがないという表情を素直に表わす人です。

岩田正勝兄　三年日

昔、手相を見てもらったら、三十代にして没すると言われた。なんでも、生命線が途中で切れているそうである。もちろん、こんな事はそう簡単には信じられない。だが、どこかで気になる。頭の底の方に沈んでいる感じがする。こういう人は、当たりっこないとは思っていても、占ってもらうのは避けた方が良い。偶然の出来事がその予兆であると思ったが最後、頭の中が占いに占領されてしまう。それにしても、三十代で人生を終わるというのは、気楽な事でもある。特にB型人間にとっては。とにかく、気楽さに真面目に取り組んでみたいと思う。自分には、世間一般の常識的人生は送れそうも

ないし、そうしたいとも思わない。いわゆる自由人が理想なのである。

元気なハイエイムで馬場を走り回った、これ又元気な岩田兄も今年はもう最上級生です。兄の一年の時からの変遷を思い浮かべると何とも微笑を禁じ得ません。最近は恰好いいですよ、本当に、お酒を飲まなければ。今年は天ちゃんともども、皆が期待しています。頑張って下さい。

兄は心やさしいおにいさんであるが、反面、酔うとサディストに変身する。飲んでいてニターと笑い出したら気をつけたほうがいい。何をやりだすかわかったもんじゃない。

兄は教養が好きらしく、もう三年も教養に通っており、僕らにとって心安まる存在ではあるが、クラブのお目付役、副将として気のおけない存在でもある。

最近、血液型による性格判断にこっていて話では兄はB型の典型なのだそうだ。この世の中が全部B型の人間だけになったら、さぞおもしろい世の中になるだろうが、3日もすれば地球は破滅するにちがいない。兄の生活状態を見ていたらそうとしか思えない。

中畠孝幸兄　三年目

部員としての立場や意識などは何層にも積み重ねられて、一年前とは大きく違っているのですが、その他の部分は全く団子になってしまっているのが、少し気がかりな点です。

ああ　あああ、なんとなんとななんというおひとよし、所謂、やさしいだんなさん。自分にはけっこうきびしいくせに、他人には言えない。ほらほら、笑ってないで、発散しなさいよ。いきいきと！

兄はクラブの大黒柱です。いつも忙しく走り回り、主務の仕事を全うされる兄には、本当に頭が下がります。

部報の広告取りも、持ち前の足と仕事に燃える情熱で、予想以上にたくさん取っていただきました。

兄の思いやりは誰もがわかっているでしょう。一番知っているのは、羊蹄なんでしょうね。

木村憲子姉　三年目

二十一才。昨年の自己紹介から一つ齢を重ねました。一年間でもう少し変わっていたら、書きようもあると思うのですが。

過去を振り返ることも、未来を見つめることも出来ずに、現在を模索するのに精一杯です。

馬上に於ても、当番や作業に於ても、男子諸兄に優るとも劣らない勇姿を見せてくれるのが木村姉です。そして何よりも、馬と接する時の、暖かく包みこむような愛情は誰にも負けないのではないで

しょうか。最上級生となられ、ますます御活躍なされることと信じています。

「木村さーん！」
「はあーい。何？」
「これ。」
「キャーー！」

忘れたころにやってくるこの事件。「これ。」とは、おそらくハ虫類か何かの類いかとお思いになるであろうが、否、毎朝会っている友達のハトである。重度の鳥恐怖症。人間でも、これほど馴致できない物があるのだから、馬にもあまり無理は言えないなあと思ったりする。

彼女は、ニコニコしていた方がいい。まじめな顔で、こちらの騎乗ぶりをじっと見つめる目は、皮肉にも、タカの様に鋭く、大きくにらまれた方は、思わず緊張してしまう。最近、下級生には、怖いお姉さんになりつつあると言われ、先輩もきついことを言われる様だ。頼もしいことは頼もしい。でもやっぱり、ニコニコしたやさしい彼女の方がいい。馬に乗る時も、ニコニコしようと思えばいつでも出来るくらいの余裕を持って。余裕と言えば、その長い足を充分生かして頑張って欲しい。

国枝保幸兄　二年目

最近、暇に任せて寝てばかりいるせいでしょうか。思考する事が全くないと言おうか、頭の中がからっぽと言おうか、こうやって原稿を前にして自分のインテリジェンスを示そうと苦悶しているにもかかわらず浮かぶのは痴的なことばかりで「おかしひな」と思って頭を叩いてみても「ポコポコ」と頼りない音がしています。

しかし、どうもクラブにおいて僕という人間はかなり誤解されているのではないかという気もするので、こんな事を書くと、また、誤解が六解七階になってしまいそうですが、誤解だろうが地下一階だろうが、気にしないたちなので、これを以って自己紹介に変えさせていただきたいと思います。

原稿を、出して今日からグッスリ睡眠。おやしゅみ。

国枝保幸の一部的分析

外見　その髪型は、ある時謎の小栗さんの頭、
　　ある時アヒルのまことちゃんの頭。
　　その顔は、医進に共通のあの理性とか知性とかいうもののまったくうかがえないという感じ。
頭脳　どうして医進へ行けたのかと思うようなぼんくら頭。
趣味　な、なんとクラシック（少し医進らしく見せようとしているのだが役に立たず）。
　　部内では大関か関脇クラス。
酒　ヘビースモーカー、ショートホープ。
タバコ　多少跋行気味。
故障　言えねえ、言えねえ。
鞍数　やさしい奴。
総評

動物好きで、心の優しい人が多いクラブ内において、彼は人一倍優しい心を持つ人でしょう。それは彼の行動の中に現われている。

又感情を露骨に現わすことのない口調からも察せられる。しかしクラブの上級生となりつつ今、優しさに加え厳しさも表面に押し出して行ってほしいものです。

島村　努兄　二年目

二年目の島村です。自己紹介は、去年の部報を参照していただきたいが、若干の訂正をいたします。

最近、クラブにおける責任が増し、毎日が忙しく、のりのつくだにでんぶんだけでは耐えられなくなって来ました。（終わり）

二年目チビッコ軍団の縁の下の力持ちといった人物。地球の重力は、彼が垂直に伸びるのには、強すぎた。さらに、彼の乗った後に乗った者なら必ず感じるある種の窮屈さ。そのためか、よく落ちる。しかし、外見で人を判断してはならない。彼には、そのおとなしさに反し、沈黙の闘士が潜む。今や象牙の塔と化した、かの最北の学部に移った。以外にもその男のエネルギー源は、スプーン一杯のおかずとそれにふさわしくない量のめしである。驚異的消化率。

一見粗野なオッサン的風貌の中には、細やかな感情、美しいものを愛する心が宿って、いわゆるロマンチストらしいが、やはり、彼が思うほど女にもてないのは確かである。でもそれでいい、馬術部員ならば、馬にもてればよいのである。力を落とすな。

いよいよ三年目、今度からは、野菜もどんどん食わなあかんよ。

留年者続出の二年目の内、ただ一人学部移行した。しかも獣医。当然インチキで獣医にはいれたのだが、その方法を明らかにしないところなど陰険である。しかも獣医にはいったのは動物を食べる事が趣味だからで、先日もにわとりの解剖したのを沢山持ってきて、唐揚げにして満足そうな顔をして食べていた。もちろん、馬の去勢したものも、彼の嗜好品の一つである。そんなところなどは、同じ下宿のげてもの食いの山本兄に似てきている。そんな彼でも馬匹としての責任を感じ、馬体管理の為に涙ぐましい努力をしている。臨床では、馬の鼻洗いを唯一の得意とし、今では皆から、先生、先生とよばれ、一人悦に入っているのである。

中島哲彦兄　二年目

折角書くんやから、エエカッコ書きたいと思うけど、エエカッコ書こうと考えると筆が進まぬ。かと言って、普段のまんまを正直に書いてしまうと、恥をさらけ出す様なもの、恐しくって筆は止まってしまう。結局、何を書こうとしても筆は遅々として進まぬ。こまった。こまった。

一見弱々しく見えるのは、下半身に安定を欠くためでしょうか？しかし、実際は、とてもしっかりしていらっしゃるようです。最近は、作業の親分として、シビアにがんばっておられます。兄の友はけむりで、恋人はアルコールであります。作業の後の一杯、当番の後、曳馬のあいまで、一服やるときの兄の顔の満足そうなこと。

お鼻の下のヒゲも笑っているようです。でも、来年は水産の星となる身ですから、飲みすぎ、吸いすぎには注意して下さい。

集まりましたですか、集まりましたですか、集まりましたですかあ。部報の前のみなさんお元気ですか。また他己紹介の時間がやってきましたネエ。今日はムシのお話をしますよお。みなさんムシって知ってますか。そう中島君のこですね。汚くていつも隅でゴソゴソしているからそう言われているんですよ。ムシというよりゴキブリって感じですネエ。やあですねエ。それからクラブで一番チビだって事知ってましたかあ。顔にだまされちゃあだめですよ。ヒゲをはやしてじじいの顔してますけどねエ。それからね、今年函館へ行くつもりでいるんですよお。函館イコールキャバレーと思っている人が学部へ行くなんておそろしいですねエ。でもみなさん。安心してください。実は数学があるかぎり中島君は函館に行けないんです。あっもう時間が来ちゃいましたね。それじゃあみなさん、来年までお元気で。さよおならあ。

成田慎二兄　二年目

ボクしんちゃん、二十才。学校にもいかず、練習→生協→喫茶店→曳き馬・手入れ→テレビという『恐怖のワンパターン』で日々をすごしている男。いつも何かをしなければと思うが……今年もだめかな？

いつもニコニコと笑顔を絶やさず、ハッラッとして走り回り、いつも体を動かして、〝僕は強い子頑張るゾ〟……といったイメージがあります。他人に対してはやさしくて、思いやりがあって、自分に対しては真面目で意志が強そうに思えるのですが、そんな兄でも講義にはあまり出席なさらないとか？。

体操の時、髪をふり乱して体を動かすのがとても印象的で、今にも〝ウーウォンテッド〟が出るんじゃないかと思いながら見ています。

自称　ピンクレディーの研究家兼料理研究家
後望的判断　ボーイッシュな女の子
前望的判断　かわいい女
解望的判断　おぞましきタマタマ

西川理一兄　二年目

かっこよくしようとおもっても
どうしようもなくどんくさく、
純粋でありたいと思っても
どこかに打算があって、
強く生きようとしても
自分に負けてしまい、
自分のやりたいことをやろうと思っても
どこかで無理をしてて、

そんな自分がいやなようで、しょうもないと思ったりもするが、それでもやっぱり、一番自分を好いているのは自分なんだろうなと思ったりもして……。

それほど、お酒が強いとは思えないのに、事あるごとに、飲まれるようです。後輩に対する思いやりには大なるものがあって、良く我々、一年目に酒を御馳走してくれます。しかし、フトコロが気にならない程度でよした方が良いのでは？　でもまた、そこが兄の良い所でもあるのです。（ほらほら、今も、某君が「西川さん、お酒飲みに行きませんか」なんて、言ってますよ。）

シーズン最盛期における、全治六ケ月の怪我。秋から冬への三ケ月間は馬に触れることもほとんど無かった様子で、部室で顔を見ることも少なく、一時はどうなるかと蔭ながら心配していました。けれど、それも余計な心配であったらしく、動けない分知識を増やそうと頑張っているようです。

吉田　円姉　　二年目

たまに会う知人からの挨拶は、皆示し合せたかのように「健康そうね」喜ぶべきか悲しむべきかは別として、これもみな馬術部の御蔭であります。

クラブの生活と行事に、半分溺れながら押し流されて、もう二年が経とうとしています。そろそろ自分で泳ぐことを憶えなければならないなと感じています。

二年目の紅一点。なかなかの根性ウーマンである。鞍数では、二年目で一、二位を争っている。夕方の手入れにも毎日のように来るが、たいてい早目に来て、さっさと帰る癖があった。しかし、最近はガキを相手に遅くまでねばっている。。留年することになったが獣医への移行は決定的であるようだ。まさに才女といえよう。しかし、この女、料理、裁縫できるのかねえ。ゴメンして。

彼女のしんの強さたるや、馬術部といえどそうざらにいるものではない。内に秘めたる強さといおうか……。試合になっても全然あがらないらしい。うらやましい限り。男性諸君、少し見習ったら？

石黒直秀兄　　一年目

ちょっとうつむき加減で、とりとめのない考え事でもしながら、力なくトボトボと歩くことをこよなく愛する人間です。

机の前に座ることに恐怖を覚え、ふとんの中に寝ていることに限りなき安らぎを見いだすことのできる人間です。

ちょっとニヒルで物静かで冷たくて寂しげな近よりがたいほどかっこいい人間を目指しているのですが、時としてパンツをうしろまえにはいていたりもする人間でもあります。

デカイ体に似あわず、クリクリとした瞳と、ブアツイ唇にとても愛嬌のある彼、工学部土木工学科3年で入部してきた1年目です。
日の丸のジャンパーを着て350ccのオートバイにまたがる暴走族かと思うと、日高の実験牧場で鶴宗に惚れ、北日本で金太郎に不倫の恋をし、そして満たされぬ思いをハイエイムになぐさめてもらっているという、太目好きの青年です。

工学部三年目。それでいて馬術部の一年目。寝起きの悪いやつ。何故大学三年目にして、馬術部に入部したのか。その経緯、良くは知らぬが、何かしらの動機と決意が有った筈。
決意というものを大切に……。

北畑　裕兄　一年目

自己紹介と言っても何を書いたらいいのか全く分らない。何も書くことがないように思える。でも何か書かなくてはと思いつ、ペンを走らせる。正確に紹介できることは、生年月日、出身地、性別、年齢等のたぐいしかない。でも今更こんな事は皆知ってるだろうから書かないことにする。書いても意味ない。他の人ならここで色々とほかに書けることがあるのだろうが私にはない。そう私自身、私が全く見当つかないから、結局何の意味もない自己紹介でした。

馬事公苑に彼にそっくりな馬がいるという
同じようにくちゃくちゃな髪をしたポニーだという
馬が彼に似たのだという
彼が馬に似たんだともいう

部室から歩いて一分
長屋兄と同じ屋根の下
その生活の実体は不明だが
長屋兄とどっこいどっこいかもしれない
だが
クラブに対しての態度はかなり違いますぞ
北畑君

酒を飲めば一段と周りを楽しくさせます。時には暴れることもあるようですが……。たばこもかなり吸います。体にはよくない事をわかっているのでしょうが……。
最近、下宿が最大限馬場に近い山田荘に移りました。兄の馬術に対する意気込みなのでしょうか。
加藤周一や純文学に対する熱心さを馬術にも期待しております。

篠田聖児兄　一年目

とれた所　長野県の山の中
とれた日　昭和33年12月6日
性別　牡
大きさ　一七二センチメートル

重さ　五三キログラム
性格　きわめておとなしく、かんだりけったりすることは決してない。えさを与えると大いによろこぶ。
ぼくのすきなもの　おうまさん・でんしゃ・じてんしゃ・ゆきいぬ・ねこ・こたつ・みかん・すし・みそしる・ふじさん

水泳をやっていたそのからだの細さと色の白さは、一年間馬術部にいても変わらないようです。地味な格好をしていますが、なかなか内面は若々しさを持ちあわせているようです。そのファイトで、がんばって下さい。

篠田君の一つの特徴は、何といってもその容貌でしょう。
しかし、この恐ろしい事実をありのままに記述することは、世間に対して多大なる御迷惑をかけるかもしれないし、また、彼にとっても改めて自分のことを知らせることは、むごいことだし、とっても優しい僕としてもやっぱりできません。どうぞ、お許し下さい。
また、彼のもう一つの特徴は、その行動でしょう。
悪く言えば、どんくさく、良く言っても、どんくさいのであります。彼が何かをやって笑わそうとすると、しらけ鳥が南の空へ飛んで行くし、まじめに何かをするとそれが面白かったりするのです。
それは、今年の成人の日、一月十五日の事でした。
彼は目出たく、成人式を迎えました。そして、彼はうれしくてしかたがなく、そこに売っていた福袋を買いました。
さて、皆さん、その袋の中に何が入っていたと思いますか？
一つは、おいしい、おいしい、甘ーいチョコレート。
もう一つは、女性用の化粧品（さあ、雰囲気がおかしくなって来ました）。
そして、最後の品物がいよいよ登場しました。さて、一体何でしょう？　あっ、あれは、〇〇〇ナプキンじゃありませんか。
彼は平然を装って、一体どうしたらいいんだろうと、困っていました。
それからのことは僕も知りません。
お母さん、篠田のあの〇〇〇ナプキン一体どこへ行ったんでしょうね。そう、成人の日に買った福袋の中に入っていたあれですよ。

丹羽岳人兄　一年目

「二十才になったら、煙草をやめよう」と固く固く誓った筈が、いつの間にやら（本当はたったの三日）またスパスパ。軟弱！

PART1　BOYS　BE　AMBITIOUS
「北海道へ行こう」

PART2　BE　AMBITIOUS　BOYS
「何て寒さだ。帰省する日が待ち遠しい」

理想と現実の歯車が、かみ合わず、人知れず悶々としている僕。
しかし、「今にみておれ、俺だって」と思いつつ、北国の地で今日もうごめいている次第であります。

丹羽兄は、一見回りの事を気にしないで生きている鈍感な人間、他の人とも打ちとけにくく常に一定の距離をもって接している。しかし彼は鈍感ではなく繊細でかつ優しい心の持ち主である。クラブで飼っている動物に暇を見つけてはえさをやっている兄です。でも馬という動物に対しては、ときどきえさをやるのを忘れるのがタマにキズ。

一見豪の者、実は軟そのもの。
顔を見れば「牛」あるいは「ヘレフォード」という愛称に、よく表現されているようにいかついのですが……。
せめて、合宿のマラソンでは、女の子に負けないように頑張って下さい。

高橋　均兄　一年目

自己ヲ批判スル事ハ、実ニツライコトデアル。モシ自己ヲ賞賛シヨウモノナラ、世間ノ非難ガ集中スル。ダカラ、アエテ自分ノ責メラレルベキ事ヲ（本当ハナイノダガ）書クコトニシヨウ。
私ハ何事ニオイテモイイカゲンデアル。イヤソンナコトハナイダロウト思ウ人ガ多イハズダ。人ニハソウ思ハセルトコロナド要領ガイイノデアル。ズルガシコイノデアル。作業ハマジメニヤラナイ。馬ノ手入レハ手ヲヌク。馬ガ指示ニ従ワナイトキハ馬ノセイニスル。言ウコトダケハ一人前ダガ、実際ニハタイシタコトハナイ。北大ニ来テカラカゼモヒカナイ。（ツマリ　バカカ）アア　ウソヲツク、ノハツライ。

兄は、鹿児島大学馬術部に一年在籍し、北大馬術部に移籍して来た。高校を出てから、何年かかって当大学に来たかは知らないが、みんなから「おじん　おじん」と呼ばれている。少々、めんどうくさがりやであるが、遠く篠路の方から、毎朝がんばって自転車をこいで来た。雪の積もった現在は、部室に泊まっているようだ。兄の顔は、猿のようであり、耳あてをつけた姿は、まるで火星人のようだ。コンバの席では、胸のすくような大口をたたき、顔を赤チンで真赤にさせている。次の日、何くわぬ顔をして競馬場へ行き、大衆の面前に、その顔をさらしたとか。
おじん、がんばろう。その大口を実現させるために。全日学優勝に向けて。

私は兄の英断、勇気を高く評価します。最近の「判断中止」の風潮の中にあって立派です。しかし、英断勇気は一時的な力の発揮です。これからは持続的な力の発揮を多とすることを望みます。あなたは絶対に最後まで続く人だと考えます。頑張って下さい。

松岡　功兄　一年目

馬に惚れ、夢と希望をいだいて、南国徳島から、はるばる北海道までやってきました。この続きは、また来年書くつもりです。みなさん、ご期待ください。では、来年まで、さようなら。

一見ナイーブな横顔をしているが、コンパの席で希に見せる眼光の鋭さには、高校時代に柔道をやっていた事を漂わせるものがある。現役部員では唯一の競馬狂で、下宿もわざわざ競馬場の近くにしたという貴重な存在。

純少年風少年。顔は丸く、体つきも丸く、声も丸く、ことばも丸い。などというと丸丸人間になってしまうが、とにかく純少年風少年なのである。野暮な大人のゴツイところは持ちあわせていない。血の逆昇る青年の域にも達していない。だいたい、彼が荒々しいことばを口にするのはめったにないことだ。そんな少年のくせにイッチョマエに競馬などに手をだして（？）いる。彼は我部の本年度競馬狂なのだ。入部初期、語り合う仲間ができたと、嬉々としていたが、先年度、先々年度の競馬狂が去ってしまった今、彼の口から競馬情報が語られるのもまれになった。松岡君、もうちょっとの辛棒ですよ。春になれば、またきっと競馬狂どもが入ってくるから。

水野哲夫兄　一年目

この場を借りて、果して僕は「頭が堅い」のかどうか自分のできる限りの客観的判断をした結果を発表します。

その一　物理的判断

ヤング率、ポアソン比、剛性率、体積弾性率などの値から見ると、現代人一般人のもつ頭とはたいして差がないようである。落馬をして傷をした事があるというのは、そのよい証明となる。

その二　化学的判断

アルコールに浸しても、新聞を読むことはできる。つまり、化学的には強い。すなわち堅い。

その三　思考能力判断

これが一番問題となる。ずばり言えば堅い。しかし、本人は「純情」とか「愚直」とかなどのよい言葉でごまかそうとしている。

結論

「堅い」の一語に尽きる。最後に、頭の堅さを気にしながら、明るさを装っている水野君をそおっとして下さる様お願いします。

「ミズノ」という音声、誰もがいろいろな意味でドキッとさせられるのでは。現役部員にとって、現在は、部報委員長兼原稿催促係ミズノクン、いいえ、ミズノサマであります。

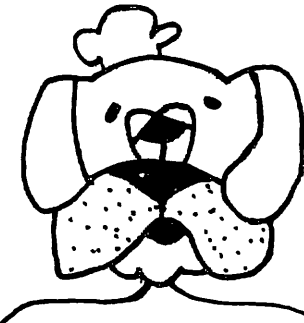
第一印象としては、まじめそうでありますが、中味はどうなのかまだまだ未知の部分が多いようです。かなり頭が固いようですが、肩、肘、拳と同時に柔らかくして下さい。

今は、「部報発行に苦しむ会」会長さんですが、もう少しすれば楽になりますから、それまで頑張って下さい。

ただ今、鬼の部報編集委員長をつとめておりますが、まだ鬼になりきっていない様子。ちょっと吉田姉に似たかわいい(？)丸顔で、他大学の馬術部員（もちろん男）になかなか人気がある。クラブに対しては非常にまじめで、馬術に関して人一倍研究熱心でよく先輩に

質問している姿を見かける。ただし少々考えすぎのきらいがあり、頭の柔軟性に欠けるのが難点である。三年後の全日学団体優勝の選手として期待されている一人である。

ブルドックキッチン



定食各種あり
ボリューム満点
会食もOKよ

北区北17条西3丁目　TEL721-4215

朝刊版　中央競馬会11時発表　中間オッズ掲載！

競馬ブック　中央競馬専門紙

第5回 中山 6

宮城昌康の勝負馬券

第22回 有馬記念（グランプリ）

真の実力日本一は？
晴雨を問わないテンポイント

全国最大のネットワーク

乗用車・外国車・ライトバン
トラック・マイクロバス

ニッポンレンタカー
北海道㈱

札幌営業所　☎741-7645
札幌市北区北6条西3丁目
東札幌営業所　☎812-2509
札幌市白石区東札幌2条1丁目

キャッスル

ボリューム満点の
カツカレーに君も
挑戦してみよう!!

北17条西3丁目

競馬の専門紙
ホース・ニュース

あなたの推理を充実させる

MAYCRAFT

メイ クラフトはオリエントのマーク

馬具総合メーカー

オリエントレザー株式会社　オリエント商事

COFFEE-PRO-SHOP

Hyngry Horse

地下鉄北18条駅前（木村ビル2F）

和洋酒・煙草・食品

川端商店

札幌市北17条西4丁目

TEL 七四二－〇三八八

《広告主への感謝のことば》

このたび、昭和52年度北大馬術部部報発行に際し絶大なる御援助をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げるとともに諸社・諸店の御繁栄を祈り、ここに深く感謝致します。

（北大馬術部）

美しい環境づくりがモービル石油の願いです。

Mobil

焼鳥
みねちゃん

札幌市北区北17条西4丁目　カネサビル1F
TEL 741-0717

喫茶＆軽食
北区 N23 W6

北海道大学馬術部名簿

歴代部長

氏名		住所	郵便番号	電話	勤務先	電話
永井　一夫	初代部長	物故				
高松　正信	第二代部長	物故				
黒沢　亮助	第三代部長	物故				
太秦　康光	第四代部長	札幌市中央区南１条西２１丁目	060	011 621－0781		
松本　久喜	第五代部長	物故				
半沢　道郎	第六代部長	札幌市中央区北６条西１２丁目	060	011 221－2286	北大農学部名誉教授	
河田啓一郎	第七代部長	〃　北区北２４条西１３丁目	065	711－7470	酪農学園大学獣医学部教授	
小池　寿男	現部長	〃　白石区南郷通８の北１４	062	861－1521	北大獣医学部助教授	内5228

特別後援会員

氏名	住所	郵便番号	電話	勤務先	電話
野間口英善	東京都杉並区永福２－３６－１９	166	03 321－7617	太田区羽田空港２の８の１ 東京航空食品㈱　日航ホテル社長 川崎日航ホテル社長	571－4911
滝沢　政雄	東京都目黒区目黒１－１－１６ 目黒台マンションC－３０５	153	493－0741		
原島つる子	札幌市中央区北２条西２７丁目	063	011 621－1451	原島洋装院院長	
庄内　貞夫	〃　白石区白石本通り２丁目北７１番地	062	861－2504	歯科医	

氏　名	住　　所	郵便番号	電　　話	勤　務　先	電　　話
武田　忠幸	札幌市中央区南６条西２０丁目	063	011 561－3286	北都ハイヤー、北都バス社長	711－7214
小野　　忠	〃　北区北１８条西５丁目	065	011 721－1526	北大モータース社長	
片寄　[illegible]	〃　北区北１８条西６丁目　静山荘	065		北大農学部大学院	
佐合　義弘	〃　西区手稲西野４１０番地－５３	063		札幌市民生協協同組合理事	
田中　昭志	〃　中央区北１１条西１８丁目　国鉄AP303－206	060	011 643－2053	札幌鉄道管理局	
岡沢　尹大	（在カナダ）				
柴田　　好	旭川市神楽岡６条５丁目　グリーンビル医学荘２０２号室	078-11	0166 65-5950	旭川医大第三内科	0166 65-2111(代)
大東美奈子	〃　西区八軒８条東５丁目	063	011 711－5262		

後援会員（卒業生）

氏　名	卒業年度	住　　所	郵便番号	電　　話	勤　務　先	電　　話
中野友二郎	昭4　農農	東京都多摩市桜ケ丘３丁目３３の４	192－02	0423 75－8600	日本私学教育研究事務局	
平山　常介	4　工機	横浜市鶴見区獅子ケ谷町１２２２の１９	230	045 572－4208	日本海事業興業	
中谷　勝紀	5　工機	杉並区桃井１－１５－２３	167	370－3450	ヤンマー船舶機器㈱	542－0211
間　　克市	6　農畜	新冠郡新冠町節婦町７１－４	059－24		日高軽種馬共同育成公社 取締役場長	
岩垣　駿夫	6　農農	神奈川県川崎市多摩区生田６９８３－１７３	214	044 96－0297	本州製紙KK　嘱託	
河崎　秋三	6　農畜	八王子市高倉町６２	192			
藤居金太郎	7　農化	（在ブラジル・サンパウロ）			漁業	
永松　四郎	7　農畜	太田区北千束１－５８－９	144	03 717－3484	永松商事	

半沢　道郎	8　理化	札幌市中央区北6条西12丁目	060	011 221−2286	北大農学部名誉教授	
武田　朝男	8　農畜	品川区旗ノ台6−1−2	142	03 781−1097	日本製酪協同組合副理事長	264−8421 〜4
東園　基文 （7　主）	9　農農	目黒区五本木3−30−1	153	711−8877	宮内庁掌典長	400−0451
田畑　武夫	10　医	札幌市中央区南5条西2丁目	060	511−3733	田畑産婦人科医院院長	
植村　勘一	10　農畜	東京都世田ケ谷区等々力2丁目13−11	158	03 701−4826	北東興業KK取締役会長	
本田　桓康	10　工機	〃　港区六本木7−2−2 ファミール六本木402号	106	405−6867	プレス工業KK専務取締役	044 266−2581
久葉　昇	10　農産	岐阜県各務原市那加織田町148	504	0583 82−5632	名古屋保健衛生大学衛生学部教授	
加藤　英夫	11　医	清水市有東坂554−19	424	0543 45−6329		
脇田代子郎	11　農化	神奈川県藤沢市辻堂西海岸6366	251		千代田区丸ノ内三菱ビルデイング 三菱モンサント化成工業KK社長	212−1570
大道　明徳	11　理化	東京都狛江市覚東320−6	182	428−4817	大迫技術士事務所	480−9717
高杉　直幹 （9　主）	11　理化	札幌市中央区北7条西13丁目	060	251−3720	北星大教授	
吉見　一郎	11　農経	東京都狛江市小足立620	182	489−0491	雪印乳業KK常務取締役	357−3111
渋谷　周平	11　農畜	〃　渋谷区代々木1−22−10	151		東京飲用牛乳協会	
森山　武雄	12　医	青森県南津軽郡浪岡町立岩木療養所 弘前市樹木4丁目1〜1	360		国立岩木療養所所長	901−4169
滋賀　秀明 （11主）	12　医	港区白金台5−3−20	108	441−5667	大同製鋼KK東京診療所所長	
小村　達夫	13　農生	岡山市足守861	701−04		岡山大理学部教授	
山下　正亮 （12主）	13　農畜	札幌市白石区本通818の135	062	861−5667	酪農学園大教授	
石井　昌長	13　農化	千葉県船橋市夏見台町夏見台団地14−105	273	0433 62−9785	アルコール海運倉庫KK	
小笠原義顕	13　工電	川崎市多摩区宿河原2223	214	044 822−3609	旭電気工業KK　取締役社長	
樋本　勝登	13　農経	東京都杉並区西荻北2の27の8 ライオンズマンション西荻第2D−608	164	395−3548	中央技能検定協会監事	

氏名	卒業年度	住所	郵便番号	電話	勤務先	電話
松平　梯	13　農農	神奈川県秦野市鶴巻９６３－１８	257	0463 77－2116	成城グリン・プラザ取締役	484－6781
黒沢　良雄	13　農経	鎌ケ谷市道野辺１６－１ 鎌ケ谷グリーンハイツ４８棟４０４号	273－01	0474 43－5147	自動火災海上保険KK顧問	
小田　昇	14　農畜	東京都目黒区上目黒３－４４－１９－２０５	153	424－8666	実業（香澄旅館）	
池内　武夫	14　農畜	物　故				
中尾　敦司	15　工鉱	船橋市西習志野２丁目２３－１０	274		カミタルクKK石巻港工場 取締役工場長	
西村　雅吉（１４主）	15　理化	函館市松蔭町１－３	040	0138 51－1624	北大水産学部教授（水産化学科）函館市港町	41－0131
木谷清喜貞	16　農実	金沢市片町２－２　２０号木谷ビル	920	0762 21－5041	瓦土建（自営）	
石井　和彦（１５主）	16　農畜	鳥取市湖山町北３丁目２５１　RCK－1－201	680		鳥取大農学部教授	
河原　清作	16　工土	物　故				
熊沢　洸	16　農実	札幌市北区北１３条西３丁目 公団北１３条アパート７０１	065	742－0392	小柳商事㈱	
関　義人	16　医	秋田県湯沢市御囲地町４－１８	012		関内科小児科医院	
高木　史朗	16　工鉱	茨城県東茨城郡茨城町大字駒渡１２４４	311－31		波崎高等学校校長	
林　健爾	16　農実	札幌市西区手稲福井４９－１３	063	661－9707	札幌三光印刷㈱	
半沢　宏	16　工機	〃　中央区北６条西１２丁目	060	261－7455	北大工学部教授	内2191
伊関　悦郎	16　工鉱	函館市宮前町２７－１５	040		函館水産高校	
門池　正夫	16　農実	名古屋市千種区丸山町３－２４	464	052 751－6671～2	協和工業㈱社長	052 381－2658(代)
福光　幸彦	17　医	札幌市豊平区平岸２の１５	062	831－8569	福光延寿堂院小児科	
岡田　光夫（１６主）	17　工土	〃　中央区南７条西２２丁目	064	562－2223	熱供給公社	011 241－4401
石川　恒	17　農畜	〃　北区北２４条西１６丁目	065	721－0052	北大獣医学部教授	内5231

白取　善三	17	農実	弘前市大字薬師堂熊本９の２	038－03		津軽平川土地改良区理事長	
小林　五郎	17	工電	神奈川県中郡大磯町東町２の６４	255		沖電気工業KK特殊機器開発部次長	
山根　乙彦	17	農畜	鳥取市湯所町２の４２２	680		鳥取大学農学部教授	
前田　正義	18	農実				雪印乳業名古屋マーガリン工場長	
大戸　進	18	農林	名古屋市南区加福町３－７	457		三井木材KK酒志野工場長	
小池　栄一	18	工土	札幌市南区南３６条西１０丁目	064		㈱日特建設　札幌支店長	
平井　宏和	18	工電	東京都町田市玉川学園８－１８－９	194	0427 26－6231	日本電気衛生通信開発室常務取締役	044 41－1111
安部　孝	19	工電	〃　小金井市貫井北町３－１９－５	184	0423 81－4100	高見沢電気製作所取締役通信機営業部長	
坂井　弘	19	農化	埼玉県鴻巣市東４丁目５１－４１	365	0485 42－6533	農業試験場環境部長	
田口　暢茂	19	医	東京都世田谷区中町２丁目１１－６	158			
稲葉　恵一	19	農化	大阪府高槻市天神町２の１６の１５	569	0726 5－2759	日本油脂KK取締役油化事業部長	
福岡　邦泰	19	農農	札幌郡広島町北進町４－７－３	061－11		道立中央農試副場長	
大手　英夫	19	理化	東京都新宿区西大久保２－２１９	160	365－4523	東邦シートフレームKK	272－2811
岸田幸三郎	20	農化	大阪市東淀川区山口町１４５－１	533	322－6738	自　営	
富塚　治郎	20	農畜	日野市平山２－９－６	191	0425 91－2952	東京都畜産試験場長	0428 31－2171
羽島　栄治	20	工土	横浜市港南区上永谷町４０５８～２０	233	045 844－2861	西武建設常務取締役	03 984－3211
小林　正英	20	農畜	東京都杉並区阿佐ケ谷北３－２６－１０	166	337－3196	東京都経済局農林部畜産課長	212－5111 内2883
木全　幹雄	21	農化	〃　杉並区清水１の６－８	167	03 398－0417	防衛庁武器補給廠副廠長	
山崎　治雄	21	工治	東大阪市西堤６２３　狩勝工業KK	577		狩勝工業KK 大阪市城東区放出町２１７９	
宇津見千之助	21	農畜				印刷業	

氏　名	卒業年度	住　　所	郵便番号	電　　話	勤　務　先	電　　話
上野　新次	22　農農	新潟市関屋金鉢山町53−1　集合公舎24号	951		新潟県教育委員会指導課	
和田　晴	22　農畜	札幌郡広島町高台町3丁目6−1	061−11	467−2815	北海道競馬事務所長	
宮崎　利昭	22　工機	東京都港区高輪1−5−33 パークマンション312	108		三井物産KK 開発本部海外建設部	
武田　祐幸	22　理地	横浜市磯子区洋光台1−28−6	235	045 773−1581	国際航業KK地質部長	262-6221
田之上家久	26　農水	大阪府枚方市招提194の1 牧野ハイム125号	573		日本放射線同位元素協会大阪事務所	
後藤　義英	28　農獣	札幌市中央区円山西町2097	064	621−0962	札幌市環境衛生事業所長	
斉藤　善一	28　農畜	弘前市松原東5丁目8−14	036		弘前大農学部教授	
鈴木　敏夫	28　農畜	虻田郡洞爺村字洞爺町四町内公住	049−58		洞爺高校	
渡植貞一郎	28　農畜	名古屋市昭和区川名山町128 公務員私中住宅3−43	466		名古屋大農学部助教授	
鳶野　保	28　農畜	札幌市豊平区羊ケ丘北農試宿舎G−5	061−01		北海道農業試験場草地開発部第5研究室	851-9141
永井　重翁	28　農獣	石巻市石神町77の3	025	23−4017	雪印乳業KK花巻工場原料課長	
梶谷　晴男	28　農水産	大阪府生野区新今里町4−4−13	544	06 753−0387	三菱商事（嘱託）	0798 33−5008
吉本　正	28　農畜	千葉県松戸市松戸648 千葉大松戸宿舎108	271	0473 65−0465	千葉大園芸学部助教助	0473−63− 1221(内376)
古谷　昌司 （26.27主）	28　農畜	浦和市別所3−38−10	336	0488 61−5073	古谷製菓KK技術部	0488 31−5873
下飯坂　隆	28　農畜	東京都杉並区成田西3−7−12	166	385−3269	日本軽種馬登録協会	429−5101
佐藤　厳	28　農畜	札幌市中央区南16条西8丁目	064	011 511−4772	雪印乳業KK技術研究所札幌研究室	
福島　務	29　医				福島医大産婦人科教授	0245−23− 1111 内360
阿部晃一郎	30　工鉱				住友金属鉱山㈱別子事業所総務課長	
鎌田　正人 （28.29主）	30　農畜獣	浦河郡浦河町西幌別446	057	01462 8-1158	KK鎌田牧場	

田中　浩	30	工治	大阪府東区北浜３大阪神鋼ビル内 神戸製鋼溶接棒技術サービス課	541		神戸製鋼KK	
正富　宏之	30	理動	美唄市東５条南７丁目	072		専修大学美唄農工短大教授	
斉藤　成俊	31	農経				北海道信用農協連電算室長代理	
佐伯　和夫 （旧 石塚）	31	獣	白老郡白老町萩野２３	059－08		昭和工業KK	
大久保利彦 （３０主）	31	獣	物　故				
加藤昌太郎	31	理物	立川市栄町５－２４－１３	190	0425 35－3538	（財団法人）日本総合研究所科学部次長　千代田区平河町２－１６－１５	03－365－ 2371内356 344－3536
加藤　元	31	獣	東京都杉並区久我山３－７－２７	167	334－3536	（北野ビル）ダクタリ動物病院 久我山センター病院長	
千田　哲生	31	獣	〃　世田谷区弦巻５－２６－３－３０２	154	425－3462	中央競馬会競走馬保険研究所研究二課長	429－2311
岡本　洸	31	農生	浦和市針ケ谷４丁目１－２３（３－４０４）	336	0488 33－5824	十条製紙KK東京事業所	
荒川　清	32	経	札幌市中央区界川町４９５	064		札幌トヨタ北区支店	711－7191
桜本　幸人	32	理植	兵庫県津久郡淡路町岩屋神戸大学理学部 岩屋臨海実験所	656－23		神戸大理学部岩屋臨海実験所	
岡部　満雄	32	農畜				北海道総務部審議室	231－4111
斉藤　実	32	経				不二越鋼材工業KK	
宮沢　寛	32	農林産	逗子市山の根３丁目１２－１０	249	0468 71－2487	日本揮発油KK　保全部	045 731－1261
伊藤　亮	33	獣	鳥取県東伯郡赤碕町赤崎１７７９ 鳥取種馬牧場宿舎	689－25			
池田　瓔	33	医薬	札幌市中央区大通西２３丁目　円山ビル６０１	063	621－4251 円山ハウス		
乾　直道	33	理動	藤沢市辻堂新町２丁目４－１２	251	0466 36－9162	癌研究所病理部	418－0111 内472
栗原　康	33	工鉱				通産省貿易振興局経済協力部技術協力課	511－1511
渡辺　俊弘	33	工応化	上尾市大字上字堤下３５９　上尾シラコバト公団アパート１７－４０１	362	0487 71－8640	北炭化成工業KK	
柴田　久男	34	工電	札幌市西区手稲町西野９３７	063	661－8709	北海道電力部火力計画課長	

氏名	卒業年度	住所	郵便番号	電話	勤務先	電話
今田　哲	34　農化	西宮市苦楽園4番町18の16	662		武田薬品KK研究所	
生田　勝一（33主）	34　経	習志野市袖ケ浦3－4－5－202	275	0474 74－5206	読売新聞社千葉支局	
菅原　照雄	34　文哲				毎日新聞社北海道支社	
土井　敦	34　農畜	札幌市西区手稲前田368－30	061－24		ホクレン本所生乳共販課長	251－1905 261－8525
山本　智	34　水	斜里郡小清水町7区	099－36	0152 62－2573	小清水高校	
粟津健太郎	34　水	札幌市西区発寒834	063	661－1092	銀座屋（製パン業）	
村山　哲	34　経	北九州市小倉南区若園1丁目25の22	802		本田技研工業	
樋口　正明（32主）	34　法法	東京都世田谷上馬5－23－8	154	424－9496	東京都衛生局医務部	212－5111 内2582～4
千葉　幹夫	34　獣	〃　世田谷区弦巻5－26－4－206	154	426－1858	中央競馬会馬事公苑教育課長	429－5101
中村　美幸	34　経経	〃　中野区鷺宮6－31－9	165	999－2443		
佐伯　雄二	35　農畜	群馬県館林市大字成島2544　森永住宅31	374		森永乳業KK館林工場	
本橋　幹久	35　農畜	（在サンパウロ）				
奥野　静子（旧片山）	35　文英	札幌市中央区北2条西23丁目	064	611－8414		
小長谷善高	35　水	川崎市中原区丸子天神町73　NHK寮	211	0424 93－0791	NHK	
田中　紀介	35　農林産	静岡県清水市宮代町6	424		富士合板KK研究所	清水 34－1271
長谷川邦夫	35　法法	立川市栄町5－28－1　公社250	190	0425 35－7461	岩崎通信機KK経理部	
門奈　駿	35　医	茅ケ崎市旭ケ丘13－4	253	0467 82－5744	国際興業航空サービス部	281－2341
森本　悌次（34主）	35　農林産	埼玉県北葛飾郡吉川町加藤694	342	0489 95－0951	自営	600－5330
稲垣　修一	36　理化	愛知県知多郡阿久比町白沢みのかけ10の10	470－22		大同製鋼KK	

佐藤　典子 （旧佐藤）	36	医	（在アメリカ）			北大病院第２内科	
高林嬉子代 （旧高階）	36	医	横浜市磯子区岡村町２３８	235	045 751－4431	虎ノ門病院	583－6871
河原　紀夫	36	理地	西宮市天道町２０－１６－３０２	663		アジア航測KK	429－2151
湯浅　正之	36	農畜		274	0474 65－3742	伊藤忠商事KK畜産課	662－5111
吉田　亨	36	工衛	八王子市打越町７１５－２０３	192		高砂熱学工業KK技術企画部課長	251－7121
千葉　祐記 （３６主）	37	農畜	小平市喜平町８６０－1　小平団地２－４－４０９	187		雪印乳業KK販売促進部調査課	357－3111
広岡　暢夫	37	農畜	沖縄県那覇市字楚辺５４ みはらしマンション４０１１	902		全販連	279－0411
森　弘津	37	工精	名古屋市北区辻町２の３６　大隅鉄工所第一寮	462		大隅鉄工製造部生産技術課	
四柳　智久	37	医薬	（米国留学中）			東京大大学院（薬学部）	
木塚　信次	37	農畜	伊勢原市高森６４５－６４０	259－11	043 93－8409	横浜市神奈川保健所食品衛生係	045 891－1921
伊藤　公一	37	医	虻田郡倶知安町北４条東１丁目 倶知安厚生病院	044		倶知安厚生病院	
大場　善明 （３５主）	37	文史	東京都足立区栗原２－６－１４－１０４	123	883－8245	読売新聞広告部	242－1111 内4134
鶴見　好博	37	理化	東京都葛飾区金町５－１９－３	125	600－2186	三菱瓶斯化学KK	600－2131
小島　杏介	37	水	横浜市神奈川区菅田町２８７２	221		淀橋保健所	368－6186
小山　毅	37	教	世田谷区南烏山２－６－８－１０６	157	300－4775	専修大文学部	044 95－71
市川　瑞彦 （３７主）	38	理物	札幌市西区八軒９５　公務員宿舎６１２－51	063	642－9491	北大教養部物理学教室助手	内2691 5427
小出　秀達	38	医	大阪市阿倍野区美章園１－８－２４	545			
宮崎　健	38	文露		222	044 63－2501	夕刊フジ	
玉沢　一晴	38	医薬	埼玉県南埼玉郡白岡町大字上野田１０１３の２	349－02	0488 82－3436	山之内製薬KK中央研究所	460－2171
岡田　征至	38	法	札幌市豊平区西岡１３８－３５　シーアイタウン	062	852-8424	北海道拓殖銀行薄野支店 札幌市中央区南５条西４丁目	521－3121

氏　名	卒業年度	住　　所	郵便番号	電　　話	勤　務　先	電　　話
志水　一允	38　農林産	世田谷区太子１－５－１５－３０８	157		農林省林業試験場	711－5171
清水　　洋	38　農畜	横浜市港南区日野町藤ケ沢５７９１ 藤ケ沢住宅７－１０５	233		農林省畜産局家畜生産専門指導官 東京都千代田区霞ケ関２０１	在オキナワ
原　　重一	38　農農	横浜市戸塚区小管谷町２８０４－５５７		045 891－7526	交通公社調査部	内3575 211－3211
堀川　芳男	38　農畜	東京都中野区上高田２－１６－９	164	385－8685	KKソニーオーディオビデオ取締役	
実吉　峰郎	38　医薬	（在カナダ）	150	461－5550	国立ガンセンター研究所	
新原　輝久	39　理地	東京都北多摩郡狗江町泉１２８４	182		国際航業KK	
中村セツ子 （旧田中）	39　農工	〃　世田谷区奥沢６－２４－１４	158	702－1365	高千穂交易㈱東京支店	
恩田　正臣	39　農畜	群馬県太田市矢田堀１９０	373	0276 37－1152	群馬県農政部畜産課	027288 7又12
横沢喜美子 （旧入江）	39　薬	白糠郡音別町字中音別 630-191	088-01			
小林　則子 （旧寺江）	39　農畜	札幌市東区北３６条東６丁目	065		天使短期大学講師	
高木　佑太	39　農畜				台糖ファイザーKK	
小島　　武	39　医薬	神戸市北区花山台	651－12		鐘ケ淵化学KK	
荒木　伸也	39　水	鎌倉市梶原１４７１ 鎌倉グリーンハイツC３－５０４	247	0467 43－3201		
三浦清一郎	39　教	福岡県宗像郡宗像町赤間７２９　教大宿舎４４４号	811-41		福岡教育大学	09403 2-2381
田村　雅英	39　工合	立川市柏町４－５１－１　柏町団地９－３０６	190	0425 35－1670	小西六写真工業KK日野工場管材課	0425 83－1521
八木　正己 （３８主）	40　理生	札幌市豊平区里塚９５番地１２美里団地	061－01	881－4961	札幌市役所自然保護課	211－2532
野田　行文	40　獣	多摩市諏訪２－１－５－８０３	192－02	0423 73－4894	中外製薬総合研究所	987－7111
大木　誠示	40　理数	埼玉県富士見市関沢３－２－８	354		ユニックKK	
吉田　賢一 （旧御坊田）	40　工治	横浜市港区南大久保５５９－２	233		日本揮発油KK横浜営業所	

守屋　正	40　工精				三菱重工KK相模原製作所	
萩原　雅典	40　経				日立製作所中央研究所	0423 23－1111
滝沢南海雄 （３９主）	40　理植	旭川市北門町２０　２１７２の１７９	070		道立林産試験場	
松永　武彦	40　工電子				日立製作半導体事業部ＩＣ開発部 技師	
水野　佑亮	40　理化	札幌市北区北２３条西１３丁目 南新川公務員宿舎１０－３０１		711－7568	北大結核研究所助手	内5536
横田　肇	40　農化	東京都目黒区五本木２－３７－４	153		明治乳業KK生産部技術課	
菅原　弘	40　農畜				北海道農務部酪農草地課	
大沢　竜子 （旧　牧）	40　薬薬	松本市高官８３９－１	390			
植木　迪子 （旧滝沢）	40　文独文	豊平区北野３７４－１４			北大文学部助手	
松尾　英彦	41　水産	広島県佐伯群五日市町楽々園５－１１－２２ 日魯社宅１０４号	738	0829 22－7919	日魯漁業	0822 92－5322
八木多賀子 （旧八木）	41　文哲	札幌市豊平区里塚９５番地１２	061－01	881－4961		
黒沢　道雄	41　工機	千葉県鎌ケ谷市道野辺１６－１ 鎌ケ谷グリーンハイツ４８－４０４	273－01	0474 43－5147	藤倉電線KK施設本部設備課	
高野　文彰	42　農農	千葉県松戸市松戸1155　コマツマンション201		0473 65－8281	高野ランドスケープ　プラニング ㈱代表取締役	03 208－7405
小栗　紀彦 （４０主）	42　農畜	札幌市北区北２１条西１３丁目 合同宿舎新川住宅５１８－２３	063	741－7335	北大農学部助手	内2576
近藤喜十郎	42　文史	名古屋市中区大須３１－２３	460	052 241－1181	自　営	
高橋　昭夫	42　獣	野付郡別海町西春別駅前西町	088－25		別海農共中西別家畜診療所	
八木沢守正	42　理生	東京都町田市中町３－９－９　協和アパート	194	0427 26－0717	協和醗酵工業㈱東京研究所	
山村　勝	42　農林	山形市緑町４－９－５	990		山形県農林部林務課	
加藤　正昭 （４１主）	42　工衛	帯広市大通り８丁目１０	080		加藤家具店専務	
田中　悼	44　医	浦和市北浦和３－２０－１４　県公社		682－0567		

氏名	卒業年度	住所	郵便番号	電話	勤務先	電話
阿部　勝彦	43　農林				大昭和製紙㈱	
五十嵐　章（42主）	43　法	前橋市古市町418－1	371	0272 53－3150	モービル石油	
池田　統洋	43　工機	埼玉県上尾市二ッ宮705－4	362	0487 74－2051	東京芝浦電気KK原子力技術部プラント技術第一課東京都千代田区霞ガ関3－2－5　霞ガ関ビル4階	581－7311
入江　圭	43　工衛	千葉県成田市成城2-6-13	170	416－7531	都清掃局工事管理部公害対策課	212－5111 内4722
高倉　宏輔	43　獣	千葉県成田市中台3－3/1·4－103	286	0476 27-8522	動物検疫所東京支所天浪検疫所	0476 32-6651
降旗　正忠	43　工電子	船橋市山手2－3－36　菱電アパート2－405	273	0474 31－5320	三菱電機KK宇宙開発担当	
狩野　和子（旧仙波）	43　教	小樽市桂岡町274	047－02			
山本　紘明	43　経	千葉市幕張町5－221　三洋電機幕張荘501	275	0472 72－8135	千葉三洋販売株式会社	0474 32－0321
浜岡　秀洋	43　工機	大阪市寝屋川市東大利6－5　浜明男方	572	0472 21－2509	三洋電機KK	
斉藤　勝雄	44　農機	札幌市澄川12の8	061－21	831－6281	ホクレン農業機械課	
田中　力	44　獣	天塩郡幌延町栄町6番地	098-32		雪印乳業KK	
春田　恭彦（43主）	44　農畜	宮崎市花ケ島町大原2347 日本中央競馬会　宮崎競馬場	880	0985 25－3448	中央競馬会宮崎競馬場	0985 25－3448
村井　弘一	44　農畜				協同飼料㈱関東支店	
山本　進	44　水化	横浜市保土谷仏向町1723　栗田工業相模寮			栗田工業	
寺崎　弘恭	44	大阪府豊中市刀根山町4－7－10	560		大阪大学在学中	
建部　雅子（旧今井）	45　農化	豊平区羊ケ丘1番地 北海道農業試験場宿舎C－7－1		851－5344		
小野　政則	45　農林	堺市桃山台1丁目3番2棟304号	590－01	0542 61－0311	永大産業㈱名古屋出張所	
加藤　公敏	45　理化	福岡県大牟田市上白川町2－308 三井東圧白川アパート6－1－2	837		三井東圧KK	

橋口　庸	45	医					
本田　徹（44主）	45	医	東京都豊島区高田1－1－19	171	03 983－3524		
太田　清澄	46	農農	茨城県土浦市中貴25 日本住宅公団職員住宅3の1号	300		日本住宅公団研究学園都市開発局	
堤　秀世	46	獣医	札幌市北区北27条西11丁目	001	711-3414		
中寺　清久	46	工機	明石市川崎町2－5－305	673		川崎重工KK技術本部制御技術部	
松井　亮（45主）	46	医	石川県金沢市小立野4丁目4－71	920	0762 21－7102	金沢医科大学助手	
今井　敏郎	47	理化	札幌市北区北33条西2丁目　山田方	001		北大理学部大学院生（博士）	
大見　太一	47	文美	福岡県北九州市八幡区久喜町1丁目 陣山2丁目10－29	806		自由業	
梶村　哲世（46主）	47	獣	船橋市二和町157－27	274	0474 48－9218	第一製薬	681－8326 682－8667
中村　慎一	47	水産					
桝井　明	47	工鉱	札幌市北区北20条西7丁目　幌北荘	001		北大大学院博士課程	
田崎　拓明（47主）	48	獣医	鹿児島県曽於郡末吉町岩崎3613	899－86		開　業	
近森　憲助	48	獣医	徳島市八万町下福万123　大一ビル31	770		徳島大学医学部助手	
西村正二郎	48	農林	島根県松江市西川津町1015　野津方	690	0852 21－0592	島根県庁	
横山　豊昭	48	獣医	東京都府中市八幡町3丁目20番地5号	183	0423 62-7244	中央競馬会	03 591－5251
南部　孝一	49	農農化	札幌市東区北26条東9丁目　つるみ荘	065	741－3753	木田製粉	
則近　彰（48主）	49	文独文	岡山県安西町8番地29　教職員住宅306	702	0862 64－7374	勝山高校	
景山　博文（49主）	50	文中文	東京都中野区丸山1－14－8	165	03 388－3305	地方競馬振興会	
吉野　勝之	50	農林学	東京都葛飾区金町5丁目6－11 サニーコーポーA－101	125	608－3584	ヨシモトポール㈱	03 216－5931
相川　宗厳	50	農農	札幌市北区北20条西7丁目　幌北荘	001		北大農学部大学院生	

氏　名	卒業年度	住　　所	郵便番号	電　　話		電　　話
江口　州志	50理高分子	日立市鮎川町６－２０－３　有明寮	316		日立製作所	
佐伯久美子	50　農畜	香川県丸亀市塩屋町８２	763			
則近　和子（旧常田）	50 工応化	岡山県真庭郡勝山町１０９１－３　教職員住宅６号	717			
添田　昌一（５０主）	51 農畜産	滋賀県栗太郡栗東町御園１０２８　東１７棟１０４	520－31	07755 8－2362	栗東トレーニングセンター	07755 8－0512
柴田　　俊	51 理化Ⅱ	札幌市東区北１１条東４丁目　赤城荘	065	711－1640	北大理学部大学院生	
阿部　一哉	51　経済	岩手県一ノ関市弥栄市茄子沢１２３	029－02	019143 －2973	県立一ノ関第一高等学校	01912 3－4311
水野　豊香	51　獣	茨城県稲敷郡美浦村大字信太２－３５０　霞寮	300－04	02988 5－2137	日本中央競馬会 美浦トレセン競争馬診療所	02988 5－2111
本村　洋文	51　農経	愛知県佐多市八幡字荒井１４０の１第１山公荘	479	0562 32－2068	王子コーンスターチKK	05625 5－1161
添田　光子（旧若松）	51　農畜	滋賀県栗太郡栗東町御園1028　東17棟104	520－31	07755 8－2362		
阪上　　泉	51　水産	東京都千代田区飯田橋３－２－５	102			
新野　晶子	51　水産	札幌市西区手稲西野５５５の２１　嵐川方	063	622－2272	北大歯学部技官	
森　　厳	51　水産	函館市中道町９　北大北晨寮	040	0138 52－1160	北大水産学生	
石川　淳子	52理高分子	札幌市北区北２１条西４丁目　佐々木方	001	741－5697	北大理学部学生	
桑田　荘平	52工衛生工	〃　北区北１５条西２丁目　奥村方	001	711－3973	北大工学部大学院生	
佐野　淳之	52 農林学	〃　西区琴似八軒６条東５丁目　三本木方	063	721－4206	北大大学院環境科学研究科ＭＣ１	内 3282
平野　雅裕（５１主）	52　法	〃　中央区南１１条西２３丁目	064	563－0479	北大法学部学生	
横沢　敏夫	52 農農化	〃　北区北２０条西７丁目　幌北荘	001		北大農学部学生	
水井とく子	52 理地物	〃　北区北３２条西９丁目　石神方	001	721－8444	北大理学部大学院生	
笠間　淳子	53 農農化	西宮市泉町１丁目　香枦園マンション１－６０５	663	0798 35－1551	㈱富士昆布	

長屋　清隆	53　工応物	札幌市北区北１８条西６丁目　山田荘	001		北大工学部学生	
半浦　剛	53　工土木	東京都練馬区北町７の１６の３	176		飛島建設	
本城　敬文	53　獣医	東京都世田谷区弦巻５－２８－８　公和寮	154	03 426－4639	日本中央競馬会	
矢田　明 （５２主）	53　農土木	札幌市東区北１６条東１丁目　クラブ荘	065		北大農学部学生	
山川　恵	53　農農	〃　北区北２１条西８丁目　さっぽろハウス	001	741－8515	北大農学部学生	
山本　裕介	53　農畜	〃　北区北１９条西４丁目　弥永方	001	711－1358	北大農学部学生	
浪内　陽子	53　北看	〃　中央区南６条西１７丁目　量明荘2--D	064	563－0532	北海道立衛生学院生	611-0291
藤原　一郎	53　水産	函館市港町２丁目４－８　盛田ＡＰ	041			
児玉　道明	53　水産					

現　役　部　員　名　簿

氏　名	学年	学部学科	現　住　所		帰　省　先
木村　憲子	4	文　文	北３０条西１２丁目	（７５１－６０２１）	同　左
中畠　孝幸	3	文　哲	北２２条西２丁目　協和荘		名寄市西８条北４丁目
三好　功悦	4	文　文	北１５条西３丁目　中村アパート	（７４１－４５４９）	群馬県高崎市下小鳥町３６７－３
国枝　保幸	2	医　進	西区琴似八軒６条東５丁目　三本木方	（７２２－４２０６）	埼玉県戸田市川岸２－５－１２
島村　　努	3	獣　医	北１７条西５丁目　出羽方	（７４１－３４０１）	埼玉県川口市弥平２－１０－１９
中島　哲彦	2	水　産	北２０条西７丁目　幌北荘別館		大阪市住之江区粉洪３－１－３
成田　慎二	2	理　類	北１７条西６丁目　ゆり荘	（７３１－７８０６）	豊平区北野２２７の３０４
西川　理一	2	理　類	北１７条西８丁目　恵迪寮	（７４２－７３３３）	大阪府堺市深井中町３２３
吉田　　円	2	理　類	北１８条西５丁目　明和荘	（７４１－３３６５）	東京都文京区向丘１－６－６
石黒　直秀	4	工　土	北２５条東２丁目　瀬川方	（７１１－３６００）	藤沢市鵠沼藤ケ谷１－３－２７
北畑　　裕	2	理　類	北１８条西６丁目　山田荘		和歌山市和歌浦中２－７－７
篠田　聖児	2	理　類	北５条西９丁目　青年寄宿舎内	（２３１－８７３９）	静岡市北安東５－３６－１７
高橋　　均	2	理　類	北区篠路町大平１８１－２５　ハイデンス鈴木	（７７２－５２２８）	東京都福生市福生９３９－２
松岡　　功	2	理　類	北１５条西１５丁目　天龍荘	（７４２－０９８２）	徳島市不動西町４丁目

水野　哲夫	2	理　類	北１４条東２丁目　泉方	（７４２－７００４）	愛知県海部郡弥富町鍋浦下本田３１

＃　勝手ながら、住所変更等の際には部宛に御連絡下さる様御願い致します。

はなはだ不備ではございますが、お気付きの点がございましたら、御口添えいただければ幸いに存じます。

編集後記

春の訪れとともに部報第23号を発行できることを心からうれしく思っております。この日のために御協力いただきました半沢先生、小池部長、岡田監督を始め数多くの原稿を寄せていただきました諸先輩、忙しい毎日の中で頭を悩まし一日も早く原稿を出そうとして下さった現役部員諸兄姉に深く感謝すると共に、離札間際まで無理して書いていただきました本城兄、笠間姉に深くお詫びいたします。

昭和三十八年から四十五年の離厩まで多くの試合に出場し活躍しました北翔号（愛称チビ）が、昨年十月、伝貧の疑いにより獣医学部で解剖され、その生命と身体を捧げました。ここに、北翔号の冥福を祈り報告いたします。

ところで、明るい話題もお伝えします。四十四年度卒の春田兄、さらに五十一年度卒の添田兄と若松姉が御結婚されました。御祝いの詞を申し上げ、前途の御多幸をお祈りいたします。さらに、五十年度卒の吉野兄に元気な女の子がお産まれになったことも、御目出度いことと存じます。

札幌では、春とは言いながらもこの冬降った大雪が馬場の周りを山となって囲み、雪割合宿はまだかと言わんばかりに待ち受けております。けれども合宿が終れば、新しく一年目が入って来ます。

ついに校正が終了しました。すでに新入部員を迎え、眩しく暖かい陽光を浴びて、活気に満ちた練習に励んでいる今日此頃です。発行が、春の訪れどころか初夏の兆しさえ感じられる程になってしまったのは、校正の遅い私の責任であること記すとともに、深くお詫び申し上げます。

最後に、諸先輩方へ、部報に関して御感想御意見などございましたらお送り下さる様お願いして、筆を置きたいと思います。

（文責・水野）

編集委員
水野哲夫・丹羽岳人　その他一年目

部報　第二十三号
昭和五十三年五月　発行
発行者　北海道大学馬術部
札幌市北区北十七条西六丁目
北大体育会内
TEL（〇一一）七一一―二一一一
内線五五九七
編集者　部報編集委員会
印刷所　北大生協プリント部
非売部

安全・親切・快適

全日空限定乗合・一般観光貸切・一般乗用の

北都交通株式会社

取締役社長　武田忠幸

本　　社　札幌市東区北30条東１丁目
☎代表751-1631

ハイヤー営業所　札幌市西区八軒10条東５丁目
☎代表711-4181

バス営業所　札幌郡広島町字大曲184の８
☎01137-7-3855

貸切バスセンター　札幌市北区北７条西４丁目東センビル
☎代表721-6371